

講座の紹介

中1 国語（光村図書 教科書対応）を受講するみなさんへ

講座の特徴

- 「要点がコンパクトにまとまつた動画」+「確認テスト」なので、スキマ時間での学校の授業の復習や定期テスト対策をするのにオススメです。
- 教科書で学習する内容に対応しています。

講師からのメッセージ

- 国語が生活の基本で、「友達とのコミュニケーション」に大切な表現を学ぶための科目だと思ったら、身近でとても楽しいものになるのではないかと考えています。解いたフリではなく、自分でしっかりと理解するために問題を解く。飲み込んで自分のものにして、国語を伸ばしていきましょう。

今 中 昌 子

山 下 翔 平

それでは、一緒にスタディサプリで学習していきましょう！

テキストの使い方

はじめに

スマートデバイスアプリは、スマホやタブレット、PCを使って動画を見たり問題を解いたりすることができます。テキストを使うと、より学びやすく、理解しやすくなります。テキストはさまざまな使い方ができるので、ぜひ自分に合った使い方をみつけて活用してください。

教科書との対応について

「光村図書 国語」の内容と対応しています。

基本の使い方

ステップ 1 動画を見る



※ 読解の講義は動画を見る前に教科書の本文を読んでおきましょう。

ステップ 2 確認テストを解く

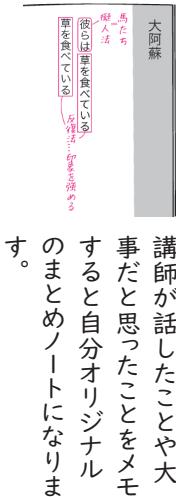


テスト前のオススメの使い方



時間があればテスト範囲の講義を最初から復習しましょう。

テキストはアプリやウェブで問題を解いた後の復習や、テストに近い問題形式に取り組みたい時に活用できます。



講師が話したことや大事だと思ったことをメモすると自分オリジナルのまとめノートになります。

馬一たち
寝人法
彼らは朝食を食べている
車を運んでいる
おもむろに歩く

大阿蘇

各パートの説明

6 いにしえの心にふれる

蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から(2)

古文は言葉を補いながら読む

古文では、主語や助詞がなかつたり省略されてたりする。古文を読むときは言葉を補いながら読むと内容が理解しやすくなる。

(例) : 竹取の翁といふものくありけり。が野山にまじりて…

重要語句

よろづ	いろいろな、何事にも
あやしがる	不思議に思う
いと	とても、たいそう
うつくし	かわいらしい
ゐる	座る

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) 線①「竹取の翁」の説明として適当ではないものを選びなさい。

- ア 野山に分け入つて竹を取つていた。
- イ 竹をいろいろなことに用いていた。
- ウ 名を「さぬきのみやつこ」といった。
- エ ある日、枝が一本光る竹を見つけた。

講義名

教科書の表題に対応しています。

関連する知識や、重要なポイントがまとまっています。

重要語句

教科書本文で出てくる重要語句の意味がまとまっています。
現代文の重要語句一覧は巻末にあります。

確認テスト

動画で説明した内容について問題が出題されます。

解答は別冊で確認できます。

※解説を確認したい場合はアプリでご確認ください。

目次

国語1 目次

文法基礎

言葉に出会うために

野原はうたう

1 学びをひらく

シンシン

漢字1 漢字の組み立てと部首

2 新しい視点で

ダイコンは大きな根?

ちょっと立ち止まって

文法への扉1 言葉のまとめを考えよう

P038

P032

P026

P022

P016

P012

P006

3 言葉に立ち止まる

詩の世界

比喩で広がる言葉の世界

言葉1 指示する語句と接続する語句

4 心の動き

大人になれなかつた弟たちに……

星の花が降るころに

言葉2 方言と共通語

漢字2 漢字の音訓

5 筋道を立てて

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ

音読を楽しもう 大阿蘇

P090

P080

P078

P076

P068

P060

P054

P048

P044

6 いにしえの心にふれる

音読を楽しもう いろは歌
P154

蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から
P152

今に生きる言葉
P148

7 価値を見いだす

「不便」の価値を見つめ直す
P146

文法への扉2 言葉の関係を考えよう
P142

8 自分を見つめる

少年の日の思い出
P130

文法への扉3 単語の性質を見つけよう
P122

隨筆一編
P112

言葉3 さまざまな表現技法
P098

漢字3 漢字の成り立ち
P094

さくらの はなびら
P156

重要語句一覧

文法基礎(1)

単語

単語…言葉として役割をもつ最も小さい単位。

・海岸／は／^{单語}強い／風／が／^{单語}ふく。

※単語にはいろいろな種類がある。

海岸・風 ↓ ものの名前を表す。

強い・ふく ↓ 動作や様子を表す。
は・が ↓ 他の単語に付いて使われる。

自立語と付属語

単語は自立語と付属語の二つに分けられる。

自立語…その単語だけで言葉のイメージが浮かぶ。

付属語…その単語だけでは言葉のイメージが浮かばない。

自立語の例

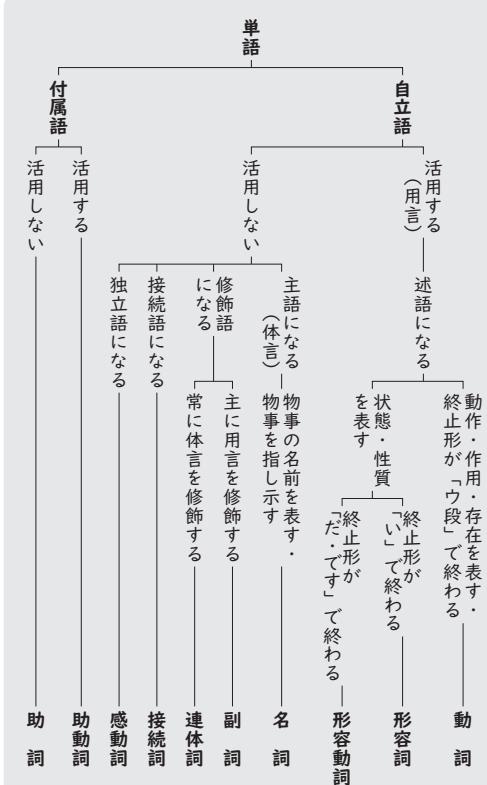
机 ゆっくり 走る もしもし おもしろい きれいだ

付属語の例
を に まで ばかり から ね や

単語を分類したものを品詞という。単語は10種類の品詞に分けられる。



品詞



確認テスト

文法基礎(1)

(1) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。

トンボが空を飛ぶ。

斜線(／)

(2) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。

山に激しい雨が降る。

(3) 次の中から、ものの名前を表す単語を選びなさい。

ア 痛い イ 静かだ ウ 転ぶ エ 富士山

〔〕

- (4) 次の中から、動作を表す単語を選びなさい。
- ア 泳ぐ イ りんご ウ りっぱだ エ 海

〔〕

(5) 次の中から、——線部が自立語のものを選びなさい。

ア 船はゆっくり動いている。

イ 公園まで歩いていく。

ウ 今日もいそがしい。

エ 早く帰ってきてね。

(6) 次の中から、——線部が付属語のものを選びなさい。

ア 部屋は真っ暗だった。
イ 私の兄は高校生です。
ウ 赤いバラが美しい。

エ 駅まで買い物に行く。

〔〕

(7) 次の文に含まれる自立語を選びなさい。

犬が僕に向かってほえた。

〔〕

ア 犬 イ に ウ て エ た

〔〕

(8) 次の文に含まれる付属語を選びなさい。

弟は母の横におとなしく座った。

ア 弟 イ の ウ 横 エ おとなしく

〔〕

文法基礎(2)

自立語の品詞

自立語は、次の8種類の品詞に分けられる。

動詞・形容詞・形容動詞・名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞

※用言・体言

用言…自立語で、活用し、単独で述語になれるもの。

体言…自立語で、活用せず、主語になれるもの。

用言には、動詞・形容詞・形容動詞が、体言には名詞が含まれる。

用言

動詞…動作・作用・存在を表す。言い切りは「**い**」。

(例) 字を書く。 友達と話す。 虫がいる。

形容詞…状態・性質を表す。言い切りは「**い**」。

(例) 紅葉が美しい。 波が荒い。 将棋が強い。

形容動詞…状態・性質を表す。言い切りは「**だ**・**です**」。

(例) 自然がきれいだ。 図書館は静かです。

文中で、言葉の組み合わせに応じて単語の形が変化することを**活用**という。用言（動詞・形容詞・形容動詞）は活用する。

活用

(例) 動詞の活用……話す ↓ 話さない・話した・話せば

形容詞の活用……強い ↓ 強かつた・強くない

形容動詞の活用……簡単だ ↓ 簡單だつた・簡単でない

体言

名詞…物事の名前を表す。活用しない。

(例) 机がきれいだ。 図書館は静かです。

クイズをしよう。

その他の中立語

副詞…主に用言を修飾する。活用しない。

(例) そつと歩く。とてもきれいだ。まるで海のような広さだ。

今日、私は友達と遊んだ。

連体詞…体言（名詞）だけを修飾する。活用しない。

(例) この本がほしい。大きなおにぎりを食べる。

接続詞…前後の文や語をつなぐ。活用しない。

(例) 風邪をひいた。だから、学校を休んだ。

- (3) 次の中から形容動詞ではないものを選びなさい。
- ア 静かだ イ 変だ ウ 泳いだ エ 美しい
- (4) 次の——線部の品詞を選びなさい。
- ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞

感動詞…感動・呼びかけ・応答を表す。活用しない。

(例) おお、すごいね。さあ、行こう。うん、そうだよ。

公園に散歩に行くと、花がとてもきれいに咲いていた。

- (5) 次の——線部の品詞を選びなさい。

バラはとても美しい。

確認テスト

- (1) 次の——線部の動詞を言い切りの形に直しなさい。

今日、私は友達と遊んだ。

- (2) 次の中から形容詞ではないものを選びなさい。

ア 白い イ 囲い ウ 甘い エ 美しい

文法基礎(3)

文法基礎(3)

付属語の品詞

付属語は、次の2種類の品詞に分けられる。

助詞・助動詞

助詞

助詞……自立語の後に付いて、語句と語句の関係を示したり、意味を付け加えたりする。活用しない。

① 格助詞……主に体言に付いて、語句と語句との関係を示す。

(例) 魚が泳ぐ。「主語」 本を読む。「対象」

友達に話す。「相手」

② 副助詞……さまざまな語句に付いて、意味を添える。

(例) 私も食べる。おにぎりは私が食べた。

妹しか知らない。

助動詞

④ 終助詞……主に文の終わりに付いて、話し手の気持ち、態度などの意味を添える。

(例) 何を食べようか。行こうよ。

助動詞……用言、体言や他の助動詞などに付いて、さまざまな意味を付け加える。活用する。

(例) ご飯を食べない。「否定(打ち消し)」

職員室に呼ばれる。「受け身」 私は中学生だ。「断定」



活用

文中で、言葉の組み合わせに応じて単語の形が変化することを活用という。助動詞は活用する。

(例) ご飯を食べない。→ ご飯を食べなければ力がでない。

③ 接続助詞……主に用言や助動詞に付いて、前後をつなぐ。

(例) 強くて優しいヒーロー。「並列」

風邪をひいたから、お休みする。「原因・理由」
お店に行つたが、閉まっていた。「逆接」

(1) 次の中から、――線部が格助詞ではないものを選びなさい。

ア 花が咲く。

イ 桜の花が咲く。

ウ 桜も咲いている。
桜の花を見る。

(2) 次の文に含まれる付属語から副助詞を選びなさい。

その本は私がずっと欲しかった一冊だ。

ア は イ が ウ た エ だ

(3) 次の中から、――線部が接続助詞であるものを選びなさい。

ア 彼は本を読んでいる。
イ 体調が悪いから欠席する。
ウ そろそろ出かけようよ。
エ 納豆は兄しか食べない。

(4) 次の中から、――線部が終助詞ではないものを選びなさい。

ア 彼はどう思っているだろうか。

イ 図書館でさわぐな。

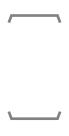
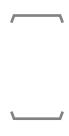
ウ あと少しで手が届く。

エ 今日はどうしたの。

(5) 次の文に含まれる助動詞を選びなさい。

なかなかバスが来ない。

ア バス イ が ウ 来 エ ない



野原はうたう (1)

工藤
直子

詩とは何か

詩は、作者の思いや感動などを、リズムをもつ言葉で表現したもの。
比較的短い言葉で表現されることが多い。

・詩の特色

行分け……多くの詩では、一文を数行に分け、
リズムや感動を表現する。

連……一つの詩を、内容で分けたまとまり。
普通、一行空けて区切られている。

〔 詞文と散文 〕

言葉や音数に一定の規則、リズムをもつ文を**韻文**といい、多くの詩は韻文に含まれる。

- ・韻文……言葉・音数に一定の規則がある文。
(大部分の)詩、短歌、俳句など
- ・散文……短い語句で改行をしない、普通の文。
説明文、論説、物語、小説、隨筆など

詩の種類

詩は、使われている言葉、形式、内容などから分類される。

言葉	形式	内容
文語詩	定型詩	音数に一定のきまりがある詩。
口語詩	自由詩	音数にきまりがない詩。
	散文詩	普通の文章のように書かれた詩。
	叙情詩	作者の感情をうたつた詩。
	叙景詩	自然の風景をうたつた詩。
	叙事詩	神話や歴史的事件をうたつた詩。

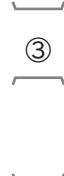
確認テスト

野原はうたう (1)

(1) 次の文の（ ）に当てはまる言葉を選びなさい。

一つの詩を、内容や形式などで分けたまとまりを（ ）といい、多くの詩では一行空けて区切られている。

ア 韻 イ 行 ウ 段落 エ 連



(2) 次の文の（ ）に当てはまる言葉をそれぞれ選びなさい。

古文に見られるような書き言葉で書かれた詩を（①）といい、現代の日常の話し言葉をもとに書かれた詩を（②）という。

ア 口語詩 イ 文語詩



(3) 次の文の（ ）に当てはまる言葉を選びなさい。

音数などに定まった形式がある詩を（ ）という。

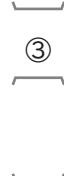
ア 定型詩 イ 自由詩 ウ 散文詩



(4) 次の説明に当てはまるものをそれぞれ選びなさい。

- ① 自然の風景をありのままにうたつた詩。
- ② 神話や歴史的な事件などをうたつた詩。
- ③ 作者の感動や心の動きをうたつた詩。

ア 叙事詩 イ 叙情詩 ウ 叙景詩



野原はうたう (2)

あしたこそ

たんぽぽ はるか

ひかりを おでこに
くつづけてはなひらく ひを
ゆめにみてたんぽぽわたげが
まいあがります

① とんでいこう どこまでも

② たくさん 「こんなにちは」
であうために に

工藤直子

おれはかまきり

かまきり りゅうじ

おう なつだぜ

おれは げんきだぜ
あまり ちかよるな

③ おれの こころも かまも
どきどきするほど
ひかつてるぜ

おう あついぜ
おれは がんばるぜ
もえる ひをあびて
かまを ふりかざす
わくわくするほど
きまつてるぜ

すがた

確認テスト

詩を読んで、問い合わせに答えなさい。

(5) ——線②「であうために」とあるが、であうためにどうするのか。
適当なものを選びなさい。

- (1) それぞれの詩の季節を漢字一字で答えなさい。
 ・あしたこそ… [] ・おれはかまきり… []

(2) それぞれの詩は何連で構成されているか。漢数字で答えなさい。

- ・あしたこそ… [] ・おれはかまきり… []

(3) 「あしたこそ」と「おれはかまきり」の詩の種類を選びなさい。

- ア 文語定型詩 イ 文語自由詩
ウ 口語定型詩 エ 口語自由詩

[]

(4) ——線①「とんでいこう どこまでも」の行で用いられている表現を選びなさい。

- ア 普通の言い方と言葉の語順を入れ替わっている。
イ 同じ言葉が繰り返されている。
ウ 語句が対になるように並べられている。

[]

(6) ——線③「どきどきするほど」と形の上で対になつてている行を第二二連から探し、その最初の三字を書きぬきなさい。

- ウ ア くつづけて イ はなひらく
まいあがります エ とんていこう

[]

(7) それぞれの詩にうたわれている内容を選びなさい。

- ・あしたこそ… [] ・おれはかまきり… []



- ア 未来を夢見て遠くまで飛んでいこうとする気持ち。
イ 花開いたことを喜び、舞い上がる気持ち。
ウ 暑さで不機嫌になり、周りにハツ当たりする様子。
エ 活力がみなぎり、誇らしげな様子。

シンシユン(1)

にし
加奈子

(中学校の入学式で出会ったシンタとシンタは、見た目も好みもそつくりで、すぐに仲良くなりました。)

……僕とシンタはまるで双子だった。みんなは、僕たちのことをまとめて「シンシユン」とよんだ。そうよばれると僕たちは同時に振り返った。いつもいっしょだった。

シンタと話していると、話したいことがどんどんあふれてきた。シンタもそう言つてくれた。

「シンタとなら、いくらでも話していられるよ。」

① 僕たちは自分自身と話しているようなものだった。笑うところも、怒るところも同じだった。

ある日、国語の授業で小説を読んだ。

短いお話で、全然明るくなくて、それどころか暗くて、悲しい話だったけど、僕はすごく好きだと思った。でも、どうして好きなのが全然説明できなかつた。だから、シンタに話そうと思つた。僕が好きなんだから、シンタも絶対に好きだろう。そしてシンタなら、その理由を教えてくれるにちがいない。

休み時間、僕はいつものようにシンタの席へ行つた。待ち切れなかつた。わくわくしながら小説の話を切りだすと、シンタは顔をしかめた。

③ 「あれ、嫌いだ。」
頭をがつんと殴られたような気がした。

「暗くてさ。何が書きたいんだろう。」

僕は思わず、シンタといっしょにうなづいた。

「そうだよな。僕も嫌い。」
その日は、ずっと苦しかつた。

僕が好きなものを、シンタが嫌いと言つたことが悲しかつた。「僕は好きだ。」と言えなかつたことが悔しかつた。でも、シンタと違う自分は嫌だつた。僕たちは好きなものや嫌いなものが同じだから「シンシユン」コンビなんだ。違うところがあれば、僕らはきっといつしょにいられなくなる。

登場人物

物語や小説を読むときは、登場人物はだれか、だれの視点で語られた文章かを確認する。

登場人物

- ・シンタ（僕）：語り手
- ・シンタ

シンタとシンタの関係の変化

- ・第一の場面 好きなものも嫌いなものも同じ。

自分が自身と話しているようなものだつた。

- ・第二の場面 シンタが好きだと思った小説を、シンタは嫌いだと言つた。



この後、シンタはシンタに、前のように話せなくなり、二人はだんだん離れていくてしまう。

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(3) — 線③「頭をがつんと殴られたような気がした」のはなぜか。
適当なものを選びなさい。

(1) — 線①「僕たちは自分自身と話しているようなものだった」とあるが、これはどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア 二人の考え方や感じ方が同じで、互いの話に共感しあっていたということ。
イ 二人は互いに相手に合わせて話し、自分の気持ちは隠していたということ。
ウ 二人で話すときであっても、互いに自らの考えを自問していたということ。

シンシュン(1)

(2)

— 線②「休み時間……シンタの席へ行った」とあるが、何のためにシンタの席に行つたのか。適当なものを選びなさい。

ア 授業で読んだ小説を、シンタが嫌いだという理由を知りたかったから。
イ 授業で読んだ小説を、なぜ好きだと感じるのか教えてほしかったから。
ウ 授業で読んだ小説を、「僕」がどう感じるかシンタに教えてあげたかったから。

シンシユン(2)

西 加奈子

(小説の話をしても以来、「僕」とシンタは前のように話せなくなり、だんだんと離れてしまいました。ある日、「僕」は勇気を出して、シンタに話しかけました。)

シンタと僕が久しぶりに話をしているのを、クラスメイトたちが見ているのがわかつた。

でも、僕は気にしなかつた。

「僕、シンタと違うところを発見するのが怖かっただんだ。」
①
シンタも、気にしていなかつた。

「僕も！」

思つたより、大きな声が出たのだろう。シンタは照れくさそうに笑つた。

「またシユンタを傷つけるのも怖かっただしさ。」

シンタのその笑顔が、僕は好きだった。大好きだった。
「傷つかないよ。」

「え？」

「僕の好きなものをシンタが嫌いでも、僕は傷つかないよ。あ、ううん、傷つくかもしれないけど、でも、じゃあ、だからこそ話そ、うよ。どうして好きなのか、どうして嫌いなのか。」

シンタはまっすぐ僕を見た。僕もシンタをまっすぐに見た。僕たちはそつくりだった。

「うん。話そ、う。」

そつくりだけど、全然違う人間なのだった。
「話そ、う。たくさん。」

② 僕たちはそれから、前にもましておしゃべりになつた。

・ 第二の場面

僕が好きなんだから、シンタも絶対に好きだろう。
違うところがあれば、僕らはいっしょにいられなくなる。

・ 第三の場面

違うところがあることで傷つくかもしれないけど、だからこそ話そ、う。(主題)
僕たちはそつくりだけど、全然違う人間。

シンタの考え方の変化

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(3) 本文で描かれていることに当てはまるものを選びなさい。

シンシュン(2)

(1)

——線①「シンタも、気にしていなかつた」とあるが、何を気にしていないのか。適当なものを見びなさい。

ア 「僕」とシンタの二人に違うところがあること。

イ 「僕」がシンタと違うところを発見するのを怖がっていたこと。

ウ クラスメイトの前で、大きな声を出すこと。

エ 二人で久しぶりに話すのをクラスメイトに見られていること。



(2)

——線②「僕たちはそれから、前にもましておしゃべりになつた」とあるが、これはなぜだと考えられるか。適当なものを見びなさい。

ア 二人はそれまで話したことがなかつたが、話す機会ができたから。

イ それまでは二人だけで話していたが、クラスメイトと一緒に話すようになったから。

ウ 違うところがあつたとしても、なぜ好きか、なぜ嫌いかを伝え合うようになつたから。



- ア 自分の好きなものを認めてもらうことは難しく、同じものが好きな友達は大切にすべきである。
互いの違いで傷つくこともあるかもしれないが、だからこそ自分はどう感じるかを伝え合うべきである。
- イ ちょっととした出来事をきっかけに友情は壊れるので、相手を傷つけないよう気をつけるべきである。
- ウ 表面的には違いがあるように見えるが、どんな人間でも感じ方はそつくりなので、傷つくべきではない。
- エ 〔〕

シンシユン(3)

西にし
加か
奈な
子こ

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

第3の場面	第2の場面	第1の場面
登場人物の設定		
「シンタと違うところを発見するのが怖かった。」「傷つくかもしれないけど……だからこそ話そようよ。」 僕たちはそつくりだけど、全然違う人間だった。 僕たちはそれから、前にもましておしゃべりになつた。	二人は前みたいに話せなくなり、だんだん離れていった。 ある日	中学校の入学式、「僕(ぼく)（シンタ）」とシンタは出会い、すぐ仲よくなつた。 好きなもの嫌いなものも同じ。まるで双子。 僕たちは自分自身と話しているようなものだつた。
「僕」が好きだと思った小説を、シンタは嫌いだと言つた。 ↓ 「僕も嫌い。」と答えた。違うところがあれば、 僕らはいつしょにいられなくなると思つた。	それから	ある日の国語の授業後の休み時間

● 場面

物語や小説などの文学的文章は、人物、時、場所、出来事などのまとまりで、場面に分けることができる。文学的文章を読むときは、発端・山場・結末といった場面の展開を意識する。

- 第一の場面…状況設定・導入
- 第二の場面…事件
- 第三の場面…結末

確認テスト

教科書本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (1) 本文は誰の視点から語られているか。次から選びなさい。

ア シンタ イ シュンタ ウ クラスマイト

- (3) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア シュンタとシンタは、結局は好きなものも嫌いなものも全く同じだった。

イ 授業で読んだ小説をシンタが嫌いだと言ったとき、シュンタはその場で「僕は好きだ。」と伝えた。

ウ ある日の国語の授業の後の休み時間に、シュンタとシンタは、小説をどう感じたかでけんかになってしまった。

エ シュンタは、自分とシンタに違いがあり、傷つくこともあるかもしれないが、だからこそ話をするべきだと考えた。

- (2) 次の各文を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア 「僕」はシンタと前のように話せなくなり、だんだん二人は離れていってしまった。

イ 「僕」は中学の入学式で、自分と何もかもが似ているシンタと出会った。

ウ 「僕」はシンタに勇気を出して話しかけ、それ以来二人は前にもましておしゃべりになつた。

漢字1 漢字の組み立てと部首(1)

漢字の組み立て

漢字はいくつかの部分を組み立てたものが多く、それぞれの部分は位置によって次のように分類される。

へん (例) てへん

つくり (例) りつとう

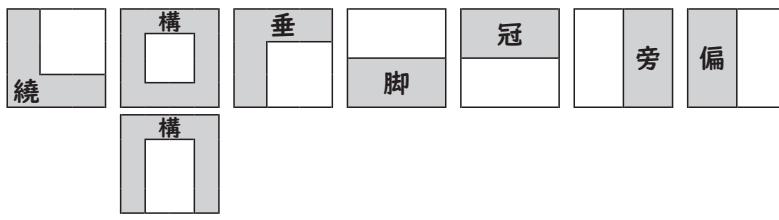
かんむり (例) うかんむり

あし (例) れんが

たれ (例) まだれ

かまえ (例) くにがまえ・もんがまえ

によう (例) しんによう



部首

部首：漢字を字形で分類するときに、その基準となる共通の部分。

(例) 「人・イ」(ひと・にんべん)

部首はその漢字の中心的な意味を表す部分になつていていることが多い。

(例) 「持」(て・てへん) 「時」(ひ・ひへん)

覚えておくと便利な部首

・動物に関係する部首

「隹」	「鳥」	「とり」
(例) ふるとり	(例) 鳥・鳴・鷄	

・植物に関係する部首

「禾」	「艸」	「くさ・くさかんむり」
(例) のぎ・のぎへん	(例) たけ・たけかんむり	(例) 草・花・芽
(例) 秋・税・稻	(例) 木・材・橋	(例) 竹・笛・築

漢字の組み立てと部首(1)

(1) 次の漢字に共通する「へん」を付けると、それぞれ別の漢字になる。共通して付く「へん」を選びなさい。

広・及・巨・寺

ア にんべん イ てへん ウ きへん エ ごんべん



(2) 次の漢字に共通する部首を付けると、それぞれ別の漢字になる。共通して付く部首を選びなさい。

玉・井・古・木

ア きへん イ にんべん ウ もんがまえ



(4) 次の中から部首が「まだれ」のものを選びなさい。

ア 原 イ 店 ウ 疲



(5) 次の中から、——線部の漢字の部首が「のぎ」(のぎへん)ではないものを選びなさい。

ア コク物の収穫。
ウ 学|コウ|に行く。

イ 植物のシユ子。
エ 面セキをもとめる。



(3) 次の中から部首が他と異なるものを選びなさい。

ア 守 イ 空 ウ 客 エ 室



漢字の組み立てと部首(2)

覚えておくと便利な部首

・ 神事、祭事に関係する部首

「示」	しめす
「𠂇」	しめすへん

(例) 示・祭・禁
(例) 社・祈・神

※ いざれも「示」という部首で、「示」が「へん」であるものは「しめすへん」とよぶ。

・ 衣服に関係する部首

「衣」	ころも
「𩫑」	ころもへん

(例) 衣・裁・装
(例) 補・複

・ 自然に関係する部首

「火」	ひ・ひへん
「𦵹」	れんが・れつか

(例) 火・炭・焼
(例) 照・熱

・ 感情に関係する部首

「心」	こころ
「忄」	りつしんべん

(例) 快・情
(例) 心・思・意
(例) 快・情

・ 刀に関係する部首

「刀」	かたな
「刂」	りつとう

(例) 刀・切・分
(例) 利・剣

・ 移動に関係する部首

「彳」	ぎょうにんべん
「辵」	しんによう・しんにゆう

(例) 往・従
(例) 運・道

・ 住むところや地形に関係する部首

「阝」	おおざと
「𡊔」	こざとへん

(例) 郡・都・郷
(例) 降・階・陽

・ 紛らわしい部首

「月」	つき (月や時間)
「月」	にくづき (体の部位)

(例) 朗・期
(例) 胸・腹
(例) 服・朝

※ 「にくづき」は肉がへんになつたもの。

漢字の組み立てと部首(2)

(1) 次の中から、——線部の漢字の部首が「しめす（しめすへん）」ではないものを選びなさい。

干・半・貝・害

ア 国民のシユク日。 イ 選挙で投ヒョウする。
ウ 水分をホ給する。 エ 人類のソ先。

ア ちから イ おおがい
ウ つき エ りつとう

(2) 次の中から、——線部の漢字の部首が「ころも（ころもへん）」ではないものを選びなさい。

ア フク雜な問題。 イ 脳リに浮かぶ。
ウ 質素な服ソウ。 エ 幸フクに暮らす。

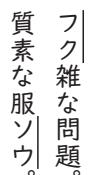
(5) 「遠」の部首を選びなさい。
ア えんによう イ しんによう ウ そうによう
ウ ボウ災の意識をもつ。 エ 島に上リクする。

(4) 次の漢字に共通する「つくり」を付けると、それぞれ別の漢字になる。共通して付く「つくり」を選びなさい。

ア 点 イ 照 ウ 熟 エ 魚

(3) 次の中から、部首が「れんが（れつか）」ではないものを選びなさい。

ア ユウ便物が届いた。 イ 病インに行く。
ウ ボウ災の意識をもつ。 エ 島に上リクする。



ダイコンは大きな根？(1)

稻垣
栄洋

② それでは、私たちが普段食べているダイコンの白い部分はどの器官なのでしょうか。漢字で「大根」と書くくらいですから、根のようにも思ふかもしれません、そんなに単純ではありません。

③ その疑問に答えるために、ダイコンの芽であるカイワレダイコンを見ながら考えてみます。カイワレダイコンは、双葉と根、その間に伸びた胚軸とよばれる茎から成り立っています。根の部分には、種から長く伸びた主根と、主根から生えている細いひげのような側根があります。

④ これに対しても、私たちが食べるダイコンをよく見えてみると、下のほうに細かい側根が付いていたり、側根の付いていた跡に穴が空いていたりするのがわかります。ダイコンの下のほうは主根が太ってできているのです。^③ いっぽう、ダイコンの上のほうを見ると、側根がなく、すべすべしています。この上の部分は、根ではなく胚軸が太ったものです。つまり、ダイコンの白い部分は、根と胚軸の二つの器官から成っているのです。

(2)～(4)は教科書本文における形式段落番号を表します)

文章を内容で区切ったまとまりを段落という。
・段落の種類

形式段落…一字下げて区切られたまとまり。

意味段落…形式段落を内容・意味でまとめたもの。



問い合わせ

説明文では、読者に問い合わせるかたちで話題が示される（問題提起）ことがある。

・問題提起の例 ……でしょうか。 ……であろうか。

問い合わせ ダイコンの白い部分はどの器官なのでしょうか。

(3) 線②「これに対して」とあるが、この部分では何と何が比較されているか。二つ選びなさい。

カイワレダイコン（ダイコンの芽）
双葉・胚軸（茎）・根（主根+側根）

ア 主根 イ 側根 ウ カイワレダイコン エ ダイコン

ダイコン

上のほう…胚軸が太ったもの
下のほう…主根が太ったもの
答え ダイコンの白い部分 = 二つの器官（胚軸+根）

ア 双葉 イ 根
ウ ダイコンの上のほう エ ダイコンの下のほう
〔 〕 .



本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1)

2段落の役割として適当なものを選びなさい。

ア 問いを投げかけている。

イ 問いに対する答えを示している。

ウ 答えを導くための比較の例を挙げている。

〔 〕

(5) カイワレダイコンの説明として適当なものを選びなさい。

ア カイワレダイコンはダイコンの芽である。

イ カイワレダイコンの双葉と茎の間には胚軸がある。

ウ カイワレダイコンの主根は、側根から生えている。

〔 〕 .

(2) 線①の問い合わせに対する答えを表す一文として最も適当なものを探し、その最初の三字を書きぬきなさい。

(6) ダイコンの説明として適当なものを選びなさい。

ア ダイコンに穴が空いている部分は主根が付いていた跡である。

イ ダイコンの下のほうは側根が太ってできている。

ウ ダイコンの上のほうは側根がなく、すべすべしている。

〔 〕

ダイコンは大きな根？（2）

稻垣
栄洋

【7】……ダイコンは下にいくほど辛みが増していきます。ダイコンのいちばん上の部分と、いちばん下の部分を比較すると、下のほうが十倍も辛み成分が多いのです。ここには、植物の知恵ともいえる理由がかくされています。

【8】根には、葉で作られた栄養分が豊富に運ばれています。これは、いずれ花をさかせる時期に使う大切な栄養分なので、土の中の虫に食べられては困ります。そこで、虫の害から身を守るため、辛み成分をたくわえているのです。

（【7】・【8】は教科書本文における形式段落番号を表します）

【8】	【7】
<p>根には葉で作られた栄養分が運ばれる。 栄養分は花をさかせる時期に使うので、土の中の虫に食べられては困る。</p> <p>（だから、下にいくほど辛い。）</p>	<p>ダイコンは下にいくほど辛みが増す。 ↓ 植物の知恵がかくされている。</p>

ダイコンは大きな根？(2)

- (1) 線部 「植物の知恵」についてまとめた次の文の（ ）に当て

はまる言葉を、本文中からそれぞれ三字で書きぬきなさい。

根には、花を咲かせるための（①）が運ばれてくるので、（②）から守るために辛み成分をたくわえている。

- エ ウ イ ア
【7】段落の内容をふまえて、【8】段落では主張が述べられている。
【7】段落の話題に対し、【8】段落では別の話題が示されている。
【7】段落の結論をうけて、【8】段落では例外的な事例を挙げている。
【7】段落で示された内容を、【8】段落で具体的に説明している。

(2) 7段落と8段落の関係について、正しいものを選びなさい。

100

②

- ア** ダイコンは上にいくほど辛みが増す。
イ ダイコンのいちばん下は、いちばん上よりも二倍も辛み成分が多い。
ウ ダイコンの根には葉で作られた栄養分が豊富に運ばれてくる。
エ ダイコンの葉で作られた栄養分は虫から身を守るために使われ

ダイコンは上にいくほど辛みが増す。

イ ダイコンのいちばん下は、いちばん上よりも二倍も辛み成分が

多い。

ダイコンの根には葉で作られた栄養分が豊富に運ばれてくる。ダイコンの葉で作られた栄養分は虫から身を守るのに使われる。

【7】段落の結論をうけて、【8】段落では例外的な事例を挙げている。

【7】段落で示された内容を、【8】段落で具体的に説明している。

1

1

ダイコンは大きな根？(3)

稻垣
栄洋

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

ダイコンの白い部分はどの器官か			導入
④	③	②	①
<p>問い合わせ ・例 キャベツ、レタス…葉 トマト、ナス…実</p> <p>答える ダイコン 上のほう…胚軸が太つたもの。 下のほう…主根が太つたもの。</p> <p>比較</p> <p>(胚軸+根)</p>	<p>問い合わせ カイワレダイコン(ダイコンの芽) 双葉・胚軸(茎)・根(主根+側根)</p> <p>比較</p>	<p>問い合わせ 野菜は植物なので、根・葉・茎・花・実などの器官からできている。</p>	<p>野菜は植物なので、根・葉・茎・花・実などの器官からできている。</p>

まとめ	二つの器官はなぜ味が違うか				
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤
<p>まとめ ダイコンの味の違いを活用した調理</p> <p>まとめ このように、 ダイコンの白い部分は異なる器官から成る。 器官の働きによって味が違う。</p> <p>野菜を植物として観察すると、興味深い発見があり、 野菜の新しい魅力が見えてくる。</p>	<p>答え(根) 根には葉で作られた栄養分が運ばれる。 栄養分は花をさかせる時期に使う大切なもののな で、虫の害から守るために辛み成分をたくわえて いる。</p> <p>↓ 下にくくほど辛い。</p>	<p>答え(根) 根は、下にくくほど辛みが増す。 ↓ 水分が多く、甘みがある。</p>	<p>答え(胚軸) 胚軸は、根で吸収した水分を葉に送り、葉で作ら れた糖分などの栄養分を根に送る役割をしている。</p>	<p>問い合わせ 二つの器官(胚軸と根)は味がなぜ違うか。</p>	

ダイコンは大きな根？(3)

導入	読者の興味を引く。話題を示す。
話題提示	
問い合わせ	
具体例	
理由	比較・具体例・理由を示して説明をする。
答え	
まとめ	説明をまとめ、筆者の主張を示す。
主張	

確認テスト

(1) 教科書本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

- ① 毎日食べる野菜の器官に注目させており、これから説明する内容の導入となっている。
- ② ダイコンの白い部分がどの器官なのかという問い合わせを投げかけている。
- ③ ダイコンの胚軸と根の味がなぜ違うのかという問い合わせを投げかけている。
- ④ 説明をまとめ、野菜に対する新たな見方を呼びかけている。

ア 器官 イ 植物 ウ 大根 エ 知恵
 ① [] ② [] ③ [] ④ []

(2) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア カイワレダイコンはダイコンの茎である。
 イ 胚軸は根に当たる部分で、双葉の下にある。
 ウ カイワレダイコンの胚軸が太ったものが主根である。
 エ ダイコンの下のほうは主根が太ったものである。

(3) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 胚軸は、水分を根に、栄養分を葉に送る役割をしている。
 イ ダイコンの根は下にくほど甘みが増す。
 ウ ダイコンの辛み成分は虫の害から身を守るためのものである。
 エ 辛い大根下ろしが苦手なら、根の下のほうを使うとよい。

(4) ⑩段落の内容に合うように、次の文の（ ）に当てはまる言葉をそれぞれ選びなさい。

野菜を（①）として観察すると、興味深い発見があり、野菜の新しい（②）が見えてくる。

ちょっと立ち止まって (1)

桑原茂夫



【1】自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえると指摘され、なるほどそうもいえると教えられた経験は多いことだろう。

【2】左の図は「ルビンのつぼ」と題されたものである。よく見ると、この図から二種類の絵を見てとることができるのはずだ。白い部分を中心になると、優勝カップのような形をしたつぼがくつきりと浮かび上がる。このとき、黒い部分はバックにすぎない。今度は逆に、黒い部分に注目してみると、向き合っている二人の顔の影絵(かげえ)が見えてきて、白い部分はバックになってしまふ。

(【1】・【2】は教科書本文における形式段落番号を表します)

説明的な文章の多くは、序論・本論・結論の三つのまとまりに分けられる。

説明的な文章の構成

説明的な文章の多くは、序論・本論・結論の三つのまとまりに分けられる。

結論は文章の最初か最後で示されることが多い。

(例) 序論 ↓ 本論 ↓ 結論
結論 ↓ 本論 ↓ 結論

本論	序論
【2】	【1】
具体例 ・ルビンのつぼ	ものの見方に関する問題提起

序論	本論	結論
導入・話題の提示・問題提起	具体的な説明 まとめ・主張	

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1)

——線部「なるほどそういうもいえる」とあるが、この内容を言いかえたものとして適当なものを見びなさい。

ア 自分の意見の方が正しいといえる。

イ 自分が思っていたことと、別の捉え方もできるといえる。

ウ 自分とは違う捉え方を指摘されることもあるといえる。

エ 人に教えられる経験は多いといえる。

〔〕

(2)

——段落の役割として、適当なものを選びなさい。

ア これから説明する内容に関する導入となっている。

イ これから説明する内容に対する結論を示している。

ウ AとBを比較して、それぞれの特徴を述べている。

エ 文章の結論に対する理由や根拠を説明している。

〔〕

(3) 〔2〕段落の内容に合うように、次の文の（ ）に入る言葉を選びなさい。

「ルビンのつば」を、（ ）を中心見ると、優勝カップのような形のつばが見える。

ア 二人の顔の影絵
ウ 白い部分
イ 二種類の絵
エ 黒い部分

〔〕

(4)

「ルビンのつば」の説明として適当なものを選びなさい。

ア 黒い部分に注目し、優勝カップのような形をしたつばと見るのが本来の見方である。

イ 向かい合っている二人の顔の影絵が見えるとき、黒い部分はバツクにすぎない。

ウ Aだと思っていたものが、人からBともいえると指摘される経験のことを「ルビンのつば」という。

エ 二種類の絵を見てとることができる。

〔〕

(5) 「ルビンのつば」は、何を述べるための具体例か。適当なものを選びなさい。

ア 白と黒が対照的な色であること。

イ 何を中心見するかによって、別の捉え方ができること。

ウ ものを見るときは、よく注目してみることが必要であること。

エ つばの形は、人の顔の横顔に見えることがあること。

〔〕

ちょっと立ち止まって (2)

桑原
茂夫

(2)

[8]

左の図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。ところがこの図も、もう一つの絵をかくしもつていて、目を遠ざけてみよう。すると、たちまちのうちに、この図は①どくろをえがいた絵に変わってしまう。同じ図でも、近くから見るか遠くから見るかによって、全く違う絵として受け取られるのである。



(中略)

[10]

私たちには、ひと目見たときの印象に縛られ、一面のみを捉えて、その物の全てを知ったように思いがちである。しかし、一つの図でも風景でも、見方によって見えてくるものが違う。そこで、物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の見方を試してみてはどうだろうか。中心に見るものを変えたり、見るときの距離を変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう。

(8・10は教科書本文における形式段落番号を表します)

本論	結論
[8]	[10]
具体例	主張
・化粧台の前に座っている女性、 どくろの絵	物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の 見方を試すと、その物の他の面に気づき、新しい 発見の驚きや喜びを味わうことができる。 まとめ

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) —線①「どくろをえがいた絵に変わってしまう」とあるが、どのようにするとどくろをえがいた絵に変わるのか。適当なものを見なさい。

ア 化粧台の前に座っている女性の絵が見えるようになる。

イ 一つの絵が別の絵をかくしもつようになる。

ウ 化粧台の前に座っている女性の絵を、目を遠ざけて見る。

エ 同じ図を、近くから見るように見方を変えてみる。

〔〕

〔〕

(2) 「化粧台の前に座っている女性の絵」は、何を述べるための具体的な例か。適当なものを選びなさい。

ア 同じ図でも、見るときの距離によって、違うものとして受け取られることがあること。

イ 絵を鑑賞するときは、目を遠ざけて見るべきだということ。

ウ 一見、化粧台の前に座っている女性の絵に見えるが、それは誤った見方だということ。

エ 絵画は常にもう一つの絵をかくしもつてるので、注意して鑑賞すべきだということ。

〔〕

(3) —線②「他の見方」とあるが、他の見方の例として〔10段落で挙げられているものを二つ選びなさい。

ア 一面のみを捉えてみる。

イ 中心に見るものを変えてみる。

ウ 見るときの距離を変えてみる。

エ 見るものを持ち替えてみる。

〔〕

〔〕

〔10段落の内容に当てはまらないものを選びなさい。〕

ア 人は、ひと目見たときの印象に縛られる傾向がある。

イ 見方を変えると、新しい発見の驚きや喜びを味わえる。

ウ 他の見方を試すと、その物の他の面に気づくことがある。

エ 物を見るときは、立ち止まり距離を変えずに見るべきである。

〔〕

〔〕

ちょっと立ち止まって (3)

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

本論			序論
[8] ・ [9]	[6] ・ [7]	[2] ・ [5]	[1]
具体例 ・富士山、ビル	具体例 ・若い女性、おばあさんの絵 あるものを、別のものと見るためには、今見えてい るものを見ることで、その物の他の面に気づき、新しい発見 たり、変えたりすることができる一面がある。	具体例 ・化粧台の前に座つている女性、 どくろの絵 近くから見るか遠くから見るかによって違うものと して受け取られる。	ものの見方に関する問題提起 具体例 ・ルビンのつぼ ・公園の風景

(1)～(10)は教科書本文における形式段落番号を表します

桑原
茂夫

結論

[10]

主張

物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の見
方を試すと、その物の他の面に気づき、新しい発見
の驚きや喜びを味わうことができる。

まとめ

一つの物でも、見方によって見えてくるものが違う。



文章や筆者の考えの中心となる内容を要旨という。要旨は結論に
表れることが多いので、要旨を捉えるためには、文章の構成に注
目し、結論を見つけるようにするとよい。

確認テスト

教科書本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (1) 本文中で、「公園の風景」の事例は、何を述べるための具体例か。最も適当なものを選びなさい。

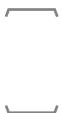
- ア あるものを、別のものと見るためには、今見えているものを意識して捨て去る必要があること。
イ あるものが、見るときの距離によって、別のものとして受け取られることがあること。
ウ 見るという働きには、中心に見るものを、一瞬のうちに決めたり変えたりする一面があること。
エ ルビンのつぼは、公園の風景に見えることがあること。



(2)

- 本文中で、「奥の方を向いた若い女性に見えたりおばあさんに見えたりする絵」は、何を述べるための具体例か。最も適当なものを選びなさい。

- ア あるものを、別のものと見るためには、今見えているものを意識して捨て去る必要があること。
イ あるものが、見るときの距離によって、別のものとして受け取られることがあること。
ウ 見るという働きには、中心に見るものを、一瞬のうちに決めたり変えたりする一面があること。
エ コートに顎(あご)をうずめたおばあさんは、奥の方を向いた若い女性に見間違われることもあるということ。



ちょっと立ち止まって(3)

(3)

- 本文中で示されている図や事例をまとめると、どのようなことが導かれるか。適当なものを選びなさい。

- ア 見えるものが変わってしまうこともあるので注意が必要だ。
イ 人は、ひと目見たときの印象を変えることができない。
ウ 一つのものでも、見方によって見えてくるものが違う。
エ 別の見方を指摘された経験は、だれにでもあるものである。



文法への扉 1 言葉のまとまりを考えよう (1)

言葉の単位

言葉は、まとまりによつていくつかに区切ることができる。

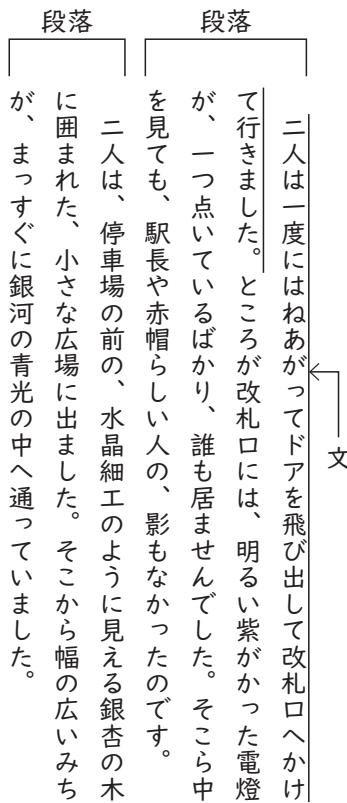
文章・談話 √ 段落 √ 文 √ 文節 √ 単語

文章・談話、段落、文

文章・談話……あるひとまとまりの内容を文字や音声で表したもの。

段落……文章を内容ごとのまとまりで区切つたもの。

文……句点で区切られた、ある内容を表す一続きの言葉。



(宮沢賢治『銀河鉄道の夜』より)

文節

文節……文を、自然な発音や意味となる範囲^(はんい)でできるだけ短く区切つたまとまり。

・兄^{文節}が^{文節}走^{文節}る。

・ね

文節の見分け方

一つの文節には、必ず一つの自立語がある。

・自立語

・自立語+付属語 (+付属語…)

(例) 兄^{自立語}が^{付属語}/走^{自立語}つ^{付属語}て^{自立語}/いく。

※自立語……動詞・形容詞・形容動詞・名詞など

※付属語……助詞・助動詞

単語

単語……言葉として役割をもつ最も小さい単位。

天気がいいので今日は外で遊ぼう。

(3) 次の文を文節に分け、斜線(／)で区切りなさい。

しゃせん

私は／買い物に／行く。(文節)



私は／買い物に／行く。(単語)

(4) 次の文を文節に分け、斜線(／)で区切りなさい。

鳥が空を飛んでいく。

(5) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。

私はバス停まで走った。

(1) 次の文の()に入るものを選びなさい。

()は文章を内容ごとのまとまりで区切ったもので、初めを改行し一字下げて表す。



確認テスト

ア 談話 イ 段落 ウ 文 エ 文節



(2) 次の文章はいくつの文からできているか。文の数を数字で答えなさい。

ある朝、起きると私の犬がいなくなっていた。部屋ではなく庭にいるのかと探しに行つたがいなかつた。その時、父が犬を連れて散歩から帰ってきた。

文法への扉 1 言葉のまとめを考えよう (2)

間違えやすい文節

文節は、「自立語」単独の場合と、「自立語+付属語（+付属語…）」のように自立語の後に付属語が付いている場合がある。一つの文節に二つ以上の自立語が含まれることはない。

～て（で）

「～ている」「～てくる」のように、助詞「て（で）」+自立語の形は文節の切れ目を間違えやすいので注意する。

・読んでいる → 「^{自立語+で}読んで」と「^{自立語}いる」の二文節

(例) 　・鳥が／^{動詞+で}飛んで／動詞。 　

・犬が／走つて／^{動詞+で}くる。

・本を／^{動詞+で}読んで／^{形容詞}ほしい。

間違えやすい単語

複合語：いくつかの単語が結びついて一つの単語になったもの。

複合語は一つの単語。二つの単語だと間違えやすいので注意する。

・飛び立つ → 「飛び立つ」という一つの単語（動詞）

(例) 　降り出す・飛び始める・舞い落ちる

買い物・山登り・苦笑い

言葉のまとめを考えよう(2)

(1) 次の文を文節に分け、斜線(／)で区切りなさい。

まだ課題が残っている。

- ア 歩いている イ 教えてやる
ウ 読んでみる エ 話し出す

(5) 次の中から複合語を選びなさい。

(2) 次の文を文節に分け、斜線(／)で区切りなさい。

その日の午後は公園を走っていた。

(3) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。

新しい作品を生み出す。

(6) 次の中から、——線部が二文節であるものを選びなさい。

- ア 郵便物を受け取る。
イ わたしの分も食べてほしい。
ウ 犬が庭で走り回る。
エ その人の表情には優しさがにじみ出る。

(7) 次の中から、——線部が一つの単語であるものを選びなさい。

- (4) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。
- 開拓者(かいたくしゃ)は未開(み開)の地(じ)を切り開いた。

- ア わからぬことでもやつてみる。
イ 外でだれかが泣いている。
ウ 旅行の土産(みやげ)を買い求める。
エ 使い方はそこに書いてある。

文法への扉 1 言葉のまとめを考えよう (3)

自立語+助動詞

文を単語に分けるとき、自立語に助動詞が付いた形は単語の区切りを間違えやすい。特に述語は「自立語+助動詞」の形が多いので注意する。

- 読みます → 動詞「読む」+助動詞「ます」

- (例) · 怒られる → 怒られる

- 行かせる → 行かせる

- 話さない → 話さない

- 食べた → 食べた

- 中学生だ → 中学生だ

また、自立語の後に助動詞が複数付いた形も、単語の区切りを間違えやすいので注意する。

- 読みました → 動詞「読む」+助動詞「ます」+助動詞「た」

助動詞

助動詞：用言、体言や他の助動詞などに付いて、さまざまな意味を付け加える付属語。活用する。

- (例) れる(られる)・せる(させら)・たい(たがる)・ない(ぬ)・う(よう)・た(だ)・ます・らしい・ようだ・そうだ・まい・だ・です

「○○する」と「○○をする」

「○○する」と「○○をする」とでは、含まれる単語の数が異なる。

- 掃除する → 「掃除する」という一つの単語
- 掃除をする → 「掃除」+「を」+「する」の三単語

言葉のまとめを考えよう(3)

- (1) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。
道を聞かれる。
- (2) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。
荷物を運ばせる。
- (3) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。
誰もいない。
- (4) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。
そろそろ校庭に行こう。
- (5) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。
八時に起きた。
- (6) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。
船がゆっくり前進する。
- (7) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。
その都市はだんだん発展した。
- (8) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。
メールを送信しました。

詩の世界 (1)

一枚の絵

木坂
涼

詩の世界 (1)

一羽の水鳥が
ことのほか早く起きて
湖水を
めぐつた。
①画家きどりで
足を
絵筆にして。

水面に
朝の色を配りおわると
水鳥は
湖水の隅で
動きをとめた。
②自筆の
サインのように。

詩は、使われている言葉、形式、内容などから分類される。

詩の種類

言葉	形式
文語詩	音数に一定のきまりがある詩。
口語詩	現代の言葉（口語）で書かれた詩。
定型詩	音数に一定のきまりがある詩。
自由詩	音数にきまりがない詩。
散文詩	普通の文章のように書かれた詩。
叙情詩	作者の感情をうたつた詩。
叙事詩	自然の風景をうたつた詩。
叙事詩	神話や歴史的事件をうたつた詩。

「一枚の絵」の表現技法

- ・ **比喩**……あるものを別のものにたとえる。
- ・ **直喻**……「まるで」「ようだ」などを使つてたとえる。
- ・ **隠喻**……「まるで」「ようだ」などを使わずにたとえる。
- ・ **擬人法**……人間でないものを人間に見立てる。
- ・ **倒置**……言葉の語順を普通とは逆にし、印象を強める。

確認テスト

詩を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (1) 「一枚の絵」の詩の種類を選びなさい。

- ア 文語定型詩 イ 文語自由詩
ウ 口語定型詩 エ 口語自由詩

- (2) 「一枚の絵」の説明として適当でないものを選びなさい。

- ア 二つの連で構成され、第一連では水鳥の動きが描かれている。
イ 詩に含まれる文は三つで、それぞれ行分けされている。
ウ 朝の湖水と、湖水をめぐる水鳥の姿がうたわれている。

- (3) — 線①「足を／絵筆にして」とあるが、この部分が意味する内容として適当なものを選びなさい。

- ア 足を絵筆にしてことのほか早く起きた。
イ 足を絵筆にして湖水をめぐった。
ウ 足を絵筆にして動きをとめた。

- (4) — 線②「自筆の／サインのように」とあるが、「ように」などの言葉を使ってたとえることを何といふか。次から選びなさい。

- ア 直喩 イ 隠喻 ウ 擬人法

- (5) 擬人法の説明として適当なものを選びなさい。

- ア 「まるで」「ようだ」などの言葉を使ってたとえる表現。
イ 「まるで」「ようだ」などの言葉を使わずにたとえる表現。
ウ 人間でないものを人間に見立てる表現。

- (6) 「一枚の絵」の内容として適当なものを選びなさい。

- ア 画家が水鳥を描く姿がうたわれている。
イ 水鳥があわただしく動く姿がうたわれている。
ウ 朝の湖のにぎやかな風景がうたわれている。

詩の世界 (2)

未確認飛行物体

入沢
いりさわ

康夫
やすお

やかん
薬缶やかん
だつて、

空を飛ばないとはかぎらない。

水のいっぱい入った薬缶やかん
が夜ごと、①こつそり台所をぬけ出し、
町の上を、
②畑の上を、また、つぎの町の上を
心こころもち身みをかしげて、
一生けんめいに飛んで行く。

天の河の下、渡りの雁わたりの列の下、
人工衛星の弧この下を、
息せき切って、③飛んで、飛んで、
(でももちろん、そんなに速かないんだ)
そのあげく、
砂漠さばくのまん中に一輪咲いた淋しい花さび
大好きなその白い花に、
水をみんなやつて戻もどつて来る。

詩の世界 (2)

「未確認飛行物体」の表現技法

- 擬人法ぎじんぽう：人間でないものを人間に見立てる。
- 対句ついく：語句を、形や意味が対になるように並べる。
- 反復はんふく：同じ言葉を繰り返す。

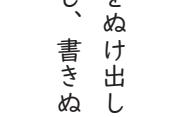
確認テスト

詩を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1)

「未確認飛行物体」の詩の種類を選びなさい。

- | | |
|---------|---------|
| ア 文語定型詩 | イ 文語自由詩 |
| ウ 口語定型詩 | エ 口語自由詩 |



(2)

——線①「こつそり台所をぬけ出し」とあるが、台所をぬけ出してどこに行こうとしているのか。詩の中から六字で探し、書きぬきなさい。

(3)

——線②「心もち身をかしげて」の意味を選びなさい。

- | |
|-----------------|
| ア ほんの少しそ身をかたむけて |
| イ 気持ちも体も集中して |
| ウ 心の中では不思議に思つて |



(6)

「未確認飛行物体」の内容として適当なものを選びなさい。

- | |
|-------------------------------|
| ア 薬缶は星空の下をものすごい速さで飛んでいく。 |
| イ 薬缶は大好きな赤い花のために水を運んでいる。 |
| ウ 作者は、薬缶が空を飛ぶことを、感情を交えず語っている。 |
| エ 作者はつぶやきも交えながらユーモラスに語っている。 |



(5)

対句の説明として適当なものを見出せ。

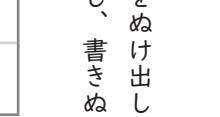
- | |
|--------------------------|
| ア 語句を、形や意味が対になるように並べる表現。 |
| イ 同じ言葉を繰り返す表現。 |
| ウ 言葉の語順を普通とは逆にする表現。 |



(4)

——線③「飛んで、飛んで、」に用いられている表現技法を選びなさい。

- | | | |
|------|------|------|
| ア 倒置 | イ 対句 | ウ 反復 |
|------|------|------|



比喩で広がる言葉の世界 (1)

森山もりやま
卓郎たくろう

【1】次の詩の情景を思い浮かべてみよう。

土 三好 達治みよし たつじ

蟻あり
蝶の羽わをひいて行く

ああ

ヨツトのようだ

【2】

この詩では、蟻にひかれていく蝶の羽が、ヨツトにたとえられて
いる。この表現によって、ゆらゆらと運ばれていく蝶の羽が、波に
揺られながら進んでいくヨツトの帆ほのイメージに重なる。題名の
「土」も、広い海のように思えてくる。

【3】

このように、ある事柄を、似たところのある別の事柄で表すこと
を、比喩ひゆという。「ヨツトのようだ」のように、「まるで」「ようだ」「
みたいだ」などを使って表すこともあるが、「あの人は歩く辞書だ」
のように、それらの言葉を使わずに表現することもある。大切なこ
とは、たとえるものと、たとえられるものとの間に共通点があり、
それが広く共有されていることだ。蝶の羽は、ヨツトの帆に形が似
ている。だから、読者は瞬時に情景を思い描く。

(1)～(3)は教科書本文における形式段落番号を表します

比喩の定義

比喩ひゆ=ある事柄を、似たところのある別の事柄で表すこと。

※「まるで」「ようだ」「みたいだ」などを使う直喩と、
使わない隠喩がある。

【3】	【1】・ 【2】 導入 「土」の詩
<ul style="list-style-type: none"> ・比喩を使う上で大切なこと <p>たとえるものと、たとえられるものとの間に共通 点があり、それが広く共有されていること。</p>	<p>比喩の定義</p> <p>比喩<small>ひゆ</small>=ある事柄を、似たところのある別の事柄で表す こと。</p>

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (1) 「土」の詩では、何が何にたとえられているか。次の文の（ ）に当てはまる言葉をそれぞれ選びなさい。

(A) が (B) にたとえられている。

ア 土 イ 蟻 ウ ヨツト
エ 蟻にひかれていく蝶の羽 オ 蝶の羽をひいていく蟻

A [] B []



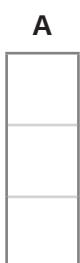
(2)

次の文が比喩の定義となるように、（ ）に当てはまる言葉を本文から二十三字で探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし、句読点も一字に含む。

比喩とは（ ）である。

- (3) 比喩の表現を使う上で大切なことは何か。次の文の（ ）に当てはまる言葉を、本文中からそれぞれ三字以内で書きなさい。

たとえるものと、たとえられるものとの間に (A) があり、それが広く (B) されていること。



- (4) 比喩について、本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 比喩で表現するには、「まるで」「ような」「みたいだ」などの言葉を使わなければならない。

イ たとえるものと、たとえられるものとの間には、似たところがなければならない。

ウ 比喩は、形が同じものに対して使わなければ、情景を思い描くことができない。

[]

比喩で広がる言葉の世界(2)

森山もりやま
卓郎たくろう



図

〔4〕 図のような形の部品をあなたならどのように説明するだろうか。真ん中に穴の空いた丸いドーナツを相手が知っているならば、一言で「ドーナツのような形」ということができる。しかし、もし比喩を使わないとしたら、言葉を尽くしても、伝えることは難しいのではないかだろうか。このように、比喩には、形状をわかりやすく伝える効果がある。

〔5〕 また、比喩には、物事の特性をより生き生きと印象づける効果もある。例えば、「雷の大きな大声」という場合、声の大きさを響き渡る雷鳴にたとえているだけでなく、雷のもつ激烈さや迫力、おそろしさなどのイメージも重ねている。

(〔4・5〕は教科書本文における形式段落番号を表します)

〔5〕	〔4〕
<p>・具体例</p> <p>雷の大きな大声</p>	<p>比喩の効果① 形状をわかりやすく伝える</p> <p>・具体例</p> <p>ドーナツのような形</p> <p>比喩の効果② 物事の特性をより生き生きと印象づける</p>

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1)

比喩の効果の説明となるように、かいどうへん 解答欄に当てはまる言葉を本文中からそれぞれ書きぬきなさい。

・比喩には、

をわかりやすく伝える効果がある。

・比喩には、物事の

をより生き生きと印象づける効果がある。

(2)

「ドーナツのような形」は、何を説明するためにはげられているか。適当なものを選びなさい。

- ア ドーナツの形は、誰だれもが知つてていること。
イ 真ん中に穴の空いた形は、ドーナツでたとえられること。
ウ 比喩を使えば、形を伝えやすくなること。

〔 〕

(3)

「雷の大きな大声」という表現からは、どのようなイメージが伝わるか。解答欄に当てはまる言葉を本文中から書きぬきなさい。

雷のもつ
〔 〕や
〔 〕などのイメージ

(4)

④段落と⑤段落の役割として適当なものを選びなさい。

- ア ④段落は導入となつており、⑤段落では比喩の効果について具体的な説明を行つている。
イ ④段落では具体例を使って比喩の効果を説明し、⑤段落でその内容をまとめている。

ウ ④段落で比喩の効果について説明した後、⑤段落では比喩の別の効果を説明している。

〔 〕

比喩で広がる言葉の世界 (3)

森山もりやま
卓郎たくろう

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

	<p>①・ ②</p> <p>導入「土」の詩</p>	<p>③</p> <p>比喩の定義</p> <p>比喩<small>ひゆ</small>にある事柄<small>ことがら</small>を、似たところのある別の事柄で表すこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比喩を使う上で大切なこと たとえるものと、たとえられるものとの間に共通点があり、それが広く共有されていること。 	<p>④・ ⑤</p> <p>比喩の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ①形状をわかりやすく伝える効果 ・具体例 ドーナツのような形 ②物事の特性をより生き生きと印象づける ・具体例 雷<small>かみなり</small>のような大声 	<p>⑥・ ⑦</p> <p>比喩の発想が生きている表現</p> <p>「頭の中に入れておく」「深く感謝する」など</p>	<p>⑧</p> <p>まとめと主張</p> <p>比喩は言葉の世界を豊かに広げる。 私たちは、比喩を使い、表現を創造していく力をもつていて。</p>
--	--------------------------------	--	--	---	---

(①～⑧は教科書本文における形式段落番号を表します)

確認テスト

教科書本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (4) 次の文が本文のまとめとなるように、() に当てはまる言葉をそれぞれ選びなさい。

- (1) 次の文が比喩の定義となるように、かいてうらん解答欄に当てはまる言葉を答
えなさい。

比喩とは、ある事柄を、

別の事柄で表すことである。

ア 形状 イ 言葉 ウ 創造 エ 比喩

A [] B []

比喩は(A)の世界を広げるものであり、比喩によって、
内容をよりわかりやすく、より印象的に伝えることができる。
私たちは、比喩を使って表現を(B)していく力をもっている。

- (2) 形状をわかりやすく伝えるという比喩の効果を説明するために挙
げられている具体的な表現を選びなさい。

ア 「頭の中に入れておく」 イ 「雷のような大声」
ウ 「ドーナツのような形」 エ 「深く感謝する」

[]

[]

[]

[]

- (3) 物事の特性をより生き生きと印象づけるという比喩の効果を説明
するために挙げられている具体的な表現を選びなさい。

ア 「頭の中に入れておく」 イ 「雷のような大声」
ウ 「ドーナツのような形」 エ 「深く感謝する」

[]

[]

[]

[]

言葉1 指示する語句と接続する語句(1)

指示する語句とは

「これ・それ・あれ・どれ」のように、物事を指し示す働きをする語句を「指示する語句（こそあど言葉）」といふ。

	事物	近称 しゃう	中称	遠称	不定称
指定	この	これ	それ	あれ	どれ
この	そこ	ここ	そこ	あそこ	どこ
そな	そちら	こちら	そちら	あちら	どちら
そな	こんな	こう	そんな	あんな	どんな
あ	あの	ど	の	う	う

(例) 日本の米の生産量は多いが、中国のそれは及ばない。
 ↓ それ=米の生産量（文の一部）
 友達をたくさん作る。それが僕の目標だ。
 ↓ それ=友達をたくさん作る（こと）（文全体）

指示する語句は前にある内容を指し示すことが多いが、後に続く内容を指し示すこともある。指し示す内容を確かめるには、指示している箇所を当てはめてみるとよい。

「右、上記、以上、前者／後者」などのように、指示する語句と同じ働きをする語もある。

(例) 今日はイルカのショーとアシカのショーがあります。

前者は十二時から、後者は十五時から行われます。

指示する語句の使われ方

指示する語句には、現実にあるものを指し示す用法（現場指示）や、文章や会話などで出てきたものを指し示す用法（文脈指示）がある。

・ 現場指示 机の上に本があるよね。それとつてくれないかな。
 ・ 文脈指示 私が中学校でがんばりたいこと。それは部活動です。

指示する語句が指し示す内容は、文の一部であったり、文全体であったりする。

(例) 道を車で走っていると海に面した大きな町が見えてきた。
 あの（海に面した大きな）町は父が幼いころ過ごした場所だ。

確認テスト

(1) 次の文の（ ）に入る語句として適當なものを選びなさい。

（ ）は先生からいただいた本です。

ア これ イ ここの ウ こんな エ この

(2) 次の文の——線部が指す内容を選びなさい。

三時に公園に行くと、そこでは祭りの準備が行われていた。

ア 三時 イ 公園 ウ 行く エ 祭り

(3) 次の文の——線部が指す内容を選びなさい。

かれ
彼は国語と英語が得意で、特に後者の成績は群を抜いている。

ア 彼 イ 国語 ウ 英語 エ 成績

(4) 次の文の——線部の働きを選びなさい。

フランスの哲学者であるパスカルはこう言つた。
「人間は考える葦である。」

ア パスカルという前の語句を指している。

イ パスカルが哲学者であるという前の内容を指している。

ウ 葦という後の語句を指している。

(5) 次の文の——線部が指す内容を選びなさい。

日本は森林の面積の割合が高く、これは日本に山地が多いことと関連している。

ア 日本
イ 森林の面積
ウ 日本は森林の面積の割合が高いこと。
エ 日本に山地が多いこと。

言葉1 指示する語句と接続する語句(2)

接続する語句とは

「だから」「しかし」のように、前後の語句や文などが、どのように関係でつながっているかを示す語句を「接続する語句」という。

接続する語句の種類

順接：前に述べた内容が、後に述べる内容の原因や理由になる。

(例) 雨が降った。だから、地面がぬれた。

・順接の語句

だから したがって そのため すると そこで

逆接：前に述べた内容から予想されることは逆の内容が後にくる。

(例) 牛乳を買いに行った。しかし、売り切れた。

・逆接の語句

しかし けれども ところが だが しかしながら

説明的な文章では、逆接の語句をきっかけに、論が展開していくことが多い。

(例) 科学者たちは環境問題の改善に取り組んできた。
しかし、その効果は思わしくなかつた。

並列・**累加**：前に述べた内容に後に述べる内容を並べたり（並列）、内容を付け加えたり（累加）する。

(例) フランス、また、ドイツに旅行した。

このラーメン屋はおいしい。そのうえ、安い。

・並列・累加の語句

そして また それから および
しかも そのうえ なお

対比

選択：前後の内容を比べたり（対比）、前後の内容のどちらかを選んだり（選択）する。

(例) 北海道は寒い。一方、沖縄は暑い。

・対比・選択の語句

電話、または、メールでご連絡ください。

・対比・選択の語句

一方 他方 ……に対しても

または あるいは それとも もしくは

- (1) 次の各文の——線部の接続する語句の種類をそれぞれ選びなさい。

- ① 学生証、または、保険証を持参してください。
 ② 雨が降っている。だが、それほど寒くはない。
 ③ この製品は品質が良く、しかも、値段が安い。
 ④ 今日はお祭りの日で、だから、道が混んでいる。

ア 順接 ウ ア
 イ 順接 ウ ア
 並列・累加 エ 対比・選択

〔①〕 〔②〕 〔③〕 〔④〕

- (2) 次の各文の（）に入る言葉として、適当なものをそれぞれ選びなさい。

- ① 窓を開けた。（）涼しい風が入ってきた。
 ② 犬が好きですか。（）、ネコが好きですか。
 ③ 彼はやさしくて、（）とても礼儀正しい。
 ④ 曆の上では秋だ。（）まだまだ暑さはきびしい。

ア すると ウ そのうえ
 ウ けれども エ それとも

言葉は、その言葉が用いられる地域の文化に影響を受ける。したがって、同じ語句でも、その語句の表す意味は、地域によって微妙に異なる。

ア 同じ語句の意味が地域によって異なるのは、言葉が文化の影響を受けるからである。
 イ 言葉が文化に影響を受けるのは、同じ語句でも意味が地域によつて異なるからである。

ウ 言葉は文化の影響を受けるが、しかし、言葉は地域によつて異なる。

- (4) 次の文の内容に当たるものを選びなさい。

今日、技術の革新によつて多くの情報が瞬時に手に入るようになつた。しかし、これは良いことばかりではない。

ア 多くの情報が瞬時に手に入るようになつたことの利点を、これから述べようとしている。

イ 多くの情報が瞬時に手に入るようになつたことによる問題点を、これから述べようとしている。
 ウ 多くの情報が瞬時に手に入るようになつたことから、話題を変えようとしている。

〔①〕 〔②〕 〔③〕 〔④〕

言葉1 指示する語句と接続する語句(3)

接続する語句の種類

説明・補足：前に述べた内容をまとめたり、言い換えたり（説明）する。また、内容を補う（補足）。

(例) 彼は父の弟の息子^{かわいこ}、すなわち、私のいとこ^{いとこ}だ。

当店の駐車場代^{しゆしゃじょうだい}は無料です。

ただし、千円以上の買い物をされたお客様に限ります。

説明・補足の語句

つまり すなわち 要するに
なぜなら というのも ただし ちなみに

転換：前に述べた内容と話題を変える。

(例) 以上、天気予報でした。さて、次のニュースです。

転換の語句

さて ところで では

では
後ろに、前の内容の具体例が示される。
例えば

接続する語句の使われ方

特に説明的な文章では、前後の内容の関係をはっきりと表すために、接続する語句が多く用いられる。それぞれの語句がどのような関係を表すのかに注意すると、文章の内容が捉えやすくなる。

だから したがって

前に、原因や理由が示されている。

しかし ところが だが

前に述べた内容から予想されることは逆の内容が後にくる。
後ろで、論が展開していくことが多い。

つまり

後ろに、まとめの内容や結論が示されることが多い。

なぜなら

後ろに、前の内容の原因や理由が示される。

指示する語句と接続する語句(3)

(1) 次の文章の要点を示すものを——線部ア～ウから選びなさい。

古くから、日本の家屋は、夏の蒸し暑さをさけるために風通しのよい作りになっている。一方で、寒さの厳しい国の家屋には、熱を逃がさないよう工夫がみられる。つまり、その地域の気候の特徴が、家屋の作り方に影響するのである。

(2) 次の一線部の内容に対する、理由を表すものを選びなさい。

たしかに文字をたくさん読むことは、現代のいそがしい学生にとっては難しいことでしょう。しかし、私は、学生のみなさんにこそ本を読んでほしいと思っています。なぜなら、若いころに出会う文章は、いずれその人にとって貴重な財産になるからです。

ア 本を読むことは、いそがしい学生には難しいから。
イ 「私」は学生にこそ本を読んでほしいと思っているから。
ウ 若いころに出会う文章は、その人にとって貴重なものだから。

(3) 次の文の一線部は、何に対する具体例か。適当なものを選びなさい。

日本の生活は、貿易に支えられている。例えば、スーパーで売られている食品には、外国産のものが多くみられる。また、身の回りの日用品にも、外国で作られたものがたくさんある。

ア 日本の生活は貿易に支えられていること。
イ スーパーで売られている食品は外国産が多いこと。
ウ 身の回りの日用品に、外国の製品が多いこと。

(4) 次の文章の()に入る言葉として、適当なものを選びなさい。

大気中の二酸化炭素濃度の増加に対し、国際社会では二酸化炭素の排出を抑える取り組みが進められています。また、企業でも、環境にやさしい製品づくりが行われるようになつてきました。()、私たち一人一人にできることは何でしょうか。

ア すなわち
ウ では
エ なぜならば

大人になれなかつた弟たちに…… (1)

米倉 齊加年

そのころは食べ物が十分になかったので、母は僕たちに食べさせて、自分はあまり食べませんでした。でも弟のヒロユキには、母のお乳が食べ物です。母は自分が食べないので、お乳が出なくなりました。^①ヒロユキは食べるものがない。おもゆどいっておかゆのもつと薄いのを食べさせたり、やぎのミルクを遠くまで買いに行つて飲ませたりしました。

でも、ときどき配給がありました。ミルクが一缶、それがヒロユキの大切な大切な食べ物でした……。

みんなにはとうていわからないでしょうが、そのころ、甘いものはぜんぜんなかつたのです。あめもチョコレートもアイスクリームも、お菓子はなんにもないころなのです。食いしん坊だった僕には、甘い甘い弟のミルクは、よだれが出るほど飲みたいものでした。

(中略)

僕はかくれて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。^② それも、何回も……。

僕にはそれがどんなに悪いことか、よくわかつていたのです。でも、僕は飲んでしまったのです。僕は弟がかわいくてかわいくてしかたがなかつたのですが、……それなのに飲んでしました。

戦争中の「僕」の家族の状況

・作品の時代：太平洋戦争の真っ最中

・「僕」の家族：「僕」・妹・弟（ヒロユキ）・父・母・祖母

※ヒロユキは生まれて間もなかった。

家族の状況

父…………戦争に行って留守

「僕」の家…アメリカのB29が毎日のように空襲を行つて、夜は自分たちで掘つた防空壕でねていた。

食料不足

戦争中、食料などの物資が不足し、米などの生活必需品の販売は政府に管理されていた。管理された生活必需品は、消費者ごとに量を割り当てて配給された。

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(3) 本文の内容に当てはまらないものを選びなさい。

(1) —線①「ヒロユキは食べるものがないません」とあるが、ヒロユキの食べ物として誤っているものを選びなさい。

ア おもゆ イ お菓子
ウ やぎのミルク エ 配給のミルク



(2) —線②「ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました」とあるが、「僕」がこのようなことをした理由を選びなさい。

ア おいしそうなミルクを飲む弟をにくらしく感じたから。
イ ヒロユキにはほかの食べ物もあると思っていたから。
ウ 甘いものがほかになく、弟のミルクがどうしても欲しかったから。
エ ミルクを飲むことが悪いことだと當時はわからなかつたから。



(3) 本文の内容に当てはまらないものを選びなさい。

ア 母は子供たちに少しでも多く食べさせようと、自分はあまり食べなかつた。
イ 母は、自分であまり食べなかつたので、お乳が出なくなつてしまつた。
ウ 当時は、あめやチョコレートは、ときどき配給されるだけで、貴重品だつた。
エ 「僕」はヒロユキの大切なミルクを何度も盗み飲みしてしまつた。



大人になれなかつた弟たちに……(2)

米倉 齊加年

あまり空襲がひどくなってきたので、母は疎開しようと言いました。

した。それである日、①祖母と四歳の妹に留守番を頼んで、母が弟をおんぶして僕と三人で、親戚のいる田舎へ出かけました。ところが、親

戚の人は、はるばる出かけてきた母と弟と僕を見るなり、うちに食べ物はないと言いました。僕たちは食べ物をもらいに行つたのではな

かつたのです。引っ越しの相談に行つたのに。母はそれを聞くなり、

僕に帰ろうと言つて、くるりと後ろを向いて帰りました。

④そのときの顔を、僕は今でも忘れません。強い顔でした。でも悲し

い悲しい顔でした。僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。

僕たち子供を必死で守ってくれる母の顔は、美しいです。僕はあのど

きのことを思うと、いつも胸がいっぱいになります。

疎開

戦争中、空襲などを避けるために、都市から地方への移住が行われた。これを疎開という。なお、「僕」の家族が暮らしているのは福岡で、こののち、南に二十キロほどのところにある石釜という村に疎開することとなる。

現在の「僕」の母への思い

本文では、現在の「僕」が戦争中のことを振り返っている。親戚のいる田舎での出来事の描写からは、母に対する「僕」の思いが強く感じられる。

強い顔、悲しい悲しい顔、美しい顔
子供を必死で守ってくれる母の顔

・現在の「僕」：そのときの母の顔は今でも忘れない。

あのときのことを思うと、胸がいっぱいになる。

 確認テスト
本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) 線①「親戚のいる田舎へ出かけました」とあるが、なぜ親戚のもとに出かけたのか。適当なものを選びなさい。

ア イ ウ エ
三人で先に疎開するため。
引っ越しの相談をするため。
弟を親戚にあずけるため。
食べ物を分けてもらうため。

(2) 線②「見るなり」の意味を選びなさい。

ア ウ 見た通りに
イ エ 見るとすぐ見
るのことなく

(3) 線③「くるりと後ろを向いて帰りました」とあるが、このと

きの母の気持ちとして適當なものを選びなさい。

アイ 食べ物をもらいに来たと誤解され、やるせない気持ち。
エウ 食べ物がもらえないことに、がつかりする気持ち。
親戚の人に相談ができず、途方にくれる気持ち。
親戚の人の冷たい態度に、あきれはてる気持ち。

(4) 線④「そのときの顔」を、「僕」はどのような顔だと思つて
いるか。解答欄に当てはまるよつに、本文から十五字で書きぬきな
さい。

母の顔。

大人になれなかつた弟たちに…… (3)

米倉 齊加年

(一^{ぱく}僕^のの家族^は石釜^{いしがま}という村^に疎開^{そかい}することとなつた。疎開先^{では}配給^{がなく}、食料不足^{が続いていた。})

ヒロユキは病氣^{になりまし}た。僕たちの村から三里くらい離れた町の病院に入院しました。僕は学校から帰ると、毎日、まきと食べ物を祖母^{に用意してもら}い、母と弟のいる病院に、バスに乗つて出かけました。

十日間くらい入院したでしようか。

ヒロユキは死にました。

暗い電氣の下で、小さな小さな口に綿に含ませた水を飲ませた夜を、僕は忘れられません。泣きもせず、弟は静かに息をひきとりました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

(中略) 「僕」は、死んだヒロユキをおんぶした母と、病院から家まで帰つた。次はその道中の場面である。空は高く高く青く澄んでいました。ブウーンブウーンというB29の独特のエンジンの音がして、青空にきらつきらつと機体が美しく輝いています。道にも畠にも、人影はありませんでした。歩いているのは三人だけです。

母がときどきヒロユキの顔に飛んでくるはえを手ではらいながら、
①言いました。
「ヒロユキは幸せだった。母と兄とお医者さん、看護婦さんにみとら
れて死んだのだから。空襲^{くうしゅう}の爆撃^{ばくげき}で死ねば、みんなばらばらで死ぬか
ら、もつとかわいそうだつた。」

人物の心情の描写

物語では、人物の心情が、情景を通して表現されることがある。

(情景描写)
・暗い電氣の下で

- ・空は高く高く青く澄んでいました。
- ・きらつきらつと機体が美しく輝いています。

家では祖母と妹が、泣いて待つていました。部屋を貸してくださつて、農家のおじいさんが、杉板^{すぎいた}を削つて小さな小さな棺^{かん}を作つてくれました。弟はその小さな小さな棺に、母と僕の手でねかされました。小さな弟でしたが、棺が小さすぎて入りませんでした。母が、大きくなつていたんだね、とヒロユキのひざを曲げて棺に入れました。そのとき、母は初めて泣きました。

 本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) 病院でのヒロユキの死の場面で、「僕」の心情を反映した情景が

描写されている一文を探し、その最初の三字を答えなさい。

(2) —線①「ヒロユキは幸せだった」とあるが、母がこのような言

い方をしたのはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 食べ物がない中でもヒロユキが成長していたことに気付き、ヒ

ロユキをふびんに感じたから。

イ ヒロユキがみなにみとられたことに思いいたり、空襲で亡くな

るよりも幸せではないかと思いつなやんだから。

ウ 空襲で死ぬことに比べたらまだよかつたと考え、自分のやりき

れない気持ちを無理に納得させようとしたから。

(3) —線②「母は初めて泣きました」とあるが、このときの母の気持ちを説明した次の文の()に当てはまる言葉を、本文中から十

字以内で書きぬきなさい。

食べ物が十分がない中でも、ヒロユキが()ことを知り、改めてヒロユキを亡くしたことへの深い悲しみを感じている。

(4) 本文の内容に当てはまらないものを選びなさい。

ア ヒロユキが病気になつてから、毎日「僕」は町の病院までバス

で通つた。

イ 十日間ほどの入院後、ヒロユキは栄養失調で亡くなつた。

ウ 病院から家まで帰る道中、空は青く澄んでいた。

エ 家で待っていた妹は、ヒロユキを棺に入れるまで涙を見せな

かつた。

大人になれなかつた弟たちに…… (4)

米倉
まさかね
斎加年

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

「僕」の家族 家族の状況	戦争中の様子と「僕」の家族
「僕」の家族：「僕」・妹・弟（ヒロユキ）・父・母・祖母 家族の状況	<ul style="list-style-type: none"> 父…………戦争に行って留守 「僕」の家…………毎日のように空襲があり、夜は防空壕でねていた。
食料不足	<ul style="list-style-type: none"> 母…………自分はあまり食べず、「僕」たちに食べさせていた。 ヒロユキ…………配給のミルクが大切な食べ物だった。 「僕」…………かくれて、ヒロユキのミルクを何回も盗み飲みしてしまった。
親戚のいる田舎での出来事	<ul style="list-style-type: none"> 引っ越しの相談に行つたのに、うちに食べ物はない、と言われた。 そのときの母の顔……強い顔、悲しい悲しい顔、美しい顔 子供を必死で守ってくれる母の顔
石釜への疎開	疎開者には配給もなく、食べ物が不足していた。

「僕」の思い	ヒロユキの死
弟の死後	<p>ヒロユキの死（情景描写）　空は高く高く青く澄んでいました （病院から家に帰る道中）　きらつきらつと機体が美しく輝いて 家に帰つて</p> <p>ヒロユキを棺に入れられた。</p> <p>母は、大きくなつていたんだね、と言い、初めて泣いた。</p>
現在の「僕」の思い	<p>ヒロユキの死の九日後（八月六日）ヒロシマに、その三日後（八月九日）ナガサキに原爆弾が落とされた。</p> <p>一九四五年八月十五日に戦争は終わつた。</p> <p>ひもじかつたことと、弟の死は一生忘れない</p>

題名や表記に込められた思い

この作品の題名は、「弟たち」と複数形になつてゐる。これは「僕」の弟である「ヒロユキ」以外にも、大勢の子供たちが戦争で亡くなり、「大人になれなかつた」ことを意味している。

(1) 本文の内容に当てはまらないものを選びなさい。

ア 戦争中、「僕」の父は戦争に行って留守だった。

イ 戦争中、毎日のように空襲があつたので、「僕」は防空壕でね

ていた。

ウ 戦争中、食べ物が不足していたので、母は自分ではあまり食べずに、「僕」たちに食べさせていた。

エ 戦争中、甘いものが全くななく、「僕」はヒロユキのミルクを一度だけ盗み飲みしてしまった。

(2) 本文の内容に当てはまるものを選びなさい。

ア ある日、「僕」たちは食べ物をもらいに親戚のいる田舎に出かけたが、断られてしまった。

イ 「僕」の家族が疎開した石釜では、疎開者にも米が配給されないと、それでも食べ物が不足していた。

エ ウ 病院から家に帰る途中、B29の機体が美しく輝いていた。

(3) 次の各文を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア 一九四五年八月十五日に戦争が終わった。

イ 「僕」はヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまった。

ウ 「僕」の家族は石釜に疎開した。

エ 病院から家に帰る途中、B29の機体が美しく輝いていた。

(4) この作品の題名は「弟たち」と複数形になっている。この複数形の表記に込められた思いとして最も適当なものを選びなさい。

ア 「僕」の、弟の死に対する深い悲しみが込められている。

イ 「ヒロユキ」と「僕」を必死で守ろうとした母への思いが込められている。

ウ 「ヒロユキ」の他にも、戦争によって亡くなつた子供が大勢いたことを暗示している。

星の花が降るころに(1)

安東みきえ

銀木犀の花は甘い香りで、白く小さな星の形をしている。そして雪が降るように音もなく落ちてくる。去年の秋、夏実と二人で木の真下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。気がつくと、地面が白い星形でいっぱいになっていた。これじゃふめない、これじゃもう動けない、と夏実は幹に体を寄せ、二人で木に閉じ込められた、そう言って笑った。

——ガタン！

びっくりした。去年のことをぼんやり思い出していたら、机にいきなり戸部君がぶつかってきた。戸部君は振り返ると、後ろの男子に向かってどなつた。

「やめろよ。押すなよなあ。俺がわざとぶつかったみたいだろ。」

自習時間が終わり、昼休みに入った教室はがやがやしていた。

私は戸部君をにらんだ。

「なんか用？」

「宿題をきこうと思つて来たんだよ。そしたらあいつらがいきなり押してきて。」

(中略)

「わかんないよ。そんなの自分で考えなよ。」

隣の教室の授業も終わったらしく、椅子を引く音がガタガタと聞こえてきた。私は戸部君を押しのけるようにして立ち上がり廊下に向かった。

戸部君に関わり合っている暇はない。今日こそは仲直りをすると決めてきたのだ。はられた。ポスターや掲示を眺めるふりをしながら、廊下だった。

下で夏実が出てくるのを待った。

「私」と夏実の関係の変化

物語・小説では、回想（過去を振り返って語ること）の場面と現在で、登場人物同士の関係が変化していることがある。

・回想（去年の秋、銀木犀の木の下）：「私」と夏実は親友だった。



・現在（昼休み、教室）：「私」は夏実と仲直りをしたいと思っている。

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

星の花が降るころに(1)

(1)

本文は去年の秋のことを振り返っている場面から始まり、途中で現在の場面に切り替わっている。去年の秋の場面の最後の五字を書きぬきなさい。ただし句読点も字数に含む。

(2)

——線部「去年のことをぼんやり思い出していた」とあるが、この場面で、「私」がいる場所を本文中から二字で書きぬきなさい。

(3)

本文から読み取れる登場人物同士の関係として適当なものを見なさい。

- ア 去年の秋、「私」と戸部君は同じクラスで、親友だった。
イ 現在、「私」と戸部君は同じクラスだが、あまり顔なじみではない。
ウ 去年の秋には、「私」と夏実は仲が良かつたが、現在では互いに不信感を持っている。
エ 去年の秋には、「私」と夏実は親密な関係だったが、現在では擦れ違いが生じている。

星の花が降るころに(2)

安東 みさえ

(「私」は夏実と仲直りをしようと、廊下に出ました。)

夏実とは中学に上がつてもずっと親友でいようと約束をしていました。だから春の間はクラスが違つても必ずいっしょに帰っていた。それなのに、何度も小さな擦れ違いや誤解が重なるうち、別々に帰るようになつてしまつた。おたがいに意地を張つていたのかもしれない。

^①お守りみたいな小さなビニール袋をポケットの上からそつとなでた。中には銀木犀の花が入っている。もう香りはなくなつているけれどもわないので。(中略)

夏実の姿が目にに入った。教室を出てこちらに向かってくる。

そのとたん、私は自分の心臓がどこにあるのかがはつきりわかつた。

^②どきどき鳴る胸をなだめるように一つ息を吸つてはくと、ぎこちなく足をふみ出した。

「あの、夏実——」

私が声をかけたのと、隣のクラスの子が夏実に話しかけたのが同時だつた。夏実は一瞬とまどつたような顔でこちらを見た後、隣の子に何か答えながら私からすっと顔を背けた。そして目の前を通り過ぎて行つてしまつた。^③音のないこま送りの映像を見ているように、変に長く感じられた。

銀木犀の花が暗示するもの

銀木犀の花は、「私」と夏実の間の関係を暗示している。

- ・去年の秋・銀木犀の花は甘い香り
- ・現在……もう香りはなくなつていて

銀木犀の花が入つた、お守りみたいなビニール袋をそつとなでるしぐさから、夏実との仲直りが上手くいくことを願う「私」の気持ちが読み取れる。

比喩を使った描写

本文では、さまざまな比喩を使って、心情や場面を表現している。

(本文) 音のないこま送りの映像を見ているように、



仲直りが上手いいかず、ショックでぼう然としている様子

星の花が降るころに(2)

(1)

——線①「お守りみたいな……そつとなでた」とあるが、ここから読み取れる「私」の心情を選びなさい。

(2)

ア 夏実との仲直りが成功することを確信する気持ち。
 イ 夏実が自分を無視したことで、落ち込みなげく気持ち。
 ウ 夏実と昔のような関係にもどれるように祈る気持ち。
 エ 夏実と仲直りが不安で、なげやりになる気持ち。

きの「私」の様子として適当なものを選びなさい。

〔 〕

(4)

本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 思い通りにことが進み、興奮する様子。
 イ 夏実に会うことができ、喜ぶ様子。
 ウ 思いがけない出来事にあわてる様子。
 エ 夏実に声をかけることに緊張する様子。

〔 〕

(3)

——線③「音のない……感じられた」とあるが、この表現が意味することを選びなさい。

〔 〕

星の花が降るころに(3)

安東みさえ

(夏実との仲直りに失敗した私は、戸部君との会話を通じて少し気持
ちが楽になりました。)

学校からの帰り、少し回り道をして銀木犀のある公園に立ち寄った。

銀木犀は常緑樹だから一年中葉っぱがしげつている。それをきれいに丸く刈り込むので、木の下に入れれば丸屋根の部屋のようだ。夏実と私はここが大好きで、二人だけの秘密基地と決めていた。ここにいれば大丈夫、どんなことからも木が守ってくれる。そう信じていられた。夕方に近くなつても日差しはまだ強い。木の下は陰になつて涼しかつた。

掃除

をしているおばさんが、草むしりの手を休めて話しかけてきた。

「いい木だよねえ、こんな時期は木陰になつてくれて。けど春先は、葉っぱが落ちて案外厄介なんだよ、掃除がさ。」

私は首をかしげた。常緑樹は一年中葉っぱがしげつているはずなのに。

「え、葉っぱはずつと落ちないんじゃないですか。」

「まさか。どんどん古い葉っぱを落つことして、その代わりに新しい葉っぱを生やすんだよ。そりやそうさ。でなきやあんた、いくら木だつて生きていけないよ。」

帽子の中の顔は暗くてよくわからなかつたけれど、笑つた歯だけは白く見えた。おばさんは、よいしょと言つて掃除道具を抱えると公園の反対側に歩いていった。

私は真下に立つて銀木犀の木を見上げた。
かたむいた陽が葉っぱの間からちらちらと差し、半円球の宙にまた

たく星みたいに光っていた。
ポケットからビニール袋を取り出した。花びらは小さく縮んで、もう色がすっかりあせている。

袋の口を開けて、星形の花を土の上にぱらぱらと落とした。
ここでいつかまた夏実と花を拾える日が来るかもしれない。それとも違うだれかと拾うかもしれない。あるいはそんなことはもうしないかも知れない。

どちらだつていい。大丈夫、きっとなんとかやっていける。

私は銀木犀の木の下をくぐつて出た。

情景が表すもの

人物の心情を反映したり、感情を思い起こさせたりする風景や場面を情景という。

・銀木犀の木の下をくぐつて出た

↓ 過去にとらわれず未来に向かつて進む様子

確認テスト 本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) 現在の「私」と夏実の関係が、銀木犀の花の様子を通して表現されている一文を探し、その最初の五字を答えなさい。

(2) 銀木犀の木の下が「私」と夏実にとってどのような場所であったかを表す言葉を、本文中から九字で探し、書きぬきなさい。

(4) おばさんとの対話を通じて、「私」はどのように変化したか。当てはまるものを選びなさい。

- ア どんなものからも守ってくれると思っていた銀木犀も変化する
と知り、頼りなく感じるようになった。
- イ 常緑樹の銀木犀も、新しい葉を生やしていると知り、過去にどうわれず未来を見据えるようになった。
- ウ 古い葉の代わりに新しい葉を生やす銀木犀の生き方を知り、夏実と決別し、新たな人間関係を築こうと考えるようになった。
- エ 大切に思っていた銀木犀の木も、掃除をする人からは厄介な存在だと知り、人によって視点が異なることを学んだ。

〔〕

星の花が降るころに(4)

安東
みさえ

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

去年の秋	昼休み(九月)
<p>(回想) 「私」と夏実は、銀木犀の木の下で花が散るのを見上げていた。</p> <p>・銀木犀の花：甘い香り、白く小さな星の形</p> <p>教室</p> <p>去年のことを見出していたら、 戸部君がぶつかってきた。</p> <p>(私) 「なんか用？」</p> <p> 迷惑でいらっしゃる気持ち</p> <p>・「私」から見た戸部君：わけがわからない</p> <p>廊下</p> <p>夏実と仲直りをしようとした。</p> <p>・銀木犀の花：お守りのように持っている もう香りはなくなっている</p> <p>仲直りに失敗した。</p> <p>夏実は目の前を通り過ぎて行ってしまった。 音のないこま送りの映像……</p> <p>夏実の他には友達とよびたい人はいない。</p>	<p>去年の秋</p>

放課後	学校からの帰り
<p>校庭</p> <p>夏実とのことを見られたのが気がかりで、戸部君を探した。</p> <p>戸部君は纖細さのかけらもないから、何を言いたしか知らない。</p> <p>戸部君は一人ボールを磨いていた。</p> <p>自分の考えていたことがくだらないことに思えた。</p> <p>戸部君と話した。</p> <p>戸部君の背はいつのまにか「私」より高くなっていた。</p> <p>公園</p> <p>銀木犀は、一年中葉っぱがしげている。</p> <p>二人だけの秘密基地、ここにいれば大丈夫と思っていた。</p> <p>おばさんとの会話で、銀木犀は、古い葉を落とし、新しい葉を生やすと知った。</p> <p>・銀木犀の花：縮んで色あせている。</p> <p>←(夏実との関係の象徴)</p> <p>銀木犀の木の下をくぐつて出た。</p>	<p>学校からの帰り</p>

「私」の変化

(銀木犀を使った情景描写)

- ・去年の秋……甘い香り、夏実と二人で見上げた。
- ・廊下の場面……もう香りはなくなっている。

お守りのように持っている。

・最後の場面……土の上に落とした。

お守りのように持っていた銀木犀の花びらを捨て、銀木犀の木の下から出していく姿から、過去にとらわれずに進もうとするようになった、「私」の変化がわかる。



確認テスト 教科書本文を読んで、問い合わせなさい。

(1)

次の中から、廊下での場面に当てはまるものを選びなさい。

- ア 「私」は、銀木犀の花を土の上にぱらぱらと落とした。
イ 「私」は、銀木犀の花が入ったビニール袋をなでた。
ウ 「私」は、落ちてくる銀木犀の花を見上げていた。

(2)

「私」についての次の各文を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

- ア 銀木犀の木の下をくぐって出た。
イ 夏実と一緒に、銀木犀の木の下で花が散るのを見上げた。
ウ 銀木犀も古い葉を落とし、新しい葉を生やすのだと知った。



(3)

「私」についての次の各文を、本文の流れに沿って並べかえなさい。
去年の出来事を思い出していたら戸部君にぶつかられた。

- ア 公園でおばさんと銀木犀の話をした。

イ 戸部君の背が自分より高くなっているのに気づいた。

ウ 夏実との仲直りに失敗した。

(4)

本文中の銀木犀の花に関する描写からわかるることを選びなさい。

- ア 甘い香りの銀木犀の花が、最後の場面で色あせていることから、「私」が銀木犀に興味を失っていることがわかる。

- イ 銀木犀の花を、「私」がお守りのようにもつてていることから、銀木犀は幸せを呼ぶという言い伝えがあることがわかる。

ウ 銀木犀の花を土の上に落とす「私」の様子から、「私」が過去にとらわれず、前向きに生きるようになったことがわかる。



言葉2 方言と共通語

方言と共通語

使われる語句や発音などに、地域ごとの特色が表れた言葉を方言といふ。これに対し、全国どこでも通用するような言葉を共通語といふ。

表現の違い

方言では、共通語とは異なる表現が使われることがある。共通語では使われない表現があつたり、同じ語句でも共通語と意味が違つたりする。

(例) 自分が出したものはなおしてよ。(西日本の方言)

自分が出したものは片づけてよ。(共通語)

	方言		共通語
犬や・犬じや	かたす・なおす・のける	片づける	
	からつもの・やきもの	せどもの	
ほかす・ほうる・うつちやる	捨てる		
犬だ			

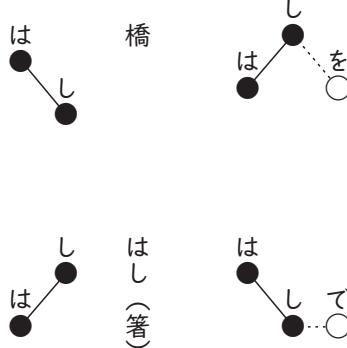
発音の違い

方言と共通語では、同じ語句でも発音の仕方が異なることがある。

・共通語 橋を渡る。

箸で食べる。

・近畿地方の方言 橋



確認テスト

(1) 次の中から共通語を選びなさい。

- ア 今日は休みだ。
ウ 今日は休みじや。
- イ 今日は休みや。

(4) 次の——線部を共通語で言うときの発音を選びなさい。

橋を渡る。

(2) 次の方言を共通語で言うとどうなるか答えなさい。

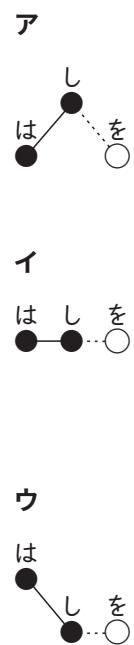
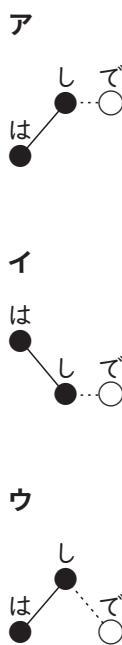
かたす（東日本の方言）・なおす（西日本の方言）

(3) 次の方言を共通語で言うとどうなるか答えなさい。

なげる（北海道・東北地方など）・ぶちやる（北陸地方など）
うつちやる（関東地方・東海地方など）・ほかす（近畿地方など）
うしつる（九州地方など）・していやん（南西諸島など）

(5) 次の——線部を共通語で言うときの発音を選びなさい。

箸で食べる。



(6) 次の各文は共通語、方言のどちらの説明か。共通語ならア、方言ならイで答えなさい。

- ① その地方の生活や文化を反映した言葉である。
② 不特定多数の人々を対象とした文章や、日常生活を離れた抽象的な内容を表す文章で用いられる。

① [] ② []

漢字2 漢字の音訓

音読みと訓読み

音読み…漢字の中国語での発音を元にした読み方。

(例) 花・カ (花瓶・花粉)

訓読み…漢字に、もともと日本にあつた言葉をあてはめた読み方。

(例) 花・はな (花びら)

※音読みは単独では意味がわかりにくいものが多く、訓読みは単独でも意味がわかりやすいものが多い。また、訓読みは送り仮名が付くものも多い。

- (例) 湖・音・コ (塩湖)
 鮮・音・セン (新鮮)
 企・音・キ (企業)
 訓・みずうみ (湖)
 訓・あざ・やか (鮮やか)
 訓・くわだーてる (企てる)

複数の音読み・訓読みがある漢字

漢字の中にはいくつかの音読み・訓読みをもつものがある。

- (例) 行 音読み「コウ (行動)・ギョウ (行事)・アン (行脚)」
 訓読み「い・く (行く)・ゆ・く (行く)・おこな・う (行う)」

複数の読み方をする熟語

熟語の中には、読み方の違いによって異なる意味を表すものがある。

(例) 「大事」

- ・今日は大事な用事がある。
- ・友達とけんかして大事になつた。

「市場」

- ・株式市場が注目される。
- ・市場に行つて買い物をする。

確認テスト

漢字の音訓

(1) 次の漢字の読み方のうち、音読みを選びなさい。

外

ア そと イ がい ウ はずーす エ ほか

ア 時間がたつ。
ウ 世間を騒がせる。

イ 広い空間。
エ 林間学校。

(4) 次の中から、——線部の漢字の読み方が他と異なるものを選びなさい。

(5) 次の中から、——線部の漢字の読み方が他と異なるものを選びなさい。

(2) 次の中から、——線部の漢字の読み方が音読みであるものを選びなさい。

ア 希望をかなえる。
ウ ご所望の品。

イ 願望を抱く。
エ 望郷の念。

(3) 次の中から、——線部の漢字の読み方が訓読みであるものを選びなさい。

ア 技巧をこらす。
エ 街角の風景。

イ 月見だんご。
エ 真夏の暑さ。

(6) 次の文の——線部の読みを書きなさい。

休み中は分別のある行動をとりましょう。

ア 交通を遮断する。
ウ 難解な問題。

イ 湿原の生き物。
エ 背丈がのびる。

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ(1)

(動物行動学者である筆者は、シジュウカラの研究をしている。)

〔4〕……二〇〇八年六月のある日、研究の転機がおとずれました。いつものように観察に向かうと、シジュウカラの巣箱にアオダイショウが迫り、ひなを食べようとしているところに出くわしたのです。

そのとき、親鳥はヘビに接近し、つばさを広げて威嚇しながら、けたたましく「ジャージャー」と鳴いていました。それまで、朝から夕方までシジュウカラを観察してきましたが、こんな鳴き声を聞いたのは初めてでした。シジュウカラの卵やひなを襲う天敵には、ヘビの他にカラスやネコ、イタチ類が挙げられます。親鳥は、これらの天敵には「ピーツピ」と鳴くのに対し、ヘビにだけは「ジャージャー」と鳴いていたのです。鳴き声を録音し、コンピュータで分析してみても、その違いは明らかでした。

〔5〕私は、これらの観察から、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声が、警戒すべき対象としての「ヘビ」を意味する「単語」になつてているのではないかという仮説を立てました。

(〔4・5〕は教科書本文における形式段落番号を表します)

鈴木俊貴

研究のきっかけと仮説

研究のきっかけ

ある日、シジュウカラが「ジャージャー」と鳴くのを初めて聞いた。

※シジュウカラの親鳥は、

カラス・ネコ・イタチ類には「ピーツピ」と鳴き、
ヘビにだけは「ジャージャー」と鳴いていた。

・仮説

シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声は、「ヘビ」を意味する「単語」なのではないか。

〔5〕	〔4〕
仮説	研究のきっかけ

(3) 筆者が立てた仮説となるように、次の文の解答欄に入る言葉を、本文中から書きぬきなさい。

(1) 線部 「研究の転機」とは何か。次から選びなさい。

ア 筆者が、研究のために朝から夕方までシジュウカラを観察してきたこと。

イ
シジュウカラの親鳥が、卵やひなを襲う天敵に、「ピーツピ」と鳴くこと。

ウ
ヘビに対し、シジュウカラの親鳥が「ジャージャー」と鳴くのを聞いたこと。

シジュウカラの鳴き声を録音し、コンピュータで分析をしてみたこと。

(2) 次のそれぞれの天敵に対し、シジユウカラは何と鳴くか。

・ イタチ類	・ カラス
	
・ ネコ	・ ヘビ
	

(4) 本文の内容に合うものを選びなさい。

「鳴き声は、
「」を意味する
「」である。

シ ジ ュ ウ カ ラ の 「 」 と い う

二〇〇八年六月に、筆者は、カラスがシジユウカラのひなを食べようとしているところに出くわした。
二〇〇八年六月に、筆者は、シジユウカラのひながアオダイショウに「ジャージャー」と鳴くのを聞いた。
二〇〇八年六月に、筆者は、それまで聞いたことがなかつたシジュウカラの鳴き声を聞いた。

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ(2)

(筆者は、「ジャージャー」という鳴き声が「ヘビ」を意味する「単語」であるなら、それを聞いたシジュウカラはヘビを警戒するようしぐさを示すかもないと考え、検証を行った。)

〔8〕 シジュウカラは、「ジャージャー」という鳴き声を聞くと、巣箱が掛かった木の周辺で地面をじっと見下したり、時には巣箱の穴をのぞいたり、普段とは明らかに異なるしぐさを示しました(グラフ1)。いっぽう、カラスやネコなどを警戒するときの「ピーツピ」という鳴き声を聞かせても、これらの行動は見られず、首を左右に振り、周囲を警戒するだけでした(グラフ2)。また、鳴き声を流さない場合には、どのような種類の警戒行動もほとんど示しませんでした(グラフ3)。

〔9〕 ヘビは地面から木をはい上り、巣箱に侵入して卵やひなを襲います。親鳥が卵やひなを守るために、ヘビをいち早く見つけ出し、追い払わなければなりません。「ジャージャー」という鳴き声を聞いて地面や巣箱を確認しに行くことは、親鳥がヘビの居場所をつき止めるうえで大いに役立つと考えられます。

(8・9は教科書本文における形式段落番号を表します)

〔9〕	〔8〕																								
<p>検証一の結果 「ジャージャー」という鳴き声を聞くと、シジュウカラは地面や巣箱を確認した。</p> <p>検証一の考察・解釈 ヘビは地面から木をはい上り、巣箱に侵入するので、「ジャージャー」という鳴き声は、ヘビの居場所をつき止めるのに役立っている。</p>	<p>シジュウカラの反応（全14羽中）</p> <p>グラフ1 「ジャージャー」という鳴き声への反応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>反応</th> <th>数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地面を確認</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>巣箱をのぞく</td> <td>13.5</td> </tr> <tr> <td>左右を警戒</td> <td>13.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>グラフ2 「ピーツピ」という鳴き声への反応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>反応</th> <th>数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地面を確認</td> <td>13.5</td> </tr> <tr> <td>巣箱をのぞく</td> <td>13.5</td> </tr> <tr> <td>左右を警戒</td> <td>13.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>グラフ3 鳴き声を流さない場合の反応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>反応</th> <th>数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地面を確認</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>巣箱をのぞく</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>左右を警戒</td> <td>1.5</td> </tr> </tbody> </table>	反応	数	地面を確認	14	巣箱をのぞく	13.5	左右を警戒	13.5	反応	数	地面を確認	13.5	巣箱をのぞく	13.5	左右を警戒	13.5	反応	数	地面を確認	1.5	巣箱をのぞく	1.5	左右を警戒	1.5
反応	数																								
地面を確認	14																								
巣箱をのぞく	13.5																								
左右を警戒	13.5																								
反応	数																								
地面を確認	13.5																								
巣箱をのぞく	13.5																								
左右を警戒	13.5																								
反応	数																								
地面を確認	1.5																								
巣箱をのぞく	1.5																								
左右を警戒	1.5																								

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (1) ⑧・⑨段落で述べられていることを選びなさい。

⑧ [] ⑨ []

ア 検証の目的
ウ 検証の結果

イ 検証の方法
エ 検証結果に対する考察・解釈

- (2) 「ジャージャー」という鳴き声を聞かせた場合に、地面を確認し

たシジュウカラは、全十四羽中何羽か。グラフ1を参考に、算用数字で答えなさい。

[] 羽

- (3) 「ピーツピ」という鳴き声を聞かせた場合に、地面を確認したシジュウカラは、全十四羽中何羽か。グラフ2を参考に、算用数字で答えなさい。

[] 羽

- (4) 答えなさい。
筆者の検証で、シジュウカラが左右を警戒するという反応を最も示したものを見なさい。

ア 「ジャージャー」という鳴き声を聞かせた場合
イ 「ピーツピ」という鳴き声を聞かせた場合
ウ 鳴き声を流さない場合

[]

- (5) 線部「地面や巣箱を……大いに役立つ」とあるが、なぜ地面や巣箱を確認することがヘビの居場所をつき止めるのに役立つか。適当なものを選びなさい。

ア ヘビは地面から木をはい上り、巣箱に侵入するから。
イ 鳴き声によって、シジュウカラの反応が異なるから。
ウ シジュウカラは、カラスやネコには「ピーツピ」と鳴くから。

[]

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ(3)

(検証1の結果からは、「ジャージャー」という鳴き声がヘビを表す「單語」であるとは十分に主張できないと考えた筆者は、「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラが、ヘビの姿をイメージしているかどうかを検証した。)

[12] 実験の手順は、以下のとおりです。まず、二十センチメートルほどの長さの小枝にひもを付け、木の幹に沿うようにぶら下げます。そして、スピーカーから「ジャージャー」という鳴き声を流します。そのうえで、遠くからひもをゆっくりと引き、まるで幹をはい上るヘビのように小枝を動かしました。

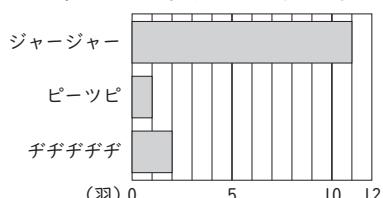
[13] すると、「ジャージャー」という鳴き声を聞かせたシジュウカラは、ヘビのように動く小枝に近づき、確認することがわかりました。いっぽう、「ジャージャー」以外の鳴き声を聞かせた場合、小枝に接近するシジュウカラはほとんどいませんでした(グラフ4)。また、「ジャージャー」という鳴き声を聞かせながら、小枝を大きく左右に揺らし、ヘビに似ていない動きとして見せた場合も、同様の結果となりました(グラフ5)。

[14] つまり、シジュウカラは、「ジャージャー」という鳴き声から幹をはうヘビの姿をイメージし、それに似た動きをする小枝をヘビと見間違えたのだと解釈できます。

[12]～[14]は教科書本文における形式段落番号を表します

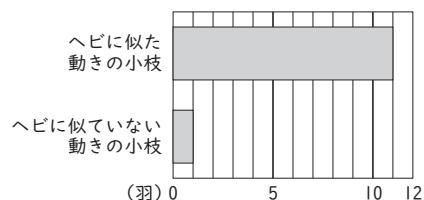
[14]	[13]	[12]
検証2の方法		
検証2の結果 「ジャージャー」という鳴き声を聞かせ、ヘビに似た動きの小枝を見せるとき、シジュウカラは小枝に近づき、確認した。		

グラフ4 鳴き声による反応の違い



三種類の鳴き声のそれぞれの場合で、ヘビに似た動きの小枝に近づいたシジュウカラの数(全12羽中)

グラフ5 小枝の動きによる反応の違い



「ジャージャー」という鳴き声を聞かせ、それぞれの動きの小枝に近づいたシジュウカラの数(全12羽中)

鈴木俊貴

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) **[12] ~ [14]** 段落で述べられていることを選びなさい。

[12] [] [] [13] [] [] [14] [] []

- ア 検証の目的 イ 検証の方法
ウ 検証の結果 エ 検証結果に対する考察・解釈

(2) 「ジャージャー」という鳴き声を聞かせた場合に、ヘビに似た動きの小枝に近づいたシジュウカラは、全十二羽中何羽か。グラフ4を参考に、算用数字で答えなさい。

[] 羽

(3) 「ジャージャー」という鳴き声を聞かせ、ヘビに似ていない動きの小枝を見せた場合に、小枝に近づいたシジュウカラは、全十二羽中何羽か。グラフ5を参考に、算用数字で答えなさい。

[] 羽

(4) 答えなさい。
筆者の検証で、シジュウカラがヘビに似た動きの小枝に近づくと
いう反応を最も示したものを見なさい。

- ア 「ジャージャー」という鳴き声を聞かせた場合
イ 「ピーツピ」という鳴き声を聞かせた場合
ウ 「ヂヂヂヂヂヂ」という鳴き声を聞かせた場合

[] []

(5) 本文の内容に合うものを選びなさい。

- ア 答えなさい。
イ 「ジャージャー」以外の鳴き声を聞かせると、ヘビに似ている動きであってもシジュウカラは小枝にあまり近づかなかった。
ウ 「ジャージャー」という鳴き声を聞かせた場合は、動きがヘビに似ていない小枝にもほとんどのシジュウカラは接近した。
エ 実験の結果からは、「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラがヘビをイメージしているとは解釈できない。

[] []

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ(4)

〔15〕二つの実験の結果から、「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラはヘビの姿をイメージし、そのうえで、ヘビを探す際に役立つ特別な行動を取ることがわかりました。ここから、「ジャージャー」という鳴き声は「ヘビ」を意味する「単語」であると結論づけられます。

〔16〕研究者の間では、長年にわたって、「言葉」をもつのは人間だけだと信じられてきました。動物の鳴き声は、「怒り」や「喜び」といった単なる感情の表れであり、物の存在や出来事を伝える「単語」ではないと考えられてきたのです。そのため、動物の鳴き声に関する詳細な研究は、これまで十分に進められていませんでした。しかし、今回の研究で、身近な小鳥のシジュウカラにもヘビを示す「単語」があり、つがいが協力してヘビを追い払ううえで役立っていることがわかりました。木をはい上り巣箱に侵入するヘビは、小鳥にとつて特別な脅威です。シジュウカラは、卵やひなを守るために、ヘビの存在を示す特別な鳴き声を進化の過程で獲得したと考えられます。

(〔15・16〕は教科書本文における形式段落番号を表します)

鈴木
俊貴

〔15〕

本文では、二つの実験の結果からわかったことをもとに、仮説が正しかったと結論づけている。

- ・二つの実験からわかったこと

「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラはヘビの姿をイメージし、ヘビを探すのに役立つ特別な行動を取る。

〔16〕
結論
シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声は、「ヘビ」を意味する「単語」である。
これまで
「言葉」をもつのは人間だけと信じられてきた。
今回の研究でわかつたこと
シジュウカラにも「単語」がある。
筆者の意見
シジュウカラは、卵やひなを守るために、特別な鳴き声を進化の過程で獲得したのではないか。

〔16〕

確認テスト

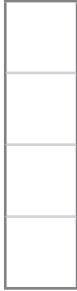
本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(3) 線部「動物の鳴き声に関する……進められできませんでした」とあるが、これはなぜか。適当なものを選びなさい。

(1) 次の文が、二つの実験の結果からわかつたことのまとめとなるよう、解答欄に当てはまる言葉を本文中から書きぬきなさい。

「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラは、

ヘビの姿を 

しており、


際に役立つ特別な行動を取る。

(4) 本文の内容に合うものを選びなさい。

(2) 次の文が、二つの実験の結果に基づく筆者の結論となるように、解答欄に当てはまる言葉を本文中から書きぬきなさい。

シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声は、

- ア 二つの実験の結果からも、「単語」をもつのは人間だけだと考
えられる。
イ 動物の鳴き声は、「怒り」や「喜び」などを表しており、物の
存在や出来事を伝えることはできない。
ウ 今回の実験の結果から、ヘビは木をはい上り、シジュウカラの
巣箱に侵入するのだと結論づけられる。

エ ヘビはシジュウカラにとって特別な脅威なので、ヘビの存在を
示す特別な鳴き声を進化の過程で獲得したと考えられる。



「」を意味する「



」である。



「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ(5)

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

(①～⑦は教科書本文における形式段落番号を表します)

鈴木俊貴

本文では、実験や観察の結果といった事実をもとに、筆者の意見が述べられている。

・事実・実験や観察の結果

←

・意見・結果に対する考察・解釈

確認テスト

教科書本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1)

仮説の検証ーについて、適当なものを選びなさい。

- ア** 検証の目的は「ピーツピ」というシジュウカラの鳴き声が、ヘビを示す単語であるかを調べることである。
- イ** 「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラは、左右を確認する場合が多くた。
- ウ** シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声は、ヘビに対する警戒行動に役立っているといえる。
- エ** 検証によって、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声がヘビを示す「単語」であるという仮説が証明された。

〔 〕

(3)

本文の内容に合うものを選びなさい。

- ア** 筆者の研究のきっかけは、ヘビが「ピーツピ」と鳴くのを聞いたことである。
- イ** 筆者は自らの仮説の検証を通じて、シジュウカラがヘビの姿をイメージすることなく警戒行動を取ることを証明した。
- ウ** 筆者は、実験の結果という事実を基に、シジュウカラにはヘビを意味する「単語」があると結論づけている。

〔 〕

(2) 仮説の検証2について、適当なものを選びなさい。

- ア** 検証の目的は「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラが、ヘビの姿をイメージしているか調べることである。
- イ** 検証では、ヘビを見せながら三種類の鳴き声を聞かせ、それぞれの場合のシジュウカラの様子を観察した。
- ウ** 「ジャージャー」という鳴き声を聞くと、シジュウカラはどのような動きの小枝にも近づいた。
- エ** 検証からは、シジュウカラは小枝をヘビとよく見間違えることが確かめられた。

〔 〕

音読を楽しもう

大阿蘇(1)

三好
達治

「大阿蘇」の特色

- ・言葉で分類する…**口語詩**
- ・形式で分類する…**自由詩**
- ・内容で分類する…**叙事詩**(・**叙景詩**)

詩の種類

詩は、使われている言葉、形式、内容などからさまざまに分類される。

言葉

文語詩…昔の言葉（文語）で書かれた詩。
口語詩…現代の言葉（口語）で書かれた詩。

形式

定型詩…音数に一定のきまりがある詩。

自由詩…音数にきまりがない詩。

散文詩…普通の文章のように書かれた詩。

内容

叙情詩…作者の感情をうたつた詩。
叙事詩…神話や歴史的事件をうたつた詩。
叙景詩…自然の風景をうたつた詩。

「大阿蘇」の構成

- ・第一の場面…近景（馬）
- ・第二の場面…遠景（山、空）
- ・第三の場面…近景+作者の心情

阿蘇

阿蘇は熊本県北東部に位置する火山。高岳・中岳などの山々から構成されており、大規模なカルデラがあることで知られる。草千里浜（草千里浜）は阿蘇山中の草原で、東に噴煙をあげる中岳を見ることができる。

確認テスト

大阿蘇(1)

(1) 次の文の（　）に当てはまる言葉として適當なものを選びなさい。

昔の言葉で書かれた詩を（　）という。

ア 口語詩 イ 文語詩

〔 〕

(2) 次の文の（　）に当てはまる言葉として適當なものを選びなさい。

定型詩とは（　）である。

ア 普通の文章のよう書かれた詩。
イ 音数に一定のきまりがある詩。
ウ 音数に決まりがない詩。

〔 〕

(3) 次の文の（　）に当てはまる言葉として適當なものを選びなさい。

（　）は自然の風景をうたつた詩である。

ア 叙情詩 イ 叙景詩 ウ 叙事詩

〔 〕

(4) 詩を、使われている言葉や形式から分類したときに、「大阿蘇」に当てはまるものを次の二つ選びなさい。

ア 文語詩 イ 口語詩 ウ 定型詩
エ 自由詩 オ 散文詩

〔 〕 .

音読を楽しもう

大阿蘇(2)

三好
達治

大阿蘇

三好
達治

雨の中に馬がたつてある

一頭二頭子馬をまじえた馬の群れが

雨の中にたつてある

雨は蕭々と降つてある

馬は草をたべてある

尻尾も背中も鼈も

ぐつしょりと濡れてそぼつて

彼らは草をたべてある

草をたべてある

あるものはまた草もたべずにきよとんとしてうなじを垂れてたつて

雨は降つてある

いる

山は煙をあげてある

中岳の頂からうすら黄いろい重つ苦しい噴煙が濛々とあがつて

空いちめんの雨雲と

やがてそれはけじめもなしにつづいてある

馬は草をたべてある

草千里浜のとある丘の

雨に洗われた青草を彼らはいっしんにたべてある

たべてある

彼らはそこにみんな静かにたつてある
 ぐつしょりと雨に濡れていつまでもひとつところに彼らは静かに
 集まつてある
 もしも百年がこの一瞬の間にたつたとしても何の不思議もないだ
 ろう

雨が降つてある

雨は蕭々と降つてある

雨が降つてある

確認テスト

詩を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (1) 「蕭々」の意味を選びなさい。

(4) 馬の群れがいる場所を、詩の中から五字以上十字以内で書きぬきなさい。

- ア とらえどころがない様子。

- イ ものさびしい様子。

- ウ 光が明るい様子。

- エ 勢いが強い様子。

- (2) 「濛々」の意味を選びなさい。

- ア 温度が高い様子。

- イ しづかんな様子。

- エ あらあらしい様子。

(6) 詩の中で繰り返されている「……ている」という表現の効果を選びなさい。

- ア 目の前に広がる光景が、いつまでも続くかのように感じさせる効果。

- イ 草をいつまでも食べている馬の生命力を感じさせる効果。

- ウ 中岳の噴煙が今でも続いていると感じさせ、阿蘇の自然のきびしさを実感させる効果。

- エ 文の終わりをはつきりと示し、場面が切り替わったことを表す効果。

- (3) 「大阿蘇」の詩で用いられている表現技法を選びなさい。

- ア 体言止め

- イ 直喻

- ウ 反復

音読を楽しもう いろは歌(1)

歴史的仮名遣い

古文の表記は、おおむね平安時代中頃以前の表記をもとにしている。
これを歴史的仮名遣いといいう。

(例) 歴史的仮名遣い ↓ 現代仮名遣い)

くれなゐ (紅) ↓ くれない
あふぎ (扇) ↓ おうぎ

仮名遣いと発音

① 語頭と助詞以外のハ行は「わ・い・う・え・お」

(例) あはれ ↓ あわれ 伝へたる ↓ 伝えたる

・ au ↓ ô

・ iu ↓ yû
(例) やうす (様子) ↓ ようす

・ eu ↓ yô
(例) かなしう (悲しう) ↓ かなしゅう

・ eu ↓ yô
(例) けふ (今日) ↓ きょう
※けふ ↓ けう ↓ きょうと変化する。

③ 助詞以外の「を」は「お」

(例) をとこ ↓ おとこ

(例) ゐる ↓ いる こゑ ↓ こゑ

④ 「ぢ・づ」は「じ・ず」

(例) なんぢ ↓ なんじ
いづれ ↓ いずれ

⑤ 「くわ・ぐわ」は「か・が」

(例) くわじ (火事) ↓ かじ
きぐわん (祈願) ↓ きがん

⑥ 助動詞「む」は「ん」

(例) あはむ (逢はむ) ↓ あわん

⑦ 母音(a・i・u・e・o)が連続するとき

・ au ↓ ô

・ eu ↓ yô
(例) かなしう (悲しう) ↓ かなしゅう

・ eu ↓ yô
(例) けふ (今日) ↓ きょう
※けふ ↓ けう ↓ きょうと変化する。

いろは歌(1)

(1) 次の語句を現代仮名遣いに直しなさい。

にほへど

(2) 次の語句を現代仮名遣いに直しなさい。

ゑひ

(3) 次の中から、――線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直した

ものとして、適当でないものを選びなさい。

ア あはれ
ウ をかし
↓ おかし

イ ほのか
エ をりふし
↓ おりふし

(5) 次の語句を現代仮名遣いに直しなさい。

やうやう

(4) 次の中から、――線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直した
ものとして、適当でないものを選びなさい。

ア よろづ
ウ みたり
↓ えたり

イ にんぐわつ
エ ならむ
↓ ならん

音読を楽しもう いろは歌 (2)

いろは歌(2)

いろはにはへと
いろはにはへど
色はにはへど

わかよたれそ
わかよたれそ
わが世たれぞ

ちりぬるを
ちりぬるを
散りぬるを

つねならむ
つねならむ
常ならむ

うゐのおくやま
うゐのおくやま
有為の奥山

けふこえて
けふこえて
今日越えて

あさきゆめみし
あさきゆめみし
浅き夢見じ

ゑひもせず
ゑひもせず
酔ひもせず

いろは歌

いろは歌は、四十七の仮名文字を一回ずつ使つて作られた歌。平安時代に成立したとされており、作者は不明。平安時代中期から流行した、七音・五音を四回くり返す、今様とよばれる形式になつていて。古くから仮名を学ぶ手本として、また、物の順序を示すためのものとして用いられてきた。

確認テスト

「いろは歌」を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) 次のア～エを、いろは歌の順になるように並べかえなさい。

ア つねならむ
ウ いろはにほへと
エ わかよたれそ



(2) 次のア～エを、いろは歌の順になるように並べかえなさい。

ア うゐのおくやま
ウ 犀ひもせす
エ けふこえて



(3) —線①「色はにほへど」の意味を選びなさい。

ア 花の色は強い香りがしても
イ 花の色は美しく照り映^はえていても
ウ 花はさまざまな香りがあるけれど
エ 花はさまざまな色があるけれど



(4)

—線②「我が世たれぞ／常ならむ」の意味を選びなさい。

ア 私たちの世の中は、すべてが日常である。
イ 私たちの世の中は、変わることがないのである。
ウ 私たち、この世の誰^{だれ}もが永久に変わらないのである。
エ 私たち、この世の誰が永久に変わらないことがあろうか。



蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から(1)

「竹取物語」の概要

飛鳥	710	「万葉集」がこのころまでに成立
奈良	794	「竹取物語」このころ成立? 古今和歌集
平安		「枕草子」(清少納言)、 「源氏物語」(紫式部)
鎌倉	1185ごろ	新古今和歌集

- ・成立……平安時代の初めごろ
 - ・作者……不明
 - ・ジャンル……物語
- 現存する日本最古の物語といわれ、「源氏物語」の中では、「物語の出で来はじめの祖」(おや)とされている。

「竹取物語」の登場人物

- ・かぐや姫(なよ竹のかぐや姫)
- ・竹取の翁(おきな)(おじいさん)、嫗(おばあさん)
- ・五人の貴公子
- ・石作の皇子(みこ)、くらもちの皇子、右大臣阿倍御主人(あべのみうし)
- ・大納言大伴御行(だいなごんおわものみゆき)、中納言石上磨足(いのなごのまろたり)
- ・帝(みこと)
- ・かぐや姫の生い立ち
- ・五人の貴公子の求婚(さうこん)
- ・帝からの求婚
- ・月へ帰るかぐや姫

「竹取物語」のあらすじ

(1) 「竹取物語」の説明として正しいものを選びなさい。

ア 鎌倉時代の初めに成立した。

イ 作者は清少納言とされている。

ウ 蓬萊山への冒険がえがかれ、紀行文とも分類される。

エ 「源氏物語」の中で、「物語の出で来はじめの祖」とされている。

(2) 「竹取物語」のあらすじについて、正しいものを選びなさい。

ア 帝は、不死の薬を大切に保管した。

イ 七人の貴公子がかぐや姫と結婚するために奮闘した。

ウ 姫は、竹取の翁と嫗に育てられた。

エ 姫は、翁に蓬萊の玉の枝を残して天に昇つていった。

蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から(2)

今は昔、^①竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取り今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。

分け入って
取つ

つつ、よろづのこととに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむ
ては、いろいろな名を、「さぬきのみやつこと」と

さぬきのみやつこと

いひける。
いつた。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。^②あやしがりて、^③寄り

一本あつた

根元
見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、^④いと

三寸ほどの

うつくしうてゐたり。
座つて
いる。

重要語句

よろづ

いろいろな、何事にも

あやしがる

不思議に思う

いと

とても、たいそう

よろづ

かわいらしい

ゐる

座る

(例)：竹取の翁といふものがありけり。竹取の翁は

古文では、主語や助詞がなかつたり省略されていたりする。古文を読むときは言葉を補いながら読むと内容が理解しやすくなる。



確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (1) —線①「竹取の翁」の説明として適当でないものを選びなさい。

ア 野山に分け入って竹を取っていた。

イ 竹をいろいろなことに用いていた。

ウ 名を「さぬきのみやっこ」といった。

エ ある日、枝が一本光る竹を見つけた。

- (2) —線②「あやしがりて」の意味を選びなさい。

ア 用心して

イ 恐ろしく思つて

ウ 不思議に思つて

エ 美しいと感じて

- (3) —線③「寄りて見る」の主語にあたる言葉を選びなさい。

ア 竹取の翁

イ 竹

ウ 一筋

エ 三寸ばかりなる人

- (4) —線④「いとうつくしう」とは、どのような様子か。適当なものを選びなさい。

ア きれいに光っている様子。

イ ほのかに美しい様子。

ウ とてもかわいらしい様子。

蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から(3)

翁に育てられた子は三か月ほどで美しい娘に成長し、「なよ竹のかぐや姫」と名づけられました。かぐや姫の美しさは評判となり、多くの人が訪れるようになります。このなかで、いつまでも求婚をつづける五人の貴公子にかぐや姫は難題を出します。貴公子の一人・くらもちの皇子は、蓬萊の玉の枝を持つてくるように言われ、ひそかにせの玉の枝を作らせます。翁の家を訪れた皇子は架空の冒険談を語りだしました。次の文章はこれに続く場面です。

山のめぐりをさしめぐらして、二、三日ばかり、見歩くに、天人の
山の周囲を こぎ回らせて、 山だろうと 見て回つていると、
よそほひしたる女、山の中よりいで来て、銀の金鎧を持ちて、水を
服装を 出て来て、 銀の 槌を
くみ歩く。これを見て、船より下りて、「この山の名を何とか申す。」
と問ふ。女、答へていはく、「これは、蓬萊の山なり。」と答ふ。
これを聞くに、うれしきことかぎりなし。
②
③
④
⑤

重要語句	いはぐ	さすがに
おぼえて	(そうはいっても) やはり	(思はれて) 「おぼゆ」 + 「て」
言つことには		

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (1) —線①「思ひて」とあるが、思った内容をぬき出し、最初と最後の三字を答えなさい。

- (4) —線④「これを見て、船より下りて」の主語にあたる言葉を選べなさい。

ウ ア 竹取の翁
イ ウ くらもちの皇子
エ イ 天人のよそほひしたる女
カグヤ姫

- (2) —線②「山のめぐりを……見歩く」とあるが、なぜこうしたのか。適当なものを選びなさい。

ア 山が恐ろしく思われたから。

イ 蓬萊の山ではないと思つたから。

ウ 天人の姿が見えなかつたから。
工 船をとめられるような場所を探していただから。

〔〕

- (5) —線⑤「うれしきことかぎりなし」とあるが、これはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 天人に会うことができたから。

イ 着いた山が、自分が探し求めていた蓬萊の山だつたから。

ウ 銀の椀を手に入れることができたから。
工 ようやく船から下りることができたから。

〔〕

- (3)

—線③「よそほひ」を現代仮名遣いに直しなさい。

〔〕

蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から(4)

かぐや姫に求婚したくらもちの皇子は、かぐや姫から蓬萊の玉の枝を持つてくるように言われ、ニセの玉の枝を作らせ、翁の家で架空の冒險談を語っています。次の文章はその続きです。

その山、見るに、さらに登るべきやうなし。^(ヨウ) その山のそばひらを

めぐれば、世の中になき花の木ども立てり。金、銀、瑠璃色の水、
めぐつていくと、この世には見られないような花の木々が

山より流れいでたり。⁽²⁾ それには、色々の玉の橋渡せり。そのあたりに、
流れ出でている。^(渡してある。近く)

照り輝く木ども立てり。

その中に、この取りてまうで來たりしは、いとわろかりしかども、
その中で、^(モウ) 取ってまいりましたのは、^(モウ) たいへん見劣りしたけれども、

のたまひしに違はましかばと、この花を折りてまうで來たるなり。^(モウ)
おっしゃったものと違つていてはいけないだろうと(思つて)、

このように蓬萊の玉の枝について語つていたくらもちの皇子でした
が、そこへ玉の枝を作った職人が褒美(ほうび)を求めてやつてきたため、うそ
がばれてしましました。

古文は言葉を補いながら読む

(例) ……違はましかばと、……

……違つていては(いけないだろう)と(思つて)、……

重要語句

のたまふ	わろし	さらに……なし
	よくなない、見劣りする おっしゃる	全く……ない

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(3) —線③「のたまひしに違はましかばと」が表す内容として正しいものを選びなさい。

(1) —線①「やうらに登るべきやうなし」の意味を選びなさい。

- ア これ以上登るべきではない
イ これ以上登ることができない
ウ 全く登るべきではない
エ 全く登りようがない

(2) —線②「それ」が表すものを選びなさい。

- ア 山のそばひら
イ この世には見られないような花の木々
ウ 金、銀、瑠璃色の水の流れ
エ 色さまざまの玉でつくつた橋

(4) —線④「まうで来たるなり」の主語にあたる言葉を選びなさい。

- ア 竹取の翁
イ かぐや姫
ウ くらもちの皇子
エ 天人のよそほひしたる女

蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から(5)

帝もたびたびかぐや姫を宮中に迎えようとされました。やがてかぐや姫は月を見てはなげき悲しむようになり、自分は月の都のもので、月に帰らなければならぬと打ち明けます。帝はかぐや姫のもとへ兵士をお遣わしになりましたが、かぐや姫は不死の薬と手紙を残し、天に昇つていきました。帝はかぐや姫に会うこともないので不死の薬など何の役に立つのか、とお思いになります。

る ふ。
御文(おんふみ)、不死の薬の壺(つぼ)並べて、火をつけて燃やすべきよし仰せたま(おほせたま)
(かぐや姫の)手紙(てしき)ど、
そのよしうけたまはりて、(つはもの)士(し)どもあまた具(す)して山(さん)へ登りけるよりな
(帝の使者が)その旨(し)を承(うけ)って、(つはもの)兵士(ひょうし)たちを
登つたといふことから

む、その山を「ふじの山」とは名づけける。
名づけたのである。

その煙(け)、いまだ雲の中へ立ちのぼるとぞ、言ひ伝(いだ)へたる。
いまだに 言ひ伝(いだ)へたる。

重要語句

仰せたまふ

命めになる ※「仰す」+「たまふ」

あまた

たくさん

具す

引き連れる、従える

仰せたまふ	命めになる ※「仰す」+「たまふ」
あまた	たくさん

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(4) 本文の内容に当てはまらないものを選びなさい。

(1) —線①「仰せたまふ」の主語にあたる言葉を選びなさい。

- ア 帝
ウ 兵士たち
イ 帝の使者
エ かぐや姫

(2) —線②「あまた具し」の意味を選びなさい。

- ア イ ウ エ
わざかな人數を準備し
のこりの者をともなつて
再びご命令され
たくさん引き連れ

(3) —線③「山へ登りける」の主語にあたる言葉を選びなさい。

- ア 帝
ウ 帝の使者
イ 煙
エ かぐや姫

ア 帝のご命令は、手紙と不死の薬を並べて燃やすようにという内容だった。

イ ご命令は、兵士たちが帝から直接承り、兵士は自ら山へ登った。
不死の薬を燃やす煙は、いまでも立ち上っていると言い伝えられている。

今に生きる言葉(1)

楚人そひとに、盾たてと矛ほことを鬻ひさぐ者有り。

① 楚の國の人こくじんで、
② 売うる
之これを誉ほめて曰いはく、
(その人がその売うっている) 盾たてをほめて言いった、

「吾わが盾たての堅かたきこと、能よく陥とほすもの莫なきなり。」と。
私わたしの

又、其の矛ほこを誉ほめて曰いはく、

「吾わが矛ほこの利となること、物ものに於おいて陥とほざざる無なきなり。」と。
銳とい

或もるひと曰いはく、

「子この矛ほこを以もつて、子この盾たてを陥とほさば、何いかん。」と。

其の人あた(じん)、應おふること能はざるなり。
答こたえることどができなかつた。

昔の出来事（故事）がもととなつてできた、特別な意味をもつ言葉を故事成語といいう。

- (例) · 蛇足たそく……余計なもの、なくともよいもの。
· 四面楚歌しめんそか……周囲を敵に囲まれ、孤立こりつすること。
· 推敲すいこう……詩や文章の表現を何度も練り直すこと。

本文は今から二千年前の『韓非子』という書物に収められてゐる話で、矛盾むじくという故事成語のもとなつた。

- ・矛盾……つじつまが合わないこと。

故事成語

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (1) 次の本文中の語句の中で、指示示す人物が他と異なるものを選びなさい。

ア 楚人 イ 盾と矛とを鬻ぐ者
ウ 或るひと エ 其の人

- (2) 線①「之を誉めて」の主語にあたるものを見びなさい。

ア 盾と矛とを鬻ぐ者 イ 吾が盾
ウ 吾が矛 エ 或るひと

- (3) 線②「能く陥すもの莫きなり」の意味を選びなさい。

ア (この盾を) つき通せるものはない
(この盾を) あまり通すものはない
(この盾を) つき通せないものはない
(この盾を) あまり通せないものはない

- (4) 線③「子の矛を以て、子の盾を陥さば、何如」の意味を選びなさい。

ア 子どもの矛で、子どもの盾をつき通してはいけない
イ あなたの矛で、あなたの盾をつき通してはいけない
ウ 子どもの矛で、子どもの盾をつき通すと、どうなるのか
エ あなたの矛で、あなたの盾をつき通すと、どうなるのか

- (5) 「矛盾」の意味を選びなさい。

ア 余計なもの。
イ つじつまが合わないこと。
ウ 周囲を敵に囲まれ、孤立すること。
エ 詩や文章の表現を何度も練り直すこと。

今に生きる言葉 (2)

漢文の訓読

訓読……漢文を、日本語の規則にしたがって読むこと。

訓読のために、訓点が用いられる。

(例) 読書 (白文) → 読レ書。 (訓読文)

訓点……訓読のために用いられる送り仮名・返り点・句読点など。

・送り仮名……漢字の右下にカタカナで送り仮名を書く。

訓読では、助詞なども補う。

・返り点……漢文を日本語の語順で読むため、漢字の左下に補う。

① レ点……下から上に一字返つて読むことを表す。

(2)
レ
1
→ 誉
メテ
レ
2
之
ヲ
3
曰
ハク

② 一・二点……下から上に二字以上返つて読むことを表す。

誉
メテ
之
ヲ
曰
ハク
「吾
ガ
レ
盾
之
堅
キコト
、
莫
キ
能
ク
スモノ
陷
一
也
ト。
」 (訓読文)

之を讃めて曰はく、「吾が盾の堅きこと、能く陥するもの莫きなり。」と。(書き下し文)

・句読点……語句や文の切れ目を表すために補う。

漢文の書き下し

漢文を漢字仮名交じりの文語文に書き改めたものを書き下し文といふ。

(例) 読レ書。 (訓読文) → 書を読む。 (書き下し文)

※送り仮名はひらがなにする。

※漢字は原則そのままだが、「の」「なり」などの助詞・助動詞はひらがなにする。

譽之曰吾盾之堅莫能陷也 (白文)

今に生きる言葉(2)

(1) 次の訓読文を書き下し文にするとき、解答欄に入る言葉を書きなさい。

又、誉_{メテ}其ノ矛曰_{ハク}、

又、其_{マタ}〔矛_{ハコ}〕曰_{ハク}、
〔誉_{ハモ}〕曰_{ハク}、

(2) 返り点に従つて、次の□に、読む順の数字を書きなさい。

□	□	□
レ	□	□
□	□	□
レ	□	□

(3) 返り点に従つて、次の□に、読む順の数字を書きなさい。

「吾ガ盾之堅_{キコト}、莫ニ能_ク陷_{スモノ}也_{ト。}」

「吾が盾の堅きこと、莫き能く陥するものなり。」と。
 「吾が盾の堅きこと、能く莫き陥するものなり。」と。
 「吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。」と。
 「吾が盾の堅きこと、能く陥すものなり莫き。」と。

(6) 次の訓読文を書き下し文にしたものを見なさい。

□
二
□
一

(5) 返り点に従つて、次の□に、読む順の数字を書きなさい。

□
□
レ
□
□
レ
□

(4) 返り点に従つて、次の□に、読む順の数字を書きなさい。

□
□

「不便」の価値を見つめ直す (1)

川上 浩司

〔1〕 「不便でよかつた。」と感じたことはないだろうか。

〔2〕 こう尋ねると、たいていの場合、^①けげんな顔をされる。「便利でよかつた」ならばわかるが、「不便でよかつた」とはどういうことか、不便でよかつたことなんてあるはずがない、というわけだ。

(中略)

〔4〕 私も、元は設計の自動化について研究していた。何か欲しいものがあれば、自動的に設計してくれるコンピュータを作れたらどんなにかすばらしいだろうと考えていたのだ。ところが、あるとき、次

のようないやな疑問が生じた。全てを自動化できれば確かに楽になるが、その分、自分で考へることによって得られる達成感や喜び、技術の向上も望めないことになる。それは、本当に人の生活を豊かにするデザインなのだろうか、と。確かに、便利になると楽になると、いう側面はある。そして、それが必要な場面もあるだろう。しかし、一様に便利ばかりを追求し続けることで、私たちの生活や社会は本当に豊かになっていくだろうか。今、便利の追求以外の新たな発想が求められているのではないか。

〔5〕 このような考え方から私が着目したのが、これまで見過ごされてきた「不便」の価値である。私は、不便だからこそ得られるよさを「不

便益」と呼び、その発想を新しいデザインに生かせないか、日々研究している。

(1)～(5)は教科書本文における形式段落番号を表します

問題提起 「確かに、A。しかし、B。」の形では、Bに筆者の主張したいことが書いてある。本文では、Bの部分に、筆者の問題提起が書かれている。

問題提起

- ・便利さを追求すれば、生活や社会は豊かになるのだろうか。
- ・便利の追求以外の新たな発想が求められているのではないのか。

導入

「不便でよかつた。」と感じたことはないだろうか。

筆者は設計の自動化を研究していたが、全てを自動化することは、本当に人の生活を豊かにするのだろうかという疑問が生じた。

問題提起

- ・便利ばかりを追求すれば生活や社会は本当に豊かになるのだろうか。
- ・便利の追求以外の新たな発想が求められているのではないか。

「不便益」の定義：不便だからこそ得られるよさ

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(3) — 線③「日々研究している」とあるが、日々、何を研究しているのか。適当なものを選びなさい。

(1) — 線①「けげんな顔をされる」とあるが、なぜけげんな顔をしているのか。適当なものを選びなさい。

ア 不便でよかつたことがないか、思い起こしているから。
イ 不便の価値を見過ごして、いたことに気づかされたから。
ウ 不便でよいことなどないと考えているから。

(4) — 線④「自動化」によって損なわれるものを、本文中から二十五字以上三十字以内で探し、最初と最後の三字を書きぬきなさい。

ア 欲しいものを自動的に設計してくれるコンピュータ。
イ 不便益の発想を新しいデザインに生かすこと。
ウ 便利さを追い求めることで、人の生活を楽にすること。

(2) — 線②「次のような疑問が生じた」とあるが、この疑問を通じて筆者が考えたことは何か。適当なものを選びなさい。

ア 便利になることで、人の生活が楽になるという側面があるのではないかということ。
イ 便利になることで人の生活が楽になることも、必要な場面があるのではないかということ。
ウ 便利になることばかりを追求しても、生活が豊かになるとは限らないのではないかということ。

「不便」の価値を見つめ直す (2)

川上 浩司
かわかみ ひろし

〔7〕 ……一般に、「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」だと思われがちだ(図1①)。しかし、私はそうではないと考える。必ずしもいつも「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」というわけではなく、「便利」の中にもよい面と悪い面があり、「不便」の中にもよい面と悪い面があると考えるのだ。そうすると、「不便のよい面」と「便利の悪い面」という新しい視点が生まれる(図1②)。

それでは、「不便のよい面」には、具体的にどんなものがあるだろうか。私はこれまで、*冒頭の問い合わせをたくさんの人に行きかけ、「不便のよい面」、つまり「不便宜」の事例を集めてきた。初めこそけげんな顔をしている人も、「不便」の定義や事例を伝えると、自分なりの「不便宜」の事例を教えてくれることが多い。

(7・8は教科書本文における形式段落番号を表します)

不便 =悪い	便利 =よい
-----------	-----------

図1①

不便の よい面	便利の よい面
不便の 悪い面	便利の 悪い面

図1②

*冒頭の問い：「『不便』でよかったです。」と感じたことはないだろうか。」という問い。

〔8〕	〔7〕
「不便宜」の事例	<p>「便利」と「不便」の新しい視点</p> <p>一般的な見方：「便利はよいこと」「不便は悪いこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい見方……「便利」にも「不便」にも、それぞれよい面も悪い面もある

〔一般に、A。しかし、B。〕
 「一般に、A。しかし、B。」の形では、Bに筆者の主張したいことが書いてある。一般的な主張が提示されていても、筆者の主張だけは限らないことに注意する。

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (1) —線①「私はそうではないと考える」とあるが、筆者の考えとして適当なものを選びなさい。

- ア 便利はよいことであり、不便は悪いことである。
イ 便利は悪いことであり、不便はよいことである。
ウ 便利はよいことだが、不便はよいことも悪いこともある。
エ 便利、不便ともに、よいことも悪いこともある。

- (2) —線②「新しい視点」に当てはまるものを二つ選びなさい。

- ア 便利のよい面 イ 便利の悪い面
ウ 不便のよい面 エ 不便の悪い面

- (3) —線③「不便益」とは何か。次から選びなさい。

- ア 便利のよい面 イ 便利の悪い面
ウ 不便のよい面 エ 不便の悪い面

- (4) 本文の内容に合うものを選びなさい

- ア 一般的には、便利はよいことで、不便は悪いことだと思われている。
イ 不便は悪いこと、というのは誤った考え方であり、不便には悪い面はない。
ウ 一般的に不便は悪いことだと考えられており、不便のよい面を答えられる人はほとんどいない。

「不便」の価値を見つめ直す (3)

川上
浩司

こうして集めた事例を整理すると、「不^便益」とは何かが浮かび上がってくる。まだ整理の途中の段階ではあるが、主には次のようなことが挙げられるだろう。

まず、物事を達成するのにかかる時間や道のりが多くなる分、発見や出会いの機会が増える。次に、体力や知力、技術力の維持や向上を促す。自分の体や頭を使うことが、自然と体力・知力・技術力の低下を防ぎ、それらを向上させるからだ。また、「不便」であることは、人間の意欲を向上させる効果もある。自分で考えたり工夫したりする余地があるからこそ、取り組むときのモチベーションが高まり、成し遂げたときの達成感が大きくなるのだ。なお、一つの事例に複数の「不^便益」が含まれることも少なくない。例えば、タクシーよりも徒步のほうが発見や出会いの機会が増えるとともに、運動能力の低下を防ぐことにもなる。

(12)・(13)は教科書本文における形式段落番号を表します

12
・
13

事例からわかる「不^便益」

- ・発見や出会いの機会が増えること。
- ・体力や知力、技術力の維持や向上を促すこと。
- ・人間の意欲を向上させること。

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) 本文中で述べられている「不利益」の説明となるように、()に当てはまる言葉を、解答欄の字数に合うように書きなさい。

物事を達成するのにかかる(A)が多くなる分、(B)の機会が増える。

B	A

(2) 本文中で述べられている「不利益」の説明となるように、()に当てはまる言葉を、解答欄の字数に合うように書きなさい。

自分の(A)を使うことで、体力・知力・技術力の(B)につながる。

B	A

(3) 本文中で述べられている「不利益」の説明となるように、()に当てはまる言葉を、解答欄の字数に合うように書きなさい。

自分で考えたり(A)したりすることで、取り組むときの(B)や、成し遂げたときの(C)が高まるなど、人間の意欲を向上させる。

C	B	A

(4) 本文中の「タクシー」と「徒歩」の事例について、適当なものを見出せ。

- ア 徒歩のほうが、結果的に目的を達成するのが早くなる。
イ タクシーのほうが、人と触れ合う機会は多くなる。
ウ 徒歩のほうが、運動能力の低下を防ぐことができる。
エ 徒歩の事例に含まれる「不利益」は一つしかない。

「不便」の価値を見つめ直す (4)

川上 浩司
かわかみ ひろし

〔14〕

これらの「不¹便益」は、「不便」だからこそ得られるものだ。「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」という固定観念にとらわれ、ただ無批判に「便利」なほうばかりを選んでいては、「不便」の価値を見落としてしまう。さらに、「便利はよいこと」という考え方の下、社会全体が「便利」だけを追求していけば、私たち一人一人は自分でどちらかを選ぶことすらできないまま、知らぬ間に、本来得られていた楽しさや喜びが失われたり、自分の能力を發揮する機会が奪われたりすることになるだろう。

〔15〕

誤解してほしくないのは、私は便利であることを否定し、昔の不便な生活に戻ろうと言っているわけでも、不便なことは全すべらししいと考えているわけでもないということだ。「不便」だからこそ得られるよさがあることを認識し、それを生かして新しいデザインを創り出そうというのが「不¹便益」の考え方なのである。(中略)

〔16〕 「不¹便益」は、物事のデザインだけでなく、日常生活にも生きる発想だ。あなたの日々の生活の中で、「不便で嫌だな。」「面倒くさいな。」と思つてさけてきた物事の中に、実は、新しい気づきや楽しみが隠れているかもしれない。⁽³⁾これまでの常識とは異なる別の視点をもつことで、世界をもっと多様に見ることができるようになるはずだ。あなたの周りには、どんな「不¹便益」があるだろうか。もう一度、生活を見つめ直してみよう。

〔14〕～〔16〕は教科書本文における形式段落番号を表します

〔14〕
〔16〕

主張

「便利」だけを追求すると、「不¹便益」を見落としてしまう。

「不¹便益」の発想のように、常識とは異なる別の視点をもてば、世界をもっと多様に見ることができるようになる。

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (1) —線①「固定観念」とあるが、ここではどのような考え方のことか。適当なものを選びなさい。

- ア 「不利益」は「不便」でないと得られないという考え方。
イ 「便利」はよいこと、「不便」は悪いことという考え方。
ウ 「不便」の価値を見落としてしまうという考え方。

(4)

筆者の主張に当てはまるものを選びなさい。

- ア 便利のよい面 イ 便利の悪い面
ウ 不便のよい面 エ 不便の悪い面

(3)

—線③「これまでの常識とは異なる別の視点」とあるが、「便利」と「不便」について、これまでの常識と異なる視点は何か。適当なものを二つ選びなさい。

- (2) —線②「本来得られていた楽しさや喜び」とあるが、これはどのような楽しさや喜びか。適当なものを選びなさい。

- ア 便利であることで得られる楽しさや喜び
イ 不便であることで得られる楽しさや喜び
ウ 便利と不便を選ぶことの楽しさや喜び

- ア 便利さを追求することをやめ、昔の不必要な生活に戻るべきである。
イ 不便なことはよいことばかりであり、不便の価値を見直すべきである。
ウ 「不利益」の発想は、日常生活の常識とはかけ離れた考え方である。

エ 常識と異なる視点をもつと、世界をより多様なものとして捉えることができる。

「不便」の価値を見つめ直す(5)

川上 浩司
かわかみ ひろし

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

<p>[6] · [7]</p> <p>「不便」の定義：何かをするときにかかる労力が多いこと。 「便利」と「不便」の新しい視点 一般的な見方……「便利はよいこと」「不便は悪いこと」 新しい見方……「便利」にも「不便」にも、それぞれよい面も悪い面もある。</p>	<p>[1] ↓ [5]</p> <p>筆者は設計の自動化を研究していたが、全てを自動化することは、本当に人の生活を豊かにするのだろうかという疑問が生じた。</p> <p>問題提起</p> <ul style="list-style-type: none"> 便利さばかりを追求すれば生活や社会は本当に豊かになるのだろうか。 便利の追求以外の新たな発想が求められているのではないか。 <p>「不^よ便^{びん}」の定義：不便だからこそ得られるよさ。</p>	<p>導入 「不便でよかった。」と感じたことはないだろうか。</p>
--	---	------------------------------------

<p>[14] ↓ [16]</p> <p>「便利」だけを追求すると、「不^よ便^{びん}」を見落としてしまう。</p> <p>「不^よ便^{びん}」の発想のように、常識とは異なる別の視点をもてば、世界をもっと多様に見ができるようになる。</p> <p>([1] ~ [16]は教科書本文における形式段落番号を表します)</p>	<p>[8] ↓ [11]</p> <p>「不^よ便^{びん}」の事例</p> <p>①移動方法 ②施設のデザイン ③工場での生産方式</p> <p>事例からわかる「不^よ便^{びん}」</p> <ul style="list-style-type: none"> 発見や出会いの機会が増えること。 体力や知力、技術力の維持や向上を促すこと。 人間の意欲を向上させること。 <p>主張</p> <p>「便利」だけを追求すると、「不^よ便^{びん}」を見落としてしまう。</p> <p>「不^よ便^{びん}」の発想のように、常識とは異なる別の視点をもてば、世界をもっと多様に見ができるようになる。</p>
--	---

目的に応じて、文章の要点を短くまとめることを要約といふ。

※要点の見つけ方

- ・結論

- ・題名や繰り返し出てくる言葉などの

キーワードに関する内容
に注目する。

- ・段落やまとまりの中心となる文

段落の中心となる文は、段落の最初か最後にあることが多い。

確認テスト

教科書本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) 次の中から「不便宜」に当たるまるものを選びなさい。

- | | |
|----------|----------|
| ア 便利のよい面 | イ 不便の悪い面 |
| ウ 便利の悪い面 | エ 不便のよい面 |

- | |
|-----------------------|
| ア 発見や出会いの機会が増える。 |
| イ 体力や知力、技術力の維持や向上を促す。 |
| ウ 人間の意欲を向上させる。 |

(3) 次の事例からわかる「不便」のよさとして、適当なものを選びなさい。

介護施設にあえて段差や坂を設けることで、入居者の身体能力の低下を防ぐことができた。

- | |
|-----------------------|
| ア 発見や出会いの機会が増える。 |
| イ 体力や知力、技術力の維持や向上を促す。 |
| ウ 人間の意欲を向上させる。 |

(2) 次の事例からわかる「不便」のよさとして、適当なものを選びなさい。

タクシーの代わりに徒歩で旅行したところ、美しい風景を見ることができた。

- | |
|-----------------------|
| ア 発見や出会いの機会が増える。 |
| イ 体力や知力、技術力の維持や向上を促す。 |
| ウ 人間の意欲を向上させる。 |

文法への扉2 言葉の関係を考えよう (1)

文節どうしの関係

文節どうしの関係は、主に次の四つに分けられる。

- ① 主・述の関係
 - ② 修飾・被修飾の関係
 - ③ 接続の関係
 - ④ 独立の関係

主・述の関係（主語・述語）

主語：「何が」「だれが」を表す文節。

述語…「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある(いふ)」「ない」を表す文節。

主語と述語の関係を、主・述の関係という。

・きれいな
花が語主
咲く。述語

※ 「うが」の他、「うは」「うも」の形も主語を表すことがある。

・花も／咲いた。
・きれいに／咲いたね。

修飾・被修飾の関係（修飾語）

修飾語と、修飾語を受ける文節の関係を、修飾・被修飾の関係といふ。

修飾語：他の文節をくわしく説明する文節。

修飾語
大きな船がゆつくりと進む

接続の関係 (接続語)

接続語：文と文や、文節と文節をつなぐ文節。

接続語がつなぐ文同士の関係や、接続語と後に続く文節の関係を接続の関係という。

疲れた。
だから、^{接続語}
休む。
(前後の文の関係を表す)

疲れたから、
休む。
接続語

条件を表す) (後に続く文節に対する理由:

独立の関係（独立語）

独立語：他の文節と直接の関係を持たない文節。

独立語とそれ以外の文節との関係を独立の関係という。

・おや、／雨が／降つて／きた。

・早寝早起き、／それが／私の／習慣です。

- ・さようなら、／また／明日／会おう。

※独立語の多くは文頭に置かれ、「」で区切られている。

確認テスト

(1)

次の文の——線部に対する主語を答えなさい。

私も昨日、駅にいた。

エ ウ イ ア

(4)

次の文から、——線部が独立語ではないものを選びなさい。

- 一日一善、これをいつも心がけている。
突然、雨が降り出した。
こんにちは、お久しぶりですね。
いや、それはあなたの誤解です。

(2) 次の中から、——線部が修飾語ではないものを選びなさい。

ア 電車のダイヤが乱れる。
桜が美しく咲いた。
友達と公園に出かけた。
ほえる犬におどろく。

(3)

次の文に含まれる接続語を答えなさい。

今日はいい天気だ。だから、外で遊ぼう。

文法への扉2 言葉の関係を考えよう(2)

修飾・被修飾

修飾語によってくわしく説明される語を被修飾語という。

修飾語が被修飾語に係り、被修飾語は修飾語を受ける。

・大きな／船が／ゆづくりと／進む。

・あざやかな／赤い／バラが／美しく／咲いた。

連体修飾語・連用修飾語

修飾語は、何を修飾するかによって連体修飾語と連用修飾語に分けられる。

連体修飾語：体言（名詞）を含む文節を修飾するもの。

・僕は／部活の／話を／した。

連用修飾語：用言（動詞・形容詞・形容動詞）を含む文節を修飾するもの。

・昨日／僕は／話をした。

言葉の関係を考えよう(2)

(1) 次の中から、——線部が修飾語であるものを選びなさい。

(4) 次の文の——線部の修飾語が修飾している文節を答えなさい。
この前、とても楽しい話を聞いた。

ア 明日は私の誕生日だ。

イ そこにある本が彼の著作です。

ウ ほら、これを見てごらん。

エ 朝日が当たり、窓が美しく輝く。

(2) 次の文で修飾語ではないものを選びなさい。

私の父は毎日、コーヒーを飲む。

ア 私の イ 父は ウ 毎日 エ コーヒーを

(6) 次の中から、——線部が連体修飾語であるものを選びなさい。

ア 白い鳥が飛んでいる。
理由を先生に伝えた。

イ ウ キ
かなり雨が激しい。
考えを明確に示す。

(5) 次の文の——線部の修飾語が修飾している文節を答えなさい。
しばらく道を歩くと、駅に着いた。

(3) 次の文の——線部の修飾語が修飾している文節を選びなさい。
この大きな木は、町のシンボルです。

ア 大きな イ 木は ウ 町の エ シンボルです

文法への扉2 言葉の関係を考えよう(3)

連文節

連文節…二つ以上の文節が一つのまとまりになつて、主語・述語・修飾語などの働きをするもの。

連文節で主語・述語・修飾語・接続語・独立語と同じ働きをするものとそれぞれ、主部・述部・修飾部・接続部・独立部とよぶ。

大きな／飛行機が／飛ぶ。 ↓ 大きな／飛行機が／飛ぶ。

弟は／元気な／小学生だ。 ↓ 弟は／元気な／小学生だ。

連文節としてまとまる文節どうしでは、並立や補助といった関係が見られることがある。

並立の関係

並立の関係…二つ以上の文節が対等な関係で並んでいるもの。

トマトと／ピーマンが／好きだ。

その山は／高く／けわしい。

並立の関係の見分け方

並立の関係となつてゐる文節どうしは、入れ替えても意味が変わらないことが多い。

(例) トマトと／ピーマンが || ピーマンと／トマトが

補助の関係

補助の関係…下の文節が上の文節の意味を補つてゐるもの。

妹が／遊んで／いる。

本を／読んで／ほしい。

今日は／暑く／ない。

補助の関係の見分け方

補助の関係の多くは、次の形になつてゐる。

「～て (で) / ...」

(例) ～て いる・～て みる・～て ある・～て ほしい

形容詞+ない 形容動詞+ない

- (1) 次の文の——線部を連文節にまとめたとき、文の中でどんな働きをしているか選びなさい。

おだやかな／波が／水面に／広がる。

ア 主部 イ 述部 ウ 修飾部 エ 接続部

〔〕

- (2) 次の文の——線部を連文節にまとめたとき、文の中でどんな働きをしているか選びなさい。

彼女は／難しい／本を／読む。

ア 主部 イ 述部 ウ 修飾部 エ 接続部

〔〕

- (3) 次の——線部と並立の関係になる文節を書きぬきなさい。
あなたもぜひこの本で泣いたり笑つたりしてください。

〔〕

- (4) 次の中から、——線部が並立の関係ではないものを選びなさい。

ア 私と／姉は／どちらも／セロリが／苦手だ。
エ 友達と／京都に／行つた。
イ ペンか／えんぴつを／借りたいです。
ウ 赤くて／小さな／花が／咲いた。

(5) 次の中から、——線部が補助の関係ではないものを選びなさい。

ア 鳥が／空を／飛んで／いった。
イ 机の／上に／本が／置いて／ある。
ウ 知識を／自分で／試して／みる。
エ 遊園地まで／車で／出かけた。

〔〕

文法への扉2 言葉の関係を考えよう(4)

文の組み立て

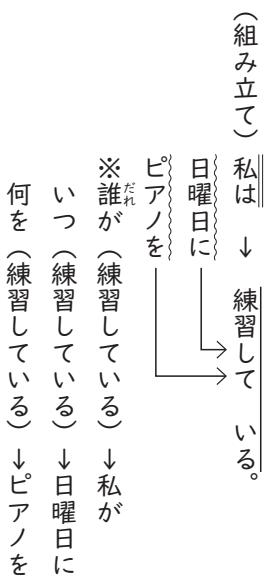
日本語はどんなに複雑な文でも、**主・述・修飾・接続・独立**の5種類の文の成分の組み合わせで成り立っている。

私は 日曜日に ピアノを 練習して いる。

雨が 降るから 早く 帰ろう。

おや、 変な ものが 校庭に あるよ。

文の成分の組み合わせを確認することで、文の意味を正確に理解することができる。



文の成分

①**主語・主部**…… 「何が・誰が」を表す。

大きな 海が 広がって いる。
連体修飾語

②**述語・述部**…… 「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」「ない」を表す。

彼女は とても 明るい 生徒だ。

連用修飾語
連体修飾部

③**修飾語・修飾部**…… 「何を」「いつ」「どこで」などを表す。

僕は 姉が 勉強するのを見た。

連用修飾語
連体修飾部

④**接続語・接続部**…… 「前後の内容の関係」

「後の内容の理由・条件」などを表す。

怖い 話を 聞いたので 全然 眠れない。
接続部
連体修飾語
連用修飾部

⑤**独立語・独立部**…… 文の他の部分と直接の関係がない。

独立部

そろそろ 十月九日、その 日は 私の 誕生日だ。

言葉の関係を考えよう(4)

(1) 次の文の——線部の種類をそれぞれ選びなさい。ただし同じ記号を何度も使つてもよい。

① 昨日、彼は②図書館で③本を④読んだ。

ア 主語 イ 述語 ウ 修飾語 エ 接続語 オ 独立語
 ① [] ② [] ③ [] ④ [] ⑤ []

(2) 次の文の——線部の種類を選びなさい。

昨日、私は②彼が③図書館で④本を⑤読むのを見た。

ア 主部 イ 述部 ウ 修飾部 エ 接続部 オ 独立部
 [] [] [] [] []

(3) 次の文の——線部の種類をそれぞれ選びなさい。

白い鳥が②湖の③上を④飛んで⑤いる。

ア 主部 イ 述部 ウ 修飾部 エ 接続部 オ 独立部
 ① [] ② [] ③ [] ④ [] ⑤ []

(4) 次の文の——線部の種類をそれぞれ選びなさい。

①今日は休みなので、②私の弟は③近くの公園で④遊んでいる。

ア 主部 イ 述部 ウ 修飾部 エ 接続部 オ 独立部
 ① [] ② [] ③ [] ④ []

(5) 次の文の——線部の種類をそれぞれ選びなさい。

①一年生の②みなさん、③今日の宿題は④文法の⑤復習です。

ア 主部 イ 述部 ウ 修飾部 エ 接続部 オ 独立部
 ① [] ② [] ③ []

少年の日の思い出(1)

ヘルマン・ヘッセ
高橋 健二 訳

(次の文章は、ちよう集めをしている「私」に、友人(僕)が語った
少年の頃の出来事です。)

僕は、八つか九つのとき、ちよう集めを始めた。初めは特別熱心で
もなく、ただ、はやりだったのでやっていたまでだつた。ところが、
十歳ぐらいになつた二度目の夏には、僕は全くこの遊戯のとりこにな
り、ひどく心を打ち込んでしまい、そのため、他のことはすっかりすつ
ぽかしてしまつたので、みんなは何度も、僕にそれをやめさせなけれ
ばなるまい、と考えたほどだつた。ちようを採りに出かけると、学校

の時間、だつうが、お昼ご飯だつうが、もう、塔の時計が鳴るのなんか、
耳に入らなかつた。休暇になると、パンを一切れ※胸乱に入れて、朝
早くから夜まで、食事になんか帰らないで、駆け歩くことがたびたび
あつた。

今でも、美しいちようを見ると、おりおり、あの熱情が身にしみて
感じられる。

※胸乱：採集したものを入れる容器。

「僕」の熱情

本文では、ちよう集めのとりこになる「僕」の様子が、直接的な
心情の描写や、行動などを通してえがかれている。

(本文) 他のことはすっかりすつぽかして……

塔の時計が鳴るのなんか、耳に入らなかつた
朝早くから夜まで……たびたびあつた

『少年の日の思い出』では、前半(現在)と後半(回想)で語り手が変化している。
物語や小説で、ある人物の視点から地の文が語られているとき、その人物を語り手という。

前半
私
友人(彼・客)は、その間に
次のように語つた。

後半
僕
僕は、八つか九つのとき…

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) —線①「この遊戯」とは何か。本文中から五字で書きぬきなさい。

(2) —線②「それをやめさせなければなるまい、と考えた」のはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 「僕」がはやりのものに夢中になりやすい性格だから。
イ 「僕」がちょうど採ることに夢中になつて、他のことをせずに
ほうつておくようになつたから。

ウ 「僕」があまりに遅くまで出かけるので、危険だと思ったから。
エ 「僕」はちょうど採ることにとりこになつているが、最初はそ
れほど熱心ではなかつたと知つていたから。

〔 〕

(3) —線③「耳に入らなかつた」のはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 他のことが気にならなくなるほど、ちょうど採ることに夢中に
なつていたから。
イ ちょうど採りに遠くに行つてるので、塔の時計の音が小さ
かつたから。

ウ 休暇なので、塔の時計が鳴るのを気にする必要がなかつたから。
エ パンを一切持つていたので、お昼ご飯に戻る必要がなかつた
から。

〔 〕

(4) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 「僕」は十歳のとき、ちょうど集めを始めた。
イ 「僕」がちょうど集めを始めたのは、はやりだつたためである。
ウ 「僕」はみんなにちょうど集めをやめさせられた。

エ 「僕」は、今では、ちょうど見ても当時の熱情を感じない。

〔 〕

少年の日の思い出(2)

ヘルマン・ヘッセ
高橋 健二 訳

(次の文章は、「僕」が、隣の子供・エーミールにコムラサキというちょうを見せに行く場面です。)

あるとき、僕は、僕らのところでは珍しい、青いコムラサキをとらえた。それを[※]展翅し、乾いたときに、得意のあまり、[※]せめて隣の子供にだけは見せよう、という気になつた。それは、中庭の向こうに住んでいる先生の息子だった。この少年は、非の打ちどころがないといふ悪徳をもつていた。それは、子供としては二倍も気味悪い性質だった。彼の収集は小さく貧弱だったが、こぎれいなほど、手入れの正確な点で、一つの宝石のようなものになつていて。彼は、そのうえ、傷んだり壊れたりしたちようの羽を、にかわで継ぎ合わせるという、非常に難しい、珍しい技術心得っていた。とにかく、^②あらゆる点で模範少年だつた。そのため、僕は妬み、嘆賞しながら彼を憎んでいた。

この少年に、コムラサキを見せた。彼は、専門家らしくそれを鑑定し、その珍しいことを認め、二十ペニヒぐらいの現金の値打ちはある、と値踏みした。しかし、それから、彼は難癖をつけ始め、展翅のしかたが悪いとか、右の触角が曲がっているとか、左の触角が伸びているとか言い、そのうえ、足が二本欠けているという、もつともな欠陥を発見した。僕は、その欠点をたいしたものとは考えなかつたが、こつぴどい批評家のため、自分の獲物に対する喜びはかなり傷つけられた。それで、僕は、^③二度と彼に獲物を見せなかつた。

*展翅…標本にするために昆蟲の羽を広げて固定すること。
*せめて…「僕」は仲間と比べて収集の設備が幼稚だったので、珍しいちょうを手に入れても仲間に見せなかつた。

「僕」からみた隣の子供・エーミール
本文の描写から、「僕」が隣の子供・エーミールに複雑な感情をもつていたことが分かる。

- ・「僕」からみたエーミールの人物像
- 非の打ちどころがないといふ悪徳をもつ
- あらゆる点で模範少年
- ・エーミールに対する「僕」の感情
- 妬み、嘆賞しながら憎んでいた

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) 線①「隣の子供」に対して、「僕」はどのような気持ちをもつ

ていたか 適当なものを選ひなさい

ア　自分よりちようの収集が小さく貧弱なので、優越感を感じてい
る。

う

で
い
た。
す
ぐ

ウ
自分にはない優れた技術をもつてている点を尊敬し、したつてい
た。

自分も「彼」のようになりたい、ただただあこがれていた。

(2) 線(2) あらゆる点で模範少年」を言いかえた言葉となるよう
に、解答欄に当てはまる言葉を本文中から十字で書きぬきなさい。

ANSWER

少年

(3) 線③「二度と彼に獲物を見せなかつた」のはなぜか。適當な

ものを選びなさい。

ア 「彼」が珍しいいちょうであることを認めたことに満足し、それ以上ちようを見せる必要がなかつたから。

「彼」がたいしたことのない欠点を指摘しきれないことが分かったから。

「彼」が展翅のしかたに難癖をつけ始めたので、二十ペニヒの
値打ちがあるという話がうそだと感じたから。

「彼」がいろいろと批評をしたせいで、珍しいちょうど失ったから。

少年の日の思い出(3)

ヘルマン・ヘッセ
高橋 健二 訳

(隣の子供にコムラサキを見せた二年後、「僕」はその少年・エーミールが、クジャクヤママユをさなぎからかえしたといううわさを聞きました。)

名前を知つていながら自分の箱にまだないちようの中で、クジャクヤママユほど僕が熱烈に欲しがつていたものはなかつた。^{いくど}幾度となく、僕は、本の中のその挿絵を眺めた。一人の友達は、僕にこう語つた。「とび色のこのちようが、木の幹や岩に止まつてゐるところを、鳥や他の敵が攻撃しようとする、ちようは、たたんでいる黒みがかつた前羽を広げ、美しい後ろ羽を見せるだけだが、その大きな光る斑点は、非常に不思議な思いがけぬ外觀を呈するので、鳥は恐れをなして、手出しをやめてしまう。」と。

エーミールがこの不思議なちようを持つてゐるということを聞くと、僕は、すっかり興奮してしまつて、それが見られるときの来るのが待ち切れなくなつた。食後、外出ができるようになると、すぐ僕は、中庭を越えて、隣の家の四階へ上がつていつた。そこに、例の先生の息子は、小さいながら自分だけの部屋を持つていた。^①それが、僕にはどのくらい羨ましかつたかわからない。途中で、僕は、誰にも会わなかつた。上にたどり着いて、部屋の戸をノックしたが、返事がなかつた。エーミールはいなかつたのだ。ドアのハンドルを回してみると、入り口は開いていることがわかつた。

せめて例のちようを見たいと、僕は中に入った。そしてすぐに、エーミールが収集をしまつてある二つの大きな箱を手に取つた。

(中略)^②

ずつとすばらしく、僕を見つめた。それを見ると、この宝を手に入れたいという、逆らいがたい欲望を感じて、僕は、生まれて初めて盜みを犯した。僕は、ピンをそつと引っ張つた。ちようは、もう乾いていたので、形はくずれなかつた。僕は、それをてのひらにのせて、エーミールの部屋から持ち出した。そのとき、さしすめ僕は、大きな満足感のほか何も感じていなかつた。

ちようを右手に隠して、僕は階段を下りた。そのときだ。下の方から誰か僕の方に上がつてくるのが聞こえた。^④その瞬間に、僕の良心は目覚めた。僕は突然、自分は盜みをした、下劣なやつだということを悟つた。同時に、見つかりはしないか、という恐ろしい不安に襲われて、僕は、本能的に、獲物を隠していた手を上着のポケットにつつ込んだ。ゆっくりと僕は歩き続けたが、大それた恥ずべきことをしたといふ、冷たい気持ちに震えていた。

心情変化のきっかけ

物語や小説では、なにかをきっかけに人物の心情が大きく変化することがある。

- ・ 大きな満足感
 - ← 誰かが下から上がつてくるのが聞こえた
 - ・ 自分が盗みをした下劣なやつだということを悟つた
 - ・ 見つかりはしないか、という恐ろしい不安
 - ・ 大それた恥ずべきことをしたといふ、冷たい気持ち

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) —線①「それ」が表す内容を選びなさい。

ア クジャクヤママユを持っていること。
イ 先生の息子であること。
ウ 自分の部屋を持つていてこと。

(4) —線④「僕の良心は目覚めた」とあるが、良心に目覚めた「僕」の心情に合うように、次の()に当てはまる言葉を本文中から探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし、句読点も一字に含む。

(A・十五字) ということを悟り、誰かに(B・十九字)に襲われた。

ア 体言止め イ 倒置 ^{とうち} ウ 直喩 ^{ちょくゆ} エ 擬人法 ^{ぎじんぽう}

(2)

—線②「四つの大きな不思議な斑点が……僕を見つめた」とあるが、ここで使われている表現技法を選びなさい。

(3) —線③「僕は……持ち出した」とあるが、この時の「僕」の気持ちとして適当なものを選びなさい。

ア クジャクヤママユを手に入れたことへの満足感。
イ クジャクヤママユを持っているエーミールへの妬み。
ウ 見つかりはしないかという不安。
エ 耻ずべきことをしたという冷たい気持ち。

B	A

少年の日の思い出(4)

ヘルマン・ヘッセ
高橋 健二 訳

すぐに僕は、このちょうを持つていいことはできない、持つていてはならない、元に返して、できるなら、何事もなかつたようにしておかなければならぬ、と悟つた。そこで、人に出くわして見つかりはないかということを極度に恐れながらも、^① 急いで引き返し、階段を駆け上がり、一分の後には、またエーミールの部屋の中に立っていた。

僕は、ポケットから手を出し、^② ちようを机の上に置いた。それをよく見ないうちに、僕はもう、どんな不幸が起こつたかということを知つた。そして、泣かんばかりだった。クジヤクヤママユはつぶれてしまつたのだ。(中略)

盗みをしたという気持ちより、自分がつぶしてしまつた、美しい、珍しいちようを見ているほうが、僕の心を苦しめた。^③ 微妙などび色がかつた羽の粉が、自分の指にくつついでいるのを見た。また、ばらばらになつた羽がそこに転がっているのを見た。それをすっかり元どおりにすることができたら、僕は、どんな持ち物でも楽しみでも、喜んで投げ出したろう。

^④ 悲しい気持ちで、僕は家に帰り、夕方まで、うちの小さい庭の中で腰掛けていたが、ついに、一切を母に打ち明ける勇気を起こした。

「僕」の罪の告白

「僕」は、人に見つからないようにちようを戻し、何事もなかつたかのようにしようとしていた。しかしクジヤクヤママユをつぶしてしまい、母に一切を打ち明けることになる。

・「僕」は盗んだクジヤクヤママユを戻そうとした。

しかし、クジヤクヤママユはつぶれてしまつていた

※盗みをしたことより、美しい、珍しいちようをつぶしてしまつたことが僕の心を苦しめた。

・家に帰り、勇気を出して母に一切を打ち明けることにした

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) —線①「急いで引き返し」とあるが、なぜ急いで引き返したのか。適当なものを選びなさい。

ア 気づかれないうちにクジャクヤママユを元の場所に戻そ

うと
ア 気づかれないうちにクジャクヤママユを元の場所に戻そ
うと
ア 思ったから。

イ このままクジャクヤママユを持っていては、いつかつぶしてしま
うだろうと考えたから。

ウ 盗みを犯したことを、エーミールに早く謝罪しようと思つたか
ら。

(2) —線②「不幸」とは何か。次から選びなさい。

ア クジャクヤママユを盗んでしまったこと。

イ クジャクヤママユを盗んだことを人に知られたこと。

ウ クジャクヤママユがつぶれてしまったこと。

エ クジャクヤママユを机の上に置いたこと。

(3) —線③「微妙などび色……見た」とあるが、これはどういうことを表しているか。適当なものを選びなさい。

ア クジャクヤママユの美しさに、「僕」が見とれていること。
クジャクヤママユを盗んだことに、「僕」が初めて気づいたこと。

イ クジャクヤママユをどうやって修復するか、「僕」が考えをめぐらせていること。

ウ クジャクヤママユをつぶしてしまったという現実に、「僕」が悲しみにくれていること。

(4) —線④「悲しい気持ち」とあるが、「僕」はどのようなことを悲しんでいるのか。適当なものを選びなさい。

ア クジャクヤママユを盗み、つぶしてしまったこと。

イ クジャクヤママユをつぶしてしまい、エーミールにきらわれてしまふかもしれないこと。

ウ 苦労して盗んだクジャクヤママユが、結局は自分のものにならなかつたこと。

エ 自分の罪を、母に打ち明けなければならぬこと。

少年の日の思い出(5)

ヘルマン・ヘッセ
高橋 健二 訳

(「僕」は、母からエーミールのところに行くように言われ、エーミールを訪ねました。エーミールはクジャクヤママユを直そうとしているところでした。)

しかし、それは直すよしもなかつた。触角もやはりなくなつていった。そこで、それは僕がやつたのだ、と言い、詳しく話し、説明しようとした。

すると、エーミールは、激したり、僕をどなりつけたりなどはしないで、低く「ちえつ」と舌を鳴らし、しばらくじつと僕を見つめていたが、それから、「そうか、そうか、つまり君はそんなやつなんだな。」と言つた。

僕は、彼に、僕のおもちゃをみんなやる、と言つた。それでも、彼は冷淡に構え、依然僕をただ軽蔑的に見つめていたので、僕は、自分のちようの収集を全部やる、と言つた。しかし、彼は、

「結構だよ。僕は、君の集めたやつはもう知つている。そのうえ、今日また、君がちようをどんなに取り扱つてあるか、ということを見ることができたさ。」

そのとき、初めて僕は、一度起きたことは、もう償いのできないものだということを悟った。僕は立ち去つた。母が根掘り葉掘りきこうとしないで、僕にキスだけして、構わずにいてくれたことをうれしく思つた。僕は、「どこにお入り。」と言われた。僕にとつてはもう遅い時刻だつた。だが、その前に、僕は、そつと食堂に行つて、大きなとび色の厚紙の箱を取つてき、それを寝台の上にのせ、闇の中で開いた。そして、ちようを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまつた。

その瞬間、僕は、すんでのところであいつの喉笛に飛びかかるところだつた。もうどうにもしようがなかつた。僕は悪漢だということに決まつてしまい、エーミールは、まるで世界のおきてを代表でもするかのように、冷然と、正義を盾に、あなどるよう^{あが}に僕の前に立つていた。彼は罵りさえしなかつた。ただ僕を眺めて、軽蔑していた。

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (1) 「僕」の視点から見たエーミールの態度を表す言葉として、適当なものを選びなさい。

ア 冷淡 イ 罷り ウ 悪漢 エ 依然

〔 〕

- (2) — 線①「もうどうにもしようがなかつた」とあるが、これはどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア クジャクヤママユの触角がなくなつてしまい、直しようがなかつたということ。

イ クジャクヤママユを^{ねず}盜んだことが知られてしまい、隠しようがなかつたということ。

ウ エーミールにちようの収集の受け取りを断られてしまい、うめ合せのしようがなかつたということ。

エ エーミールが正義で、自分が悪だということに決まっててしまい、どうすることもできなかつたということ。

〔 〕

- (3) エーミールへの謝罪を通じて「僕」が理解したことを、解答欄に合うように、本文中から二十字以上二十五字以内で書きぬきなさい。

ということ。

- (4) — 線②「ちようを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまつた」とあるが、このときの「僕」の様子として適当なものを選びなさい。

ア ちようをつぶしてしまうことで、エーミールに対する償いをしようとしている。

イ ちようの扱い方を否定されたことに腹が立ち、ちよう集めにいや気がさしている。

ウ 取り返しのつかないあやまちを^{おか}犯したことに対し、自らを罰^ばし、けじめをつけようとしている。

エ つまらないことで友情を台なしにしてしまい、ちように対する興味を失ってしまっている。

〔 〕

少年の日の思い出(6)

ヘルマン・ヘッセ
高橋健二 訳

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

過去(回想 語り手 = 「僕(友人・彼・客)」)	現在(語り手 = 「私」)
「僕」が十歳ぐらいの頃	
ちよう集めのとりこになつた「僕」	「私」の書斎で、「私は友人(彼・客)にちようの収集を見せた。
十歳ぐらいの頃、ちよう集めのとりこになつた。 (今でもあの熱情を感じる。)	友人は少年の日の思い出を語り始めた。 ↓ 友人はちよう集めの思い出が不愉快そうだった。
エーミールにコムラサキを見せた出来事	友人は少年の日の思い出を語り始めた。
・「僕」から見たエーミール 非の打ちどころがないという悪徳をもつていた。 あらゆる点で模範少年だった。	「私」の書斎で、「私は友人(彼・客)にちようの収集を見せた。
・「僕」のエーミールへの思い エーミールを妬み、嘆賞しながら憎んでいた。 エーミールにこつひどい批評を受け、二度とちようを見せなかつた。	ちよう集めのとりこになつた「僕」

過去(回想 語り手 = 「僕(友人・彼・客)」)	クジヤクヤママユを盗む「僕」
「僕」が十二歳ぐらいの頃	
エーミールへの謝罪	エーミールがクジヤクヤママユをさなぎからかえしたといううわさを聞いた。
母に一切を打ち明け、エーミールに謝罪した。	← すっかり興奮し、エーミールの部屋に行つた。
エーミールは冷然と、正義を盾に、あなどるよう立つていた。	生まれて初めての盜み…大きな満足感のほか何も感じていなかつた。
「一度起きたことは、もう償いのできないものだ」と悟つた。	良心に目覚め、不安に襲われる「僕」
家に帰り、ちようを一つ一つ人々に押しつぶしてしまつた。	自分は盗みをした、下劣なやつだと悟つた。 見つかりはしないか、という恐ろしい不安に襲われた。 クジヤクヤママユを戻そっとしたが、つぶれてしまつていた。

確認テスト

教科書本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) 本文を前半（現在）と後半（回想）に分けたとき、前半の語り手は誰か。適当なものを選びなさい。

ア 「彼」 イ 「客」 ウ 「僕」 エ 「私」

】 】

(2) 次の各文を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア 珍しいコムラサキをどうえた「僕」は、それをエーミールに見せた。
 イ エーミールのもとから立ち去った「僕」は、家に帰るところを押しつぶしてしまった。
 ウ 「僕」は母に一切を打ち明け、エーミールのところに謝罪に行つた。

】 ↓ ↓ ↓

(3) 次の各文を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア 「僕」は、「一度起きたことは、もう償いのできないものだ」と悟った。
 イ 「僕」はエーミールがクジャクヤママユをさなぎからかえしたといううわさを聞いた。
 ウ 「僕」はエーミールにコムラサキを見せたが、こっぴどい批評を受けてしまった。

】 ↓ ↓ ↓

(4) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 「私」は客にちようの収集を見せてもらつた。
 イ 「僕」は誰かに見つかりはしないかと不安に襲われながらクジャクヤママユを盗んだ。
 ウ 良心が目覚めた「僕」は、その瞬間、一度起きたことは償いができないと悟った。
 エ 謝罪をしようとする「僕」にとって、エーミールの態度は冷淡れいたんなものだった。

】

文法への扉3 単語の性質を見つけよう (1)

自立語・付属語

単語は、単独で文節を作ることができるかどうかによって、自立語と付属語に分けられる。

自立語：単独で文節を作ることができる単語。

※その単語だけで言葉のイメージが浮かぶ。

付属語：単独では文節を作れず、自立語の後に付いて使われる単語。

※その単語だけではイメージが浮かばない。

強い 自立語 / 風 自立語 が 付属語 / ふき 自立語 まし 付属語 た付属語

文節の初めは必ず自立語で、一つの文節には自立語が一つだけ含まれる。付属語は文節に含まれないこともあり、また、一文節に複数の付属語が含まれることもある。

※自立語の単語と付属語の単語

自立語：動詞・形容詞・形容動詞・名詞

副詞・連体詞・接続詞・感動詞

付属語：助詞・助動詞

活用の有無

活用：文中で、言葉の組み合わせに応じて単語の形が変化すること。

(例) 話す → 話します 話します → 話しました

単語は、活用するものと活用しないものの二つに分けられる。

※活用する単語と活用しない単語

活用する
自立語：動詞・形容詞・形容動詞
付属語：助動詞

活用しない
自立語：名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞
付属語：助詞

単語の性質を見つけよう(1)

(1) 次の文を文節に分け、斜線(／)で区切りなさい。

楽しい夕食が終わると、私は寝る準備をした。

(4) 次の中から、——線部が付属語のものを選びなさい。

ア 頬をしっかりと洗う。

イ 解答についてくわしく説明する。

ウ 物思いにふける。

エ 青空を見上げる。

(2) 次の文を単語に分け、斜線(／)で区切りなさい。

楽しい夕食が終わると、私は寝る準備をした。

(3) 次の中から、付属語の説明として正しいものを選びなさい。

ア 単独で文節を作ることができる。

イ 文節の初めに必ずくる。

ウ 一文節に必ず一つだけある。

エ 一文節にいくつがあることもある。

(5) 次の文の()に入るよう、「早い」を正しい形に直しなさい。

今朝は早いぶん()起きた。

(6) 次の中から、活用するものを選びなさい。

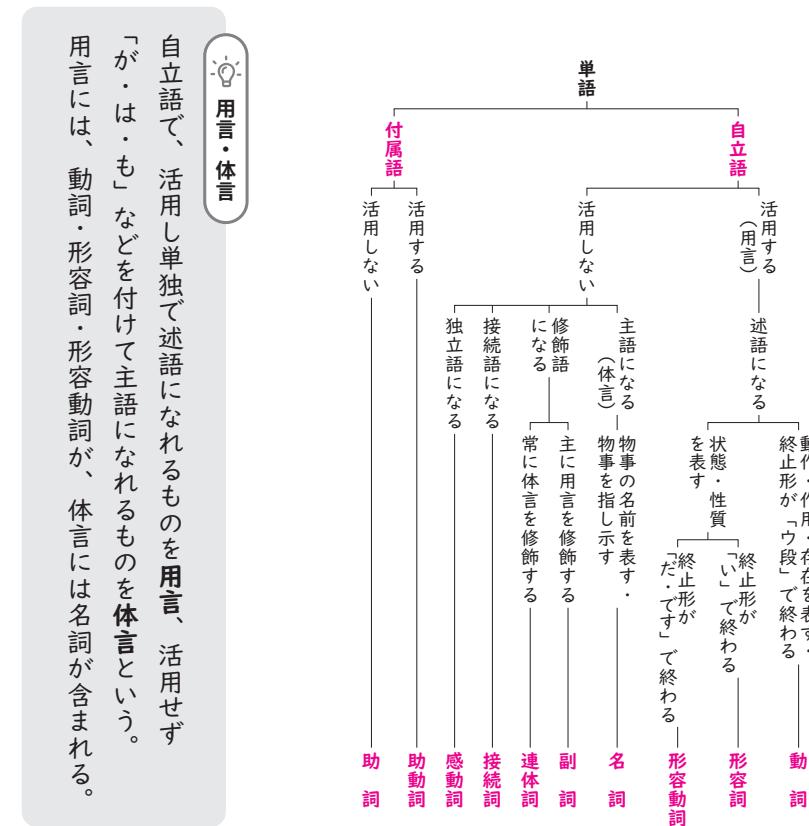
ア 走る **イ** だから **ウ** ゆっくり

エ 空

文法への扉3 単語の性質を見つけよう (2)

品詞

単語を分類したものを**品詞**という。単語は10種類の品詞に分けられる。



動詞・形容詞・形容動詞

動詞・形容詞・形容動詞は活用する自立語で、単独で述語になることができる。

(例) 書く (動詞)・美しい (形容詞)・きれいだ (形容動詞)
※活用の例: 話す → 話さない

名詞

名詞は活用しない自立語で、「が・は・も」などを付けて主語になることができる。

(例) 花・空

副詞・連体詞

副詞は活用しない自立語で、主に連用修飾語になる。

(例) ゆっくり歩く。 とても暑い。

用言・体言

自立語で、活用し単独で述語になれるものを**用言**、活用せぬ
「が・は・も」などを付けて主語になれるものを**体言**とい
う。用言には、動詞・形容詞・形容動詞が、体言には名詞が含まれる。

(例) この本 小さな子猫

連体詞は活用しない自立語で、常に連体修飾語になる。

(例) ゆっくり歩く。 とても暑い。

接続詞・感動詞

接続詞は活用しない自立語で、接続語になる。前後の文や語をつなぐ。

(例) 暑い。だから、水を飲もう。

感動詞は活用しない自立語で、独立語になる。感動・呼びかけ・応答を表す。

(例) うん、そうするよ。

助詞・助動詞

付属語は、活用しない**助詞**と活用する**助動詞**に分けられる。

確認テスト

(1) 次の中から、用言ではないものを選びなさい。

ア 動詞 イ 名詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞

(2) 次の中から、——線部が副詞ではないものを選びなさい。

ア いきなり走り出す。
今年の夏はとても暑かった。
イ ウ エ それはこの本を読めば分かる。
もっと早くやるべきだった。

(3) 次の中から、——線部が連体詞ではないものを選びなさい。

ア イイ 大きな夢が実現した。
ウ エ あの山は富士山です。
エ それはおかしな話だ。

(4) 次の中から、——線部が接続詞ではないものを選びなさい。

ア 兄はテニスが得意だ。そのうえ、ピアノもひける。
イ あの人は母の妹です。つまり私の叔母になります。
ウ マンガを読み終えた。ああ、面白かった。
エ かなり歩いた。しかし、まだ着かない。

隨筆二編

工藤直子

空

北陸の山奥に住んだのは、小さい頃からの憧れであつた雪のそばにいたかったせいかかもしれない。二十数軒という小さな集落の中の空き家を借りて住んでいた。

①最初の冬である。軒までの雪に埋もれて過ごしていたのだが、ある日、外に出ると、一面に小雪が舞つていて。一面の雪なのに、辺りが妙に明るい。^{なまう}なんか変だなど、ふと空を見上げると——そこには、灰色の重たい雲はなく、抜けるように青い空があつた。

ああ、これが「風花」というものか！私は、雪を浴びながら空を見上げていた。深く濃い冬の青空が、真っ白な雪を生み出しているとしか思えない。後から後から、雪は見えない高みで生まれ、際限もなくひらひら・ひらひらと舞い下りてくるのである。目が回るようだ。雪の白さに引き立てられて、空の青さは、いよいよ濃い。私は、こんな美しい「青空」を見たことがなかつた。

筆者が、経験や見聞きしたことをもとに、考えたことや感想を自由に記したものを作成する。

※隨筆の構成

経験・見聞きしたこと・事実



感想・考えたこと……主題が含まれる

隨筆を読むときは、考えたことや感想が書かれている部分から、筆者が特に伝えたい思い（主題）を読み取る。

確認テスト

本文を読んで、問い合わせに答えなさい。

(1) ——線①「最初の冬」を具体的に説明した次の文の解答欄に当てはまる言葉を、本文中から書きぬきなさい。

にある二十数軒という

に、空き家を借りて住み始めてか

ら初めての冬。

(3) ——線③「雪を浴びながら空を見上げていた」とあるが、空を見上げた筆者が感じたこととして適当なものを選びなさい。

ア 青空が、真っ白な雪を生み出しているように感じた。

イ 灰色の雲から、白い雪が際限もなく舞い下りるよう感じた。

ウ 雪が、見えない山奥で生まれ、風で運ばれてくるよう感じた。

エ 周りに積もっている雪が、花びらのように感じた。

(4) 本文の主題として適当なものを見出せ。

ア 軒まで埋もれるほど雪が降る雪国の気候に対する驚き。

イ 小さい頃からの憧れであつた「風花」を見たことへの満足感。

ウ 真っ白な雪に引き立てられた青空の美しさに対する感動。

エ 際限なく小雪が舞い下りる光景に出会ったことへの喜び。

(2) ——線②「なんか変だな」とあるが、何が変なのか。適當なものを見出せ。

ア 家が軒まで雪に埋もれてしまっていること。

イ 外に出ると一面に小雪が舞っていたこと。

ウ 雪が舞っているのに辺りが明るいこと。

エ 初めて「風花」を見ることができたこと。

〔 〕

言葉3 さまざまな表現技法 (1)

表現技法

言葉の使い方、並べ方を工夫することで、印象的な表現にしたり、言葉にリズムをもたせたりすることができます。

比喩

ある物事を、似たところのある別の物事を使って表現することを**比喩（たとえ）**といいます。比喩は二つのものの間の類似点に着目した表現である。

① **直喩**…「まるで……」「……ようだ」などの言葉を使ってたとえる表現技法。

- ・山のような宿題。
- ・滝みたいな雨。

② **隱喩**…「まるで……」「……ようだ」などの言葉を使わずたとえる表現技法。

- ・人生は旅だ。

③ **擬人法**…人でないものを人に見立てる表現技法。

- ・看板が右に行けと言っていた。
- ・なんだか車の機嫌が悪い。

さまざまな表現技法(1)

(1) 次の文の（　）に当てはまる言葉を選びなさい。

「まるで……」「……ようだ」のような、比喩であることを表す言葉を使わずにたとえる表現技法を（　）という。

ア 直喩 イ 隠喩 ウ 擬人法

ア 直喩 イ 隠喩 ウ 擬人法

外で風が騒いでいる。

(2) 次の文の（　）に当てはまる言葉を選びなさい。

人でないものを人に見立てて表現する技法を（　）という。

ア 直喩 イ 隠喩 ウ 擬人法

〔〕

〔〕

〔〕

(4) 次の文で用いられている表現技法を選びなさい。

まるで雪のように白いうさぎ。

ア 直喩 イ 隠喩 ウ 擬人法

えがお
笑顔は人と人との間の橋だ。

ア 直喩 イ 隠喩 ウ 擬人法

〔〕

〔〕

〔〕

言葉3 さまざまな表現技法(2)

体言止め

文末を体言（名詞）で止める表現技法。

引き締まつた印象を与える、余韻を残したりする効果がある。

- なんと美しい景色。（体言）
- 柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺（体言）
（正岡子規）

倒置

普通の言葉の並べ方から、語順を入れ替える表現技法。

主に後に置かれた言葉が強調される。

- どこまでも行こう。（普通の語順）
- 行こう、どこまでも。（倒置）

対句

言葉を、形や意味が対応するように並べる表現技法。

言葉にリズムを生む。

- 前を見れば虎が。後ろを見れば狼が。
- 兎追いし かの山 小鮒釣りし かの川

（高野辰之
「故郷」より）

反復

同じ言葉を繰り返す表現技法。

リズムが生まれ、言葉が強調される。

- 桜が散る。どんどん散る。吹雪のよう^{ふぶき}に散る。

省略

文章や言葉を途中で止め、後の言葉を省く表現技法。

読者に省略した部分を自由に想像させる余地を残す。

- 「またいつか。」彼女はそう言い残し去っていった。

さまざまな表現技法(2)

(1) 次の中から体言止めではないものを選びなさい。

ア ぱっかりと浮かんだ白い雲。

イ おーいと呼ばれて振り向く私。

ウ 流れていくよ、桜の花びらが。

エ 窓から見える真っ青な空。

(2) 次の中から倒置についての説明を選びなさい。

ア 語順を入れ替える表現技法。

イ 文末を体言で止める表現技法。

ウ 言葉を省く表現技法。

エ 同じ言葉を繰り返す表現技法。

(3) 次の中から対句の表現技法が使われているものとして最も適当なものを選びなさい。

ア かすかに聞こえる波の音。

イ 青い空が広がり、白い雲が流れれる。

ウ 歩いても、歩いてもたどり着かない。

エ 川が流れる、ゆっくりと。

(4) 反復の表現技法の効果として、最も適当なものを選びなさい。

ア 言葉にリズムが生まれ、繰り返されている内容が強調される。
言葉を省くことで、読み手に自由に想像させる余地を残す。

イ 主に後に置かれた言葉が強調される。

ウ 引き締まった印象を生んだり、余韻を残したりする。

漢字3 漢字の成り立ち

漢字の成り立ち

漢字の成り立ちには、象形・指事・会意・形声などがある。

象形…物の形をかたどって表す。

(例) 山・月

指事…概念や事柄を、記号や印で表す。

(例) 上・本

会意…象形文字や指事文字を組み合わせて新しい意味を表す。

(例) 休 (人+木 人が木によつてやすむ)

看 (手+目 手をかざして見る)

形声…意味を表す部分 (意符) と、音を表す部分 (音符) を組み合

わせる。

(例) 銅 (意符 「金」 + 音符 「同」)

泳 (意符 「永」 + 音符 「永」)

※音符も意味を表す場合が多く、辞典によつては会意形声と分類することもある。

漢字の成り立ち

象形・指事・会意・形声という漢字の作り方に、漢字の使い方を説明する転注・仮借を加えて六書といふ。

転注…漢字のものとの意味が広がつて、他の意味にも使われる。

(例) 楽 (もとは「音楽」という意味だが、音楽を楽しむことから「楽しい」という意味にも使われる。)

仮借…漢字のものとの意味に関わらず、音のみを借りて使われる。

(例) 才 (もとは「生まれつきの能力」という意味だが、「サイ」の音を借りて年齢を表す「歳」の代わりに使われる。)

※漢字の中には日本で独自に作られたものもあり、国字という。

(例) 畑 (火 + 峠 + 勤)

確認テスト

漢字の成り立ち

(1) 次の漢字の成り立ちをそれぞれ選びなさい。

- ① 花 ② 二 ③ 明 ④ 象

- ア 象形 イ 指事 ウ 会意 エ 形声



(2) 次の漢字の成り立ちをそれぞれ選びなさい。

- ① 目 ② 擬 ③ 集 ④ 末

- ア 象形 イ 指事 ウ 会意 エ 形声



(3) 次の成り立ちの漢字をそれぞれ選びなさい。

- ① 象形 ② 指事 ③ 会意 ④ 形声

- ア 米 イ 韻 ウ 下 エ 鳴



(4) 次の成り立ちの漢字をそれぞれ選びなさい。

- ① 象形 ② 指事 ③ 会意 ④ 形声

- ア 悲 イ 林 ウ 川 エ 三



(5) 次の——線部の漢字をそれぞれ書きなさい。

- ③ ② ①
コウ 外へ住む。
コウ 果がある。



さくらの はなびら

まど・みちお

さくらの はなびら まど・みちお

えだを はなれて
ひとひら

さくらの はなびらが
じめんに たどりついた

いま おわったのだ

そして はじまたのだ
ひとつのこと
さくらに とつて
いや ちきゅうに とつて
うちゅうに とつて

あたりまえすぎる
ひとつのこと
かけがえのない
ひとつのことが

「さくらの はなびら」の表現技法と主題

表現技法

- 倒置^{とうち}：普通^{ふつう}の言葉の並べ方から、語順を入れ替える。主に後に置かれた言葉が強調される。
- 反復^{ひふく}：同じ言葉を繰り返す。言葉にリズムが生まれ、強調される。
- 対句^{たいく}：言葉を、形や意味が対応するように並べる。言葉にリズムが生まれ、整然とした印象を与える。

主題

あたりまえすぎる「ひとつのこと」も、地球、そして、宇宙の営みの中で何ものにも代えがたい、かけがえのない瞬間^{しゅんかん}である。

確認テスト

詩を読んで、問い合わせに答えなさい。

- (1) 次の文の（ ）に入る言葉を選びなさい。

普通の言い方と語順を入れ替える表現技法を（ ）という。

ア 省略 イ 体言止め ウ 倒置 エ 擬人法^{ぎじんぽう}



- (2) 詩の中で、反復の表現技法で強調しているものを選びなさい。

ア えだを はなれて イ さくらの
ウ いま おわったのだ エ ひとつのことが



- (3) 線部「あたりまえすぎる／ひとつのことが」と対句になつて
ている連を書きぬきなさい。



- (4) 詩でうたわれている内容として適当なものを見出せ。

ア 桜の花びらが枝から地面に落ちたのは、春のおわりを感じさせる出来事である。

イ 桜の花びらが枝から地面に落ちたのは、宇宙にとっても、あるひとつの出来事である。

ウ 桜の花びらが枝から地面に落ちたのは、いつもどおりのあたりまえのことすぎない。



重要語句一覧

シンシユン

口数	しかめる	切りだす	ちがいない	……に	うつとうしい	意味
例文	意味	例文	意味	例文	意味	意味

今日の彼は口数が少ない。
かれ

ものを言う回数。ことばかず。

痛みで顔をしかめる。

苦痛や不快のために、眉の辺りにしわを寄せる。

それまで黙っていた友人が、話を切りだした。

思い切って話し始める。

このメンバーなら優勝できるにちがいない。

……に決まっている。

前髪が伸びてうつとうしい。

目障りでうるさい。わずらわしい。

……にもまして	照れくさい	情けない	気まずい	意味
例文	意味	類義語	意味	意味

商店街は、以前にもましてにぎやかになつた。

……よりもっと。……以上に。

非きまりが悪い・気恥ずかしい

何となく恥ずかしい。きまりが悪い。

何をやっても中途半端な自分が情けない。

みじめに感じさせるさま。ふがない。

話すことがらなく、気まずい沈黙が続いた。

相手と気持ちが合わず、気詰まりである。

ダイコンは大きな根？

重要語句一覧

化学反応	細胞	いっぽう	
		例文	意味
水素と酸素が化学反応を起こすと水になる。	植物の細胞には、細胞膜の外側に細胞壁がある。	生物体の構造上、機能上の基本単位。	もう一つのほうについて言うと。 地方では人口が減少している。いっぽう、都心では人口の増加による問題が起っている。

ちょっと立ち止まって

……がち	意識	背景	消え去る	……にすぎない
彼は集合時刻に遅れがちだ。	物事に気づくこと。また、気にかけること。	海を背景にして写真を撮る。	過ぎ去る…その場を通り過ぎて行ってしまう。 立ち去る…立ってその場を去る。 忘れる…すっかり忘れ、全く思い出さない。	……以上のものではない。ただ……であるだけである。 これは個人的な意見にすぎない。

比喩で広がる言葉の世界

大人になれた弟たちに……：

重要語句一覧

い うかがい知れな い		激 烈		尽 くす		思 い描 く		思 い浮かべる	
例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味
彼の思いは、表情からはうかがい知れない。	外面向きな様子からは状況を見て取ることができない。	激しい痛みが襲う。	激しい痛みが襲う。	成功のために全力を尽くす。	極めて激しいさま。	あるだけ全部を出しきる。	思い描いたどおりの結果になった。	恩師の顔を思い浮かべる。	心の中に描く。

……なり		はるばる		とうてい		おちおち		真っ最中	
例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味	関連語	意味
兄は食事が終わるなり、ゲームを始めた。	……するとすぐに。	友人がはるばる遠くから会いに来てくれた。	距離などが非常に遠くなっているさま。	私はとうてい理解できない。	(後に打ち消しの語を伴って) どうしても。どうやってみても。	心配で、おちおち寝ていられない。	(後に打ち消しの語を伴って) 落ち着いて。安心して。	真っ赤：非常に赤いこと。 真っ暗：なにも見えないほど暗いこと。 真っ先：一番初めてのこと。	物事が最も盛んに行われているとき。

桃源郷									
例文	意味	例文	意味	類義語	意味	関連語	意味	例文	意味
子供の頃、ひもじい思いをした。	ひどく空腹である。 看護師にみとられる。	そばで看病する。また、病人の死期に付き添う。	・特有・独自・固有	ある特徴をそのものだけがもつていること。	胸が痛む・悲しみなどでつらく思う。 胸がいっぱいになる・ある感情で心が満たされる。 胸を打つ・強く感動させる。	胸を彈ませる	喜びや期待で心がうきうきする。	たどり着いた場所はまさに桃源郷だった。	世俗を離れた別世界。理想郷。

星の花が降る「」に

高じる									
例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味
泣いているどころを見られ、きまりが悪い。	体裁が悪く、恥ずかしい。その場を取り繕うこと ができず、恥ずかしい。	急な出来事にとまどった。	どうしてよいかわからず迷う、まごつく。	泣いている子どもをなだめる。	気持ちを落ち着かせる。静める。	つまらないことで意地を張る。	自分の思いを頑固に押し通そうとする。	相手の真意を誤解していた。	意味を取り違えること。間違って理解すること。

重要語句一覧

にじむ	意外	なじむ	輪郭	織細				
例文 額に汗がにじむ。 (液体が)うつすら染み出て広がる。	意味 ・案外	例文 思っていたことと違うこと。思いのほか。	意味 新しい猫もすっかりわが家になじんだ。	例文 慣れ親しむ。よく慣れて違和感がなくなる。	意味 顔の輪郭を描く。	例文 物の外形を形作っている線。	意味 彼は織細な性格だ。	意味 感情などが細やかで少しのことを感じやすいこと。

またたく	首をかしげる		
例文 夜空に星がまたたく。	意味 首を縦に振る…相手に同意・賛成の意を示す。 首を横に振る…相手に不賛成・不満の意を示す。 首をひねる…納得できず疑問に思う。どうすれば よいかと考え込む。	関連語 光がちらちらする。	意味 不思議、疑わしいなどの思いで首をかたむける。

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ

重要語句一覧

仮説		分析		けたたましい		転機		耳を澄ます		分布	
例文	意味	例文	意味	類義語	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味
仮説を立てたうえで実験に取り組む。	ある現象を説明するために仮に立てた説。	ある現象を説明するために仮に立てた説。	成分を分析する。	物事をいくつかの要素に分け、性質や構造を明らかにすること。	物事をいくつかの要素に分け、性質や構造を明らかにすること。	人生の転機を迎える。	急に驚くような大きな音がするさま。	他の状態に変わるきっかけ。	鳥のさえずりに耳を澄ます。	聞きとろうとして注意を集中する。	動植物などがある範囲に存在すること。

実証		解釈		思わず		検証		定義	
例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味
理論が正しいことを実証する。	事実をもとにして証明すること。	歌詞の意味を自分なりに解釈する。	物事の内容や意味を解き明かすこと。また、それを理解したり、説明したりすること。	美しい風景に、思わず足をとめた。	そのつもりではないのに無意識に。	自分の考えが正しいかどうか検証する。	実験や観察の結果と照らし合わせて、仮説の真偽を確かめること。	二等辺三角形を定義する。	ある物事の内容や意味を、言葉で明確に限定すること。

「不便」の価値を見つめ直す

見過ぎ		確かに、……しかし、……		複雜		追求		けげん	
関連語	意味	例文	対義語	意味	例文	意味	例文	意味	
見落とす・見のがす・見誤る…見方を間違える。見て他のものと間違う。	確かに、効率化も必要である。しかし、それによって失われるものにも目を向けるべきである。 見ていいながら気づかないでいる。	確かに、効率化も必要である。しかし、それによつて失われるものにも目を向けるべきである。	↑単純	物事の事情が入り組んで、込み入っていること。	真の幸福を追求する。	目的のものを得ようと、どこまでも追い求めるこ	質問の意図がわからず、けげんな顔をする。	理由や事情がわからず、納得がいかないさま。	

負担		実践		普及		バリアフリー		具体的		一般に	
例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味	対義語	意味	例文	意味
この仕事は肉体的にも精神的にも負担が大きい。	仕事や責任などを引き受けること。また、課せられた仕事、義務、責任など。	学んだことを実践する。	考えたことを実際にを行うこと。	スマートフォンが普及する。	広く行き渡ること。	この施設はバリアフリーの考え方に基づいて段差をなくしている。	多様な人が社会に参加する上での障壁（バリア）をなくすこと。	↑抽象的	はつきりとわかる形や内容を備えているさま。	一般に、書き言葉では共通語が用いられる。	大体においては。普通は。

少年の日の思い出

重要語句一覧

打ち込む	けがす	熱情 (的)	たちまち	よみがえる	色あせる						
例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味
中学校の三年間、吹奏楽に打ち込んだ。	ある事に集中する。熱中する。	美しい思い出をけがす。	美しいもの、清らかなものをよごす。	熱情的な演奏が心に響いた。	ある物事に向けられる燃えるような激しい感情。	うわさはたちまち町中に広がった。	またたく間に。すぐに。	突然十年前の記憶がよみがえった。	衰えたものが、また盛んになる。元に戻る。	昔の思い出が色あせる。	色がさめる。色合いが薄くなる。鮮やかさが失われ、美しさや新鮮さがなくなる。

あいにく	悪徳	がない	非の打ちどころ	微妙	むさぼる	身にしみる					
例文	意味	対義語	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味
友人を訪ねたが、あいにく不在だった。	期待にはずれており、具合が悪いさま。	↑美德	道徳に反する悪い心や行い。	彼女の演奏は非の打ちどころがない。	非難するところがない。欠点が全くない。	類義語でも使い方に微妙な違いがある。	簡単には言い表せないほど細かく、複雑なさま。	むさぼるように本を読んだ。	いくらでも欲しがる。飽きることなく続ける。	友人の優しい言葉が身にしみた。	しみじみと深く感じる。

重要語句一覧

									良心
									善悪をわきまえ、正しく行動しようとするとする心。
しのぶ	告白	下劣	下ばかり						

例文

恥をしのんでお願いする。

意味

じつと我慢する。こらえる。

関連語

白状…自分の罪や隠し事を申し立てること。
独白…相手なしに、一人で語ること。
表白…言葉や文章に表して述べること。

意味

思っていたことや秘密にしていたことを打ち明けること。

例文

泣かんばかりの表情になった。

意味

今にも……しそうである。

例文

そういう下劣なやり方には賛成できない。
品性が劣っている。下品でいやしい。

例文

すべての裁判官は、良心に従って職務を行う。

意味

善悪をわきまえ、正しく行動しようとするとする心。

……を盾に	冷然	丹念	おそらく						
				……よしもない					
例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味

法律を盾に受け渡しを拒否する。

所として。

……を理由に、口実に。……を自分の立場の拗り

彼は申し出を冷然と無視した。

冷然

丹念

丹念

おそらく

たぶん。おかげだ。

明日はおそらく雪になるだろう。

細かいことまで注意をはらうこと。心を込めて丁寧に行なうさま。

部屋の中を丹念に調べる。

……するための手段や方法がない。

彼の思いは知るよしもない。

思いやりや関心がなく、冷ややかなこと。

彼は私に対して冷淡な態度で接してきた。

冷ややかで平然としているさま。

彼は申し出を冷然と無視した。

しのぶ

告白

下劣

良心

根掘り葉掘り	あなどる		
意味	例文	意味	
細かい点までしつこく。 根も葉もない：なんの根拠もない。 根を下ろす：草木が根づく。また、あるものが定着する。 根を張る：草木が根を十分にのばす。また、あるものが社会に浸透する。勢力が広がる。	少數だからと、敵をあなどってはいけない。	人を軽くみてばかにする。	

隨筆二編

晴れやかだ		せわしい		至福		引き立つ		際限		憧れ	
例文	意味	例文	意味	類義語	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味
大勢の参加者で、晴れやかな祝賀会となつた。	晴れわたっているさま。はなやかなさま。	せわしく呼吸を繰り返す。	絶え間なく速い調子なさま。	・至幸	この上ない幸福。	黒い背景で白が引き立つ。	一段とよく見える。ひときわよく感じる。	争いが際限なく続いている。	物事の状態の最後のところ。きり。はて。	あの人は私にとって憧れの存在だ。	理想とする人やものに強く心が引かされること。

写真

参考文献

アフロ

小学館『新編日本古典文学全集』

[×モ]

[×モ]

©RECRUIT

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。